

Fujitsu Tablet ARROWS Tab

ARROWS Tab Q7311/JB

ARROWS Tab Q7311/JE

製品ガイド

(機種別編)

本書をお読みになる前に

1 各部名称

2 取り扱い

3 周辺機器

4 お手入れ

5 仕様

目次

本書をお読みになる前に	6
安全にお使いいただくために	6
本書の表記	6
Windowsの操作	8
BIOSやドライバーのアップデートについて	9
ハードディスクの暗号化について	10
商標および著作権について	10
第1章 各部名称	
1.1 タブレット本体表面	12
1.2 タブレット本体右側面	14
1.3 タブレット本体左側面	15
1.4 タブレット本体裏面	16
1.5 キーボード	17
1.6 スリムキーボード	19
1.7 スタンド	21
第2章 取り扱い	
2.1 フラットポイント	23
2.1.1 注意事項	23
2.1.2 基本操作	23
2.1.3 フラットポイントの設定を変更する	24
2.1.4 フラットポイントの有効／無効を切り替える	26
2.2 マウス	27
2.2.1 注意事項	27
2.2.2 マウスの基本設定を変更する	27
2.3 タッチパネル	28
2.3.1 注意事項	28
2.3.2 ペンを充電する	30
2.3.3 基本操作	31
2.3.4 文字を入力する	32
2.3.5 ペン先を交換する	33
2.4 ディスプレイ	34
2.4.1 注意事項	34
2.4.2 明るさを調整する	34
2.4.3 解像度を変更する	35

2.5	マルチディスプレイ機能	36
2.5.1	マルチディスプレイ機能とは	36
2.5.2	注意事項	36
2.5.3	マルチディスプレイ機能を設定する	37
2.6	画面表示の回転	38
2.6.1	手動で画面表示の向きを変える	38
2.6.2	状態が変わったときの動作を設定する	39
2.7	サウンド	40
2.7.1	全体の再生音量を調節する	40
2.7.2	アプリごとの再生音量を調節する	41
2.7.3	機器や項目ごとの音量を調節する	41
2.7.4	オーディオ端子の機能を切り替える	43
2.7.5	既定のオーディオ機器を選択する	43
2.7.6	スピーカーの音質を調節する	44
2.8	省電力	46
2.8.1	省電力状態	46
2.8.2	電源を切る	48
2.8.3	本タブレットの節電機能	49
2.8.4	省電力設定	49
2.8.5	バッテリーの電源モード	51
2.8.6	Standby Energy Saver	52
2.9	バッテリー	55
2.9.1	注意事項	55
2.9.2	バッテリーを充電する	58
2.9.3	バッテリーの残量を確認する	58
2.9.4	バッテリーの充電モードを変更する	59
2.9.5	バッテリーの状態を確認する	60
2.10	通信	61
2.10.1	有線LAN	61
2.10.2	無線LAN	62
2.10.3	無線WAN	62
2.10.4	Bluetoothワイヤレステクノロジー	63
2.10.5	無線通信機能の電波を発信する／停止する	63
2.11	ダイレクト・メモリスロット	65
2.11.1	注意事項	65
2.11.2	使用できるメモリーカード	65
2.11.3	メモリーカードをセットする	66
2.11.4	メモリーカードを取り出す	67
2.12	暗号化機能付フラッシュメモリディスク	68
2.13	セキュリティチップ（TPM）	69

2.14	USB Type-C 充電・給電ユーティリティ	70
2.14.1	注意事項	70
2.14.2	USB Type-C 充電・給電ユーティリティの設定を変更する	70
2.15	Windows Hello	72
2.15.1	Windows Helloを使って顔認識でサインインする	72
2.15.2	Windows Helloを使って指紋認証でサインインする	76
2.16	防水性能	81
2.16.1	防水性能でできること	81
2.16.2	防水性能を維持するために	82
2.16.3	防水性能をお使いになるうえでの注意	83
2.16.4	充電のときの注意	83
第3章	周辺機器	
3.1	周辺機器を取り付ける前に	85
3.1.1	注意事項	85
3.2	スリムキーボード	86
3.2.1	注意事項	86
3.2.2	スリムキーボードを取り付ける	89
3.2.3	スリムキーボードを取り外す	90
3.2.4	ブラシを交換する	91
3.3	スタンド	93
3.3.1	注意事項	93
3.3.2	スタンドを取り付ける	93
3.3.3	スタンドを取り外す	94
3.4	nanoSIMカード	95
3.4.1	注意事項	95
3.4.2	nanoSIMカードをセットする	96
3.4.3	nanoSIMカードを取り出す	97
3.5	コネクタの接続／取り外し	98
3.5.1	注意事項	98
3.5.2	ディスプレイコネクタ	98
3.5.3	USBコネクタ	99
3.5.4	オーディオ端子	100
3.5.5	LANコネクタ	100
第4章	お手入れ	
4.1	日常のお手入れ	102
4.1.1	タブレット本体、スリムキーボードの表面の汚れ	102
4.1.2	指紋センサー	102
4.1.3	液晶ディスプレイ／タッチパネル	103

第5章 仕様

5.1	本体仕様	105
5.1.1	ARROWS Tab Q7311/JB	106
5.1.2	ARROWS Tab Q7311/JE	112
5.2	CPU	118
5.3	ディスプレイ	119
5.3.1	シングル表示／拡張デスクトップ表示の解像度	119
5.3.2	クローン表示の解像度	121
5.4	無線LAN	122

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくために

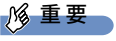

本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が『取扱説明書』に記載されています。特に、「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。

本書の表記

本書の内容は2022年5月現在のものです。お問い合わせ先やURLなどが変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」へお問い合わせください。詳しくは、『取扱説明書』をご覧ください。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになるときの注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】 + 【F3】キー、【Shift】 + 【↑】キーなど

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：コントロールパネルの「システムとセキュリティ」をタップし、「システム」をタップし、「デバイス マネージャー」をタップする操作

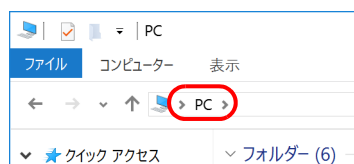
↓

「システムとセキュリティ」→「システム」の「デバイス マネージャー」の順にタップします。

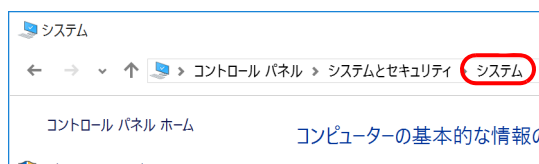
■ ウィンドウ名の表記

本文中のウィンドウ名は、アドレスバーの最後に表示されている名称を表記しています。

例：



「PC」ウィンドウ



「システム」ウィンドウ

■ 画面例およびイラスト

本文中の画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、イラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略したり形状を簡略化したりしていることがあります。

■ 周辺機器の使用

本文中の操作手順において、DVDなどを使用することがあります。

操作に必要なドライブなどが搭載されていないモデルをお使いの場合は、必要に応じて別売の周辺機器を用意してください。

使用できる周辺機器については、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」(https://jp.fujitsu.com/platform/pc/product/catalog_syskou/)をご覧ください。

また、使用方法については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

■ 本文に記載している仕様とお使いの機種との相違

ご購入時の構成によっては、本文中の説明がお使いの機種の仕様と異なる場合があります。あらかじめご了承ください。

なお、本文内において書き分けがある箇所については、お使いの機種の情報をお読みください。

■ 「ポートリプリケータ」について

本タブレットは、別売のポートリプリケータ（USB Type-C接続）に対応しています。

ポートリプリケータ（USB Type-C接続）については、ポートリプリケータに添付のマニュアルをご覧ください。

■ 製品名の表記

本文中では、製品名称を次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記		
Windows 11 Pro 64ビット版	Windows 11 Pro	Windows 11	Windows
Windows 11 Pro 64ビット版 (Windows 10 Pro プリインストールにダウングレード)	Windows 10 Pro	Windows 10	
Bluetooth®	Bluetooth		
FUJITSU Security Solution AuthConductor™ Client Basic	AuthConductor Client Basic		

Windowsの操作

■ クイック設定（Windows 11）／アクションセンター（Windows 10）

アプリからの通知を表示する他、タップすることで画面の明るさ設定や通信機能の状態などを設定できるアイコンが表示されます。

□ Windows 11の場合

- 1 通知領域にある  をタップします。
画面右側に「クイック設定」が表示されます。

□ Windows 10の場合

- 1 画面の右端を左方向に、画面の外から中へスワイプします。
画面右側に「アクションセンター」が表示されます。

■ 「コントロールパネル」 ウィンドウ

次の手順で「コントロールパネル」ウィンドウを表示させてください。

□ Windows 11の場合

- 1 「スタート」ボタン→「すべてのアプリ」→「Windows ツール」の順にタップし、「コントロールパネル」をダブルタップします。

□ Windows 10の場合

- 1 「スタート」ボタン→「Windows システム ツール」→「コントロールパネル」の順にタップします。

■ Windowsのヒント

本書で説明されていないWindowsの機能については、次の操作で表示されるWindowsのヒントをご覧ください。

Windowsのヒントのご利用は、ネットワークに接続する必要があります。

□ Windows 11の場合

- 1 「スタート」ボタン→「すべてのアプリ」→「ヒント」をタップします。

□ Windows 10の場合



- 1 「スタート」ボタン→「ヒント」をタップします。

■ ユーザーアカウント制御

本書で説明しているWindowsの操作の途中で、「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示される場合があります。これは、重要な操作や管理者の権限が必要な操作の前にWindowsが表示しているものです。表示されるメッセージに従って操作してください。

■ 通知領域のアイコン

通知領域にすべてのアイコンが表示されていない場合があります。

表示されていないアイコンを一時的に表示するには、通知領域の  または  をタップします。


■ Windows モビリティセンター

本タブレットのいくつかの機能は、「Windows モビリティセンター」で操作できます。

「Windows モビリティセンター」は次の操作で起動します。

- 1 「スタート」ボタンを右タップ（長押し）し、「モビリティセンター」をクリックします。

POINT

- ▶ 次の操作でも「Windows モビリティセンター」を表示できます。
 - ・ Windows 10の場合、通知領域の「電源」アイコン（）を右タップ（長押し）する表示されたメニューから「モビリティセンター」をタップします。

BIOSやドライバーのアップデートについて

本タブレットには、さまざまなアプリや周辺機器の接続／制御に必要なBIOS、ドライバーなどが搭載されています。

これらのアプリ、BIOS、ドライバーに対して、アップデートプログラムが提供されることがあります。

アップデートプログラムには、次のような内容が含まれています。

- 機能の向上、追加
- 操作性の向上
- 品質改善

本タブレットをより快適にお使いいただくために、常に最新版のBIOSやドライバーを適用してください。

アップデート方法については、弊社アップデートサイト（https://www.fmworld.net/biz/fmv/index_down.html）をご覧ください。

POINT

- ▶ 本タブレットには、インターネットを経由して、ドライバーやアプリの更新プログラムの有無を定期的にチェックして通知する「アップデートナビ」が搭載されています。『製品ガイド（共通編）』の「1章 アプリ」—「1.1.3 サポート関連のアプリ」をご覧ください。

ハードディスクの暗号化について

次の場合は、「デバイスの暗号化」機能により、本タブレット搭載のフラッシュメモリディスクが自動的に暗号化されることがあります。

- Microsoft アカウントでタブレットにサインインしている場合
- Azure Active Directory アカウントまたは組織（職場／学校）アカウントでタブレットにサインインしている場合

暗号化されたフラッシュメモリディスクを修理した場合や修理によりハードウェア情報が更新された場合、タブレット起動時に「回復キー」の入力を求められます。

「回復キー」を入力しないとタブレットを起動することができないため、次の手順で事前に「回復キー」を確認し、なくさないように保管してください

- 1 「コントロールパネル」ウィンドウ（→P.8）を表示します。
- 2 「システムとセキュリティ」→「BitLocker ドライブ暗号化」の順にタップします。
- 3 「BitLocker ドライブ暗号化」画面の「回復キーのバックアップ」をタップします。
- 4 表示されたメニューから「ファイルに保存する」または「回復キーを印刷する」を選択し保管します。

POINT

- ▶ 事前に「回復キー」を保管していない場合は、マイクロソフト社のホームページで確認することができます。次のURLにサインインしてください。
 - ・ Microsoft アカウントを利用している場合
<http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=237614>
 - ・ Azure Active Directory アカウントを利用している場合
<https://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=857635>

商標および著作権について

Intel、インテル、Intel ロゴ、Intel Core、Intel vPro、Celeron、Thunderbolt、Thunderbolt ロゴは、アメリカ合衆国および/またはその他の国における Intel Corporation の商標です。

Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。富士通株式会社は使用許諾の下でこれらのマークおよびロゴを使用しています。

HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface という語、HDMI のトレードドレスおよび HDMI のロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc. の商標または登録商標です。



MaxxAudio は、Waves Audio Ltd. の米国およびその他の国における登録商標です。

SDXC ロゴは SD-3C, LLC. の商標です。 

「Xi」、FOMA および「Xi」ロゴは、株式会社 NTT ドコモの商標または登録商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

その他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

Copyright Fujitsu Limited 2022

本タブレットは、VCCI 自主規制措置運用規程に基づく技術基準に適合した文言、またはマークを画面に電子的に表示しています。表示の操作方法は、『製品ガイド（共通編）』の「付録3 認定および準拠について」をご覧ください。

1

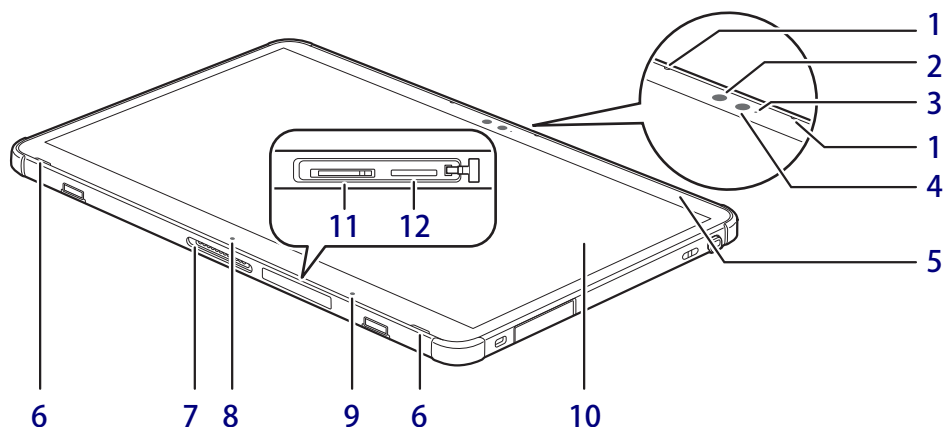
第1章

各部名称

各部の名称と働きについて説明しています。

1.1	タブレット本体表面	12
1.2	タブレット本体右側面	14
1.3	タブレット本体左側面	15
1.4	タブレット本体裏面	16
1.5	キーボード	17
1.6	スリムキーボード	19
1.7	スタンド	21

1.1 タブレット本体表面



1 内蔵マイク

音声通話や録音ができます。

2 フロントWebカメラ

自分を撮影するときなどに使います。

重要

- ▶ カスタムメイドの選択によっては、顔認証対応Webカメラが搭載されます。タブレットやWindowsの起動時などに顔認証によるセキュリティを設定できます。詳しくは、「2.15 Windows Hello」(→P.72)およびAuthConductor Client Basicのマニュアルをご覧ください。

3 フロントWebカメラ状態表示LED

フロントWebカメラが動作しているときに点灯します。

4 顔認証用赤外線発光部

カスタムメイドで顔認証対応Webカメラを選択した場合に搭載されます。顔認証利用時に赤外線を発光します。

5 電源ランプ

本タブレットの状態を表示します。

LED表示	タブレット本体の状態
白色点灯	動作状態
白色点滅	スリープ状態 ^注
消灯	電源オフまたは休止状態

注：スリープ(→P.46)中は、一部の機能は動作します。また、動作状況によりLEDランプが点滅ではなく点灯となる場合があります。

6 スピーカー

7 ドッキングコネクタ

スリムキーボードを接続します。(→P.86)

8 位置合わせマーク

スリムキーボードに接続およびスタンドに設置するときに、位置を合わせます。

9 照度センサー

重要

- ▶ 照度センサーが周囲の明るさを検知します。照度センサーをテープやシールなどでふさがないでください。

10 液晶ディスプレイ／タッチパネル

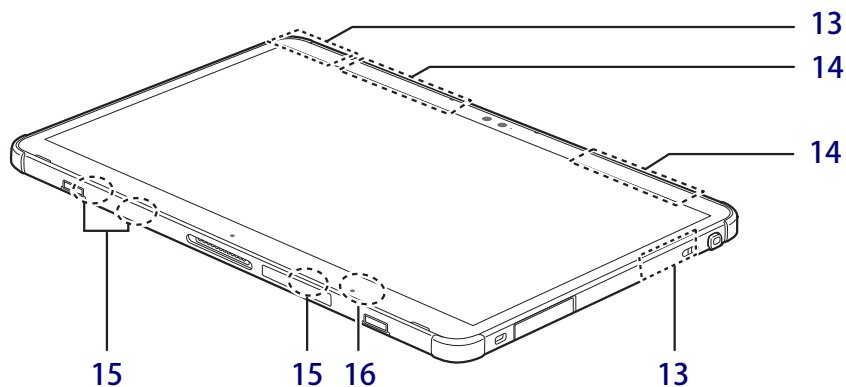
(→P.34) / (→P.28)

11 nanoSIMカードスロット

(無線WAN搭載機種)
(→P.95)

12 microSD ダイレクト・メモリースロット

microSDメモリーカードを差し込みます。
(→P.65)



13 ワイヤレスアンテナ

無線LAN・Bluetoothワイヤレステクノロジー兼用のアンテナが内蔵されています。

14 無線WANアンテナ

（無線WAN搭載機種）

無線WANのアンテナが内蔵されています。

15 検知用磁石

スリムキーボードの接続を検知します。

重要

- ▶ タブレット本体に心臓ペースメーカーや磁気カードなど、磁気の影響を受けやすいものは近づけないでください。故障やデータ消失などのおそれがあります。

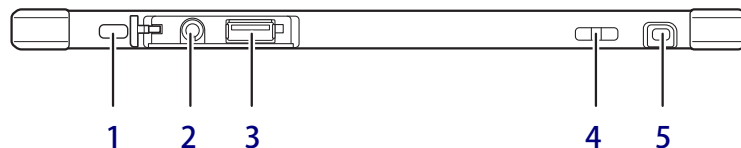
16 フォリオカバー／スリムキーボード開閉検知用センサー

タブレット本体とフォリオカバーおよびスリムキーボードを取り付けて閉じたときに、センサーが検知して画面が消えます。

重要

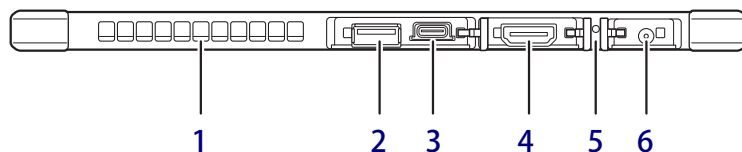
- ▶ 磁石を近づけると画面が消えるので、センサー周辺（タブレット本体裏面含む）には磁石を近づけないでください。

1.2 タブレット本体右側面



- 1** **盗難防止用ロック取り付け穴**
盗難防止用ケーブルを取り付けます。
弊社がお勧めするワイヤーロック／盗難防止用品については、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」(https://jp.fujitsu.com/platform/pc/product/catalog_syskou/)をご覧ください。
- 2** **マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子**
(→P.100)
- 3** **USB 2.0 Type-A コネクタ**
(→P.99)
- 4** **ペンひも取り付け用穴**
- 5** **ペンホルダー（ペン）**
専用ペンを格納します。
POINT
▶ 専用ペンについて
ARROWS Tab Q7311/JEは、標準添付されます。
ARROWS Tab Q7311/JBは、カスタムメイドで選択した場合に添付されます。

1.3 タブレット本体左側面



1 排気孔

タブレット本体内部の熱を外部に逃がします。

2 USB 3.2 (Gen1) Type-A コネクタ

(→P.99)

3 USB Type-C コネクタ

Thunderbolt™ 4が搭載されています。

(→P.99)

POINT

- ▶ USB Power Deliveryに対応しています (→P.70)。仕様については「5.1 本体仕様」(→P.105)をご覧ください。
- ▶ 別売のポートリプリケータ (USB Type-C接続) に対応しています。ポートリプリケータ (USB Type-C接続) をお使いになる前には、必ず最新のドライバーを適用してください。最新のドライバーは、富士通製品情報ページ内にある「ドライバダウンロード」(https://www.fmworld.net/biz/fmv/index_down.html) よりダウンロードしてください。

4 HDMI HDMI出力端子

(→P.98)

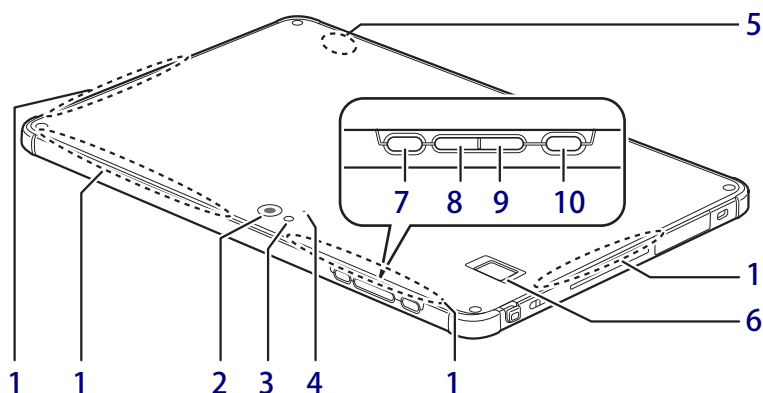
5 バッテリー充電ランプ

(→P.58)

6 DC-IN コネクタ

添付のACアダプタを接続します。

1.4 タブレット本体裏面



1 吸気孔

タブレット本体の冷却のため外気を取り込みます。吸気孔を塞がないでください。十分な冷却ができず本体機能低下の原因となります。

2 リアWebカメラ

3 リアWebカメラ用ライト

静止画や動画を撮影するときに使用します。

4 リアWebカメラ状態表示LED

リアWebカメラが動作しているときに点灯します。

5 通信用アンテナ

通信用アンテナにテープやシールを貼り付けないでください。

6 指紋センサー

（指紋センサー搭載機種）

タブレットやWindowsの起動時などに指紋認証によるセキュリティを設定できます。詳しくは、「2.15 Windows Hello」（→P.72）およびAuthConductor Client Basicのマニュアルをご覧ください。

7 --- ショートカットボタン

ボタンを押すと次のアプリが起動します。

- ARROWS Tab Q7311/JBの場合：
「Function Manager」を起動
- ARROWS Tab Q7311/JEの場合：
「Function Manager – QRコードリーダー」を起動

8 ボリュームダウンボタン（-）

音量を小さくします。（→P.40）

9 ボリュームアップボタン（+）

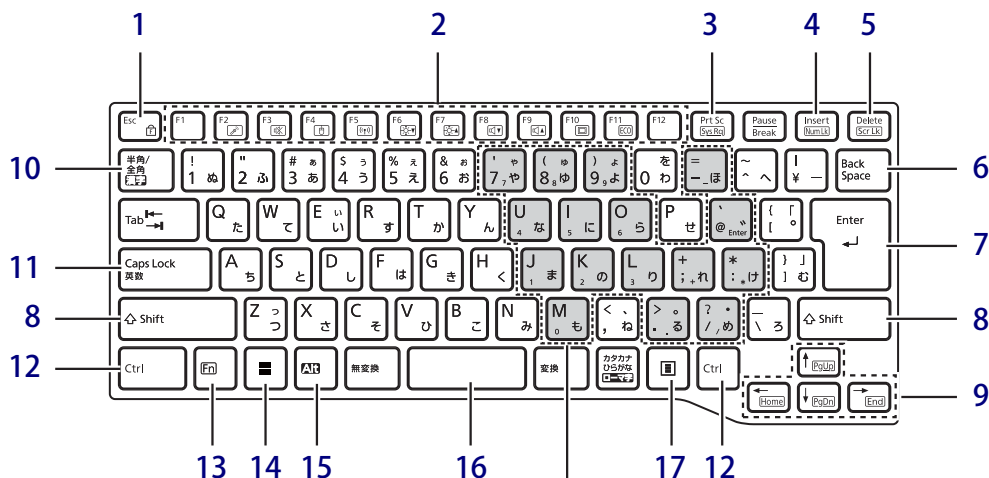
音量を大きくします。（→P.40）

10 電源ボタン

タブレット本体の電源を入れたり、省電力状態（→P.46）にしたりします。

1.5 キーボード

対象 スリムキーボード使用時



[グレー部分]
テンキーになるキー（→P.18）

1 【Esc/⎵】キー

- このキーだけを押しすと、現在の作業を取り消します。
- F Lock機能（**Fn**）
【Fn】キー（→P.18）を押しながらこのキーを押すごとに、F Lock機能の有効／無効を切り替えます。
F Lock機能を有効にすると、【Fn】キーを押さずにファンクションキーを押すだけで、ホットキー（→P.17）の機能を使用できます。

重要

- F Lock機能の有効／無効は、「Function Key Lock Utility」でも切り替えることができます。
- F Lock機能は、Windowsが起動している場合のみ使用できます。
Windows起動前およびBIOSセットアップでは、F Lock機能は使用できません。




2 ファンクションキー／ホットキー

- ファンクションキー（【F1】～【F12】）
アプリごとにいろいろな機能が割り当てられています。
- ホットキー（枠で囲われている刻印）
【Fn】キー（→P.18）を押しながら使用したい機能のキーを押します。
各キーの機能は次のとおりです。

POINT

- F Lock機能（→P.17）が有効の場合は、【Fn】キーを押さずにホットキーだけを押しします。

	マイクのオン／オフを切り替える
	スピーカーやヘッドホンのオン／オフを切り替える（→P.40）
	フラットポイントの有効と無効を切り替える（→P.26）
	無線通信の電波の発信／停止を切り替える
	液晶ディスプレイを暗くする（→P.34）
	液晶ディスプレイを明るくする（→P.34）

	音量を小さくする（→P.40）
	音量を大きくする（→P.40）
	外部ディスプレイを接続した場合に、液晶ディスプレイと外部ディスプレイで表示先を切り替える
ECO	バッテリー設定の画面を表示する

3 【Prt Sc】キー

画面に表示されている内容を画像としてコピーできます。

4 【Insert】キー／【Num Lk】キー

【Insert】キー	入力する文字の挿入／上書きを切り替える
【Num Lk】キー	テンキーモード（→P.18）のオン／オフを切り替える 【Fn】キーと組み合わせて使う

5 【Delete】キー／【Scr Lk】キー

【Delete】キー	カーソルの右側にある1文字を削除する
【Scr Lk】キー	【Fn】キーと組み合わせて使う

6 【Back Space】キー

7 【Enter】キー

8 【Shift】キー

9 カーソルキー

矢印の方向にカーソルを移動します。
また、【Fn】キーを押しながらカーソルキーを押すと、次の機能を使用できます。

【←/Home】	カーソルを行の最初に移動する
【Ctrl】＋ 【←/Home】	文章の最初に移動する
【↑/Pg Up】	前の画面に切り替える
【↓/Pg Dn】	次の画面に切り替える

10 【半角／全角】キー

日本語入力のオン／オフを切り替えます。

11 【Caps Lock】キー

【Shift】キーを押しながらこのキーを押して、アルファベットの大文字／小文字を切り替えます。

12 【Ctrl】キー

13 【Fn】キー

【Fn】キーを押しながら、ファンクションキー（→P.17）のうち枠で囲われている刻印のあるキー（ホットキー）を押すと、それぞれのキーに割り当てられた機能を使用できます。

POINT

- ▶ F Lock機能（→P.17）が有効の場合、【Fn】キーを押さずにファンクションキーを押すだけで、ホットキーの機能を使用できます

14 (Windows) キー

「スタート」メニューを表示します。

15 【Alt】キー

16 【Space】キー

文字を入力するときに、空白（スペース）を入力します。

17 (アプリケーション) キー

選択した項目のショートカットメニューを表示します。
マウスなどの右クリックと同じ役割をします。

■ テンキーモード

文字キーの一部をテンキー（数字の入力を容易にするキー配列）として使えるように切り替えた状態のことを「テンキーモード」といいます。【Num Lk】キーを押すと、テンキーモードになります。テンキーモードのときは、状態表示LEDのNum Lockランプが点灯します。テンキーモードで入力できる文字は、各キーの下段に小さい文字で刻印されています。

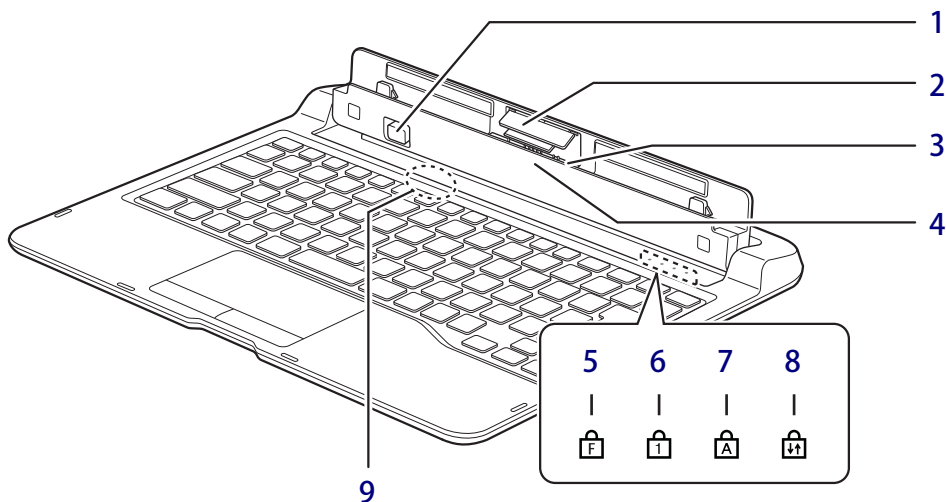
POINT

- ▶ 別売のテンキーボードをタブレット本体に接続して【Num Lk】キーを押すと、テンキーボードのテンキーが有効になり、タブレット本体のテンキーは無効になります。
- ▶ BIOSセットアップの「キーボード／マウス設定」で、「起動時のNumlock設定」を「オン（Fnキー）」に設定すると、【Fn】キーを押しながらタブレット本体のテンキーが使用できるようになります。

1.6 スリムキーボード

対象 スリムキーボード使用時

■ 前面



1 取り外しボタン

タブレット本体をスリムキーボードから取り出す場合に押します。
(→P.90)

2 スリムキーボード用ブラシ

(ARROWS Tab Q7311/JBの場合)

タブレット本体の着脱時に、本体接続コネクタ部の清掃をします。清掃および交換時以外は、ブラシに触らないでください。

3 本体接続コネクタ

タブレット本体を接続します。(→P.89)

4 位置合わせマーク

タブレット本体に接続するときに位置を合わせます。

5 F Lockランプ

F Lock機能(→P.17)が有効のときに点灯します。
点灯時は、【Fn】キーを押さずにファンクションキーを押すだけで、ホットキー(→P.17)の機能を使用できます。

6 Num Lockランプ

キーボードがテンキーモード(→P.18)のときに点灯します。

7 Caps Lockランプ

アルファベットの大文字入力モードのときに点灯します。

8 Scroll Lockランプ

【Fn】+【Scr Lk】キーを押して、スクロールロックの設定と解除を切り替えます。点灯中の動作は、ソフトウェアに依存します。

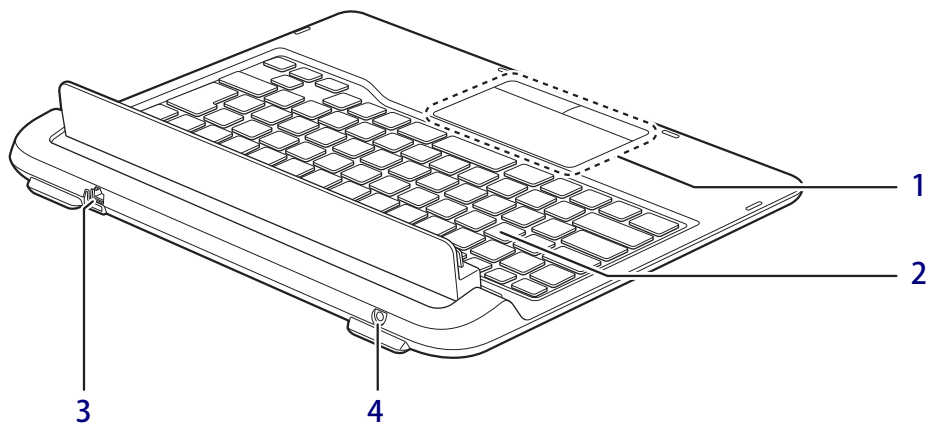
9 スリムキーボード開閉検知用センサー

タブレット本体とスリムキーボードを取り付けて閉じたときに、センサーが検知しキーボードとフラットポイントの操作をオフ(無効)にします。

※重要

- ▶ 磁石を近づけるとキーボードとフラットポイントの操作が無効になります。センサー周辺(スリムキーボード裏面含む)には磁石を近づけないでください。


■ 背面



1 フラットポイント
(→P.23)

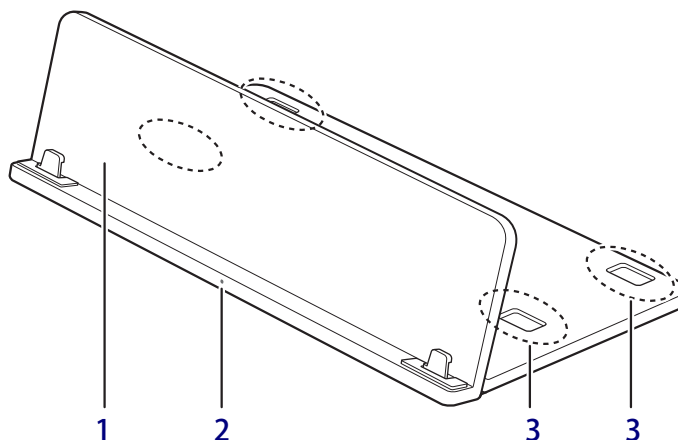
2 キーボード
(→P.17)

3  LANコネクタ
(→P.100)

4  DC-INコネクタ
添付のACアダプタを接続します。

1.7 スタンド

対象 スタンド使用時



1 スタンド部

タブレットを立てかけます。
また、スタンド部を倒すことでスタンドを折りたたむことができます。

重要

- ▶ スタンドの角度を変えるときは、手をはさまないように注意してください。けがおよび故障の原因となります。特に、お子様が近くにいる場合はご注意ください。

2 位置合わせマーク

タブレット本体を取り付けるときに位置を合わせます。（→P.93）

3 ポートリプリケータ設置穴

別売のポートリプリケータ（USB Type-C接続）の底面にある突起を、点線部のポートリプリケータ設置穴（4ヶ所）に合わせ、スタンド背面に設置することができます。

2

第2章

取り扱い

本タブレットを使用するうえでの基本操作や、本タブレットに取り付けられている（取り付け可能な）周辺機器の基本的な取り扱い方について説明しています。

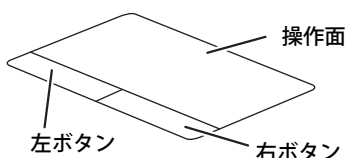
2.1	フラットポイント	23
2.2	マウス	27
2.3	タッチパネル	28
2.4	ディスプレイ	34
2.5	マルチディスプレイ機能	36
2.6	画面表示の回転	38
2.7	サウンド	40
2.8	省電力	46
2.9	バッテリー	55
2.10	通信	61
2.11	ダイレクト・メモリスロット	65
2.12	暗号化機能付フラッシュメモリディスク	68
2.13	セキュリティチップ（TPM）	69
2.14	USB Type-C 充電・給電ユーティリティ	70
2.15	Windows Hello	72
2.16	防水性能	81

2.1 フラットポイント

対象 スリムキーボード使用時

フラットポイントは、指先の操作でマウスポインターを動かすことのできるポインティングデバイスです。

ここでは、フラットポイントの機能について説明しています。



2.1.1 注意事項

- フラットポイントは操作面表面の結露、湿気などにより誤動作することがあります。また、濡れた手や汗をかいた手でお使いになった場合、あるいは操作面の表面が汚れている場合は、マウスポインターが正常に動作しないことがあります。このような場合は、電源を切ってから、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で汚れを拭き取ってください。
- フラットポイントは、その動作原理上、指先の乾燥度などにより、動作に若干の個人差が発生する場合があります。

2.1.2 基本操作

左ボタン／右ボタンを押すと、マウスの左クリック／右クリックの動作をします。

またフラットポイントの操作面を軽く、素早くたたく（タップする）とマウスの左クリックの動作をします。

操作面を指先でなぞると、画面上のマウスポインターが移動します。マウスポインターが操作面の端まで移動した場合は、一度操作面から指を離し、適当な場所に降ろしてからもう一度なぞってください。

POINT



- ▶ 指の先が操作面に接触するように操作してください。指の腹を押さえつけるように操作すると、マウスポインターが正常に動作しないことがあります。

左右のボタンの機能や、マウスポインター、ダブルクリック、スクロールの速度などの設定を変更をする場合は、「2.2.2 マウスの基本設定を変更する」（→P.27）をご覧ください。

2.1.3 フラットポイントの設定を変更する

フラットポイントの設定は、「Windowsの機能」と「Elan スマートパッド」から変更することができます。用途により、設定を行ってください。

■ Windowsの機能で変更する

1 「スタート」ボタン→  または  (設定) の順にタップします。

●Windows 11の場合

1. 「Bluetoothとデバイス」をタップします。

●Windows 10の場合

1. 「デバイス」をタップします。

2 「タッチパッド」をクリックします。

3 各項目で、使いたい機能を設定します。

必要に応じて設定を変更してください。

タッチパッド	フラットポイントのオンとオフを切り替えます。
	マウス接続時のフラットポイントのオン／オフを切り替えます。
	カーソルの速度を変更します。
タップ	キーボード操作時にフラットポイントに触れ誤入力起きるときは、フラットポイントの感度を下げます。
	1本指での操作、2本指での操作を設定します。
スクロールとズーム	2本指でのスクロール、スクロールの方向、ズーム操作を設定します。
3本指ジェスチャの設定	3本指でのスワイプ時の設定、タップ時の設定を行います。
4本指ジェスチャの設定	4本指でのスワイプ時の設定、タップ時の設定を行います。
設定のリセット	タッチパッドの設定、ジェスチャの設定を初期設定に戻します。

POINT

- ▶ 本機能は、使用するアプリやアプリの状態によって、動作が異なったり、お使いになれなかったりすることがあります。


■ Elan スマートパッドで変更する

1 次の操作を行います。

- Windows 11の場合
1. 「スタート」ボタン→「すべてのアプリ」→「ETDProperties」の順にタップします。
- Windows 10の場合
1. 「スタート」ボタン→「ETDProperties」の順にタップします。
「ETDProperties」が表示されます。

2 「デバイス」から「Elan スマートパッド」を選択し、「オプション」をクリックします。 「Elan Smart-Pad」ウィンドウが表示されます。必要に応じて設定を変更してください。

POINT

- ▶ 各項目の右側に表示される （ヘルプ）をクリックすると、各機能の説明が表示されます。

●「基本」タブ ・ エッジスクロール ・ コーナータップゾーン	●「拡張」タブ ・ 回転	●「追加」タブ ・ 感度
---------------------------------------	-----------------	-----------------

重要

- ▶ マウスポインターが勝手に動いてしまう場合
手のひらや袖口がフラットポイントに触れると、マウスポインターが動いてしまうことがあります。次の項目でフラットポイントの感度を変更すると改善できる場合があります。
 - ・ 「追加」タブの「感度」：フラットポイントの感度を調整できます。
 - 「高」側に動かすとタッチ感度が上がり、「低」側に動かすとタッチ感度が下がります。
 - 「低」に調整すると誤反応を防止しやすくなりますが、マウスポインターが動きにくくなる場合があります。その場合、フラットポイントに指を強く押しつけるようにすると、マウスポインターを操作できます。

3 「OK」をクリックします。

4 「はい」をクリックします。

2.1.4 フラットポイントの有効／無効を切り替える

重要

- ▶ フラットポイントを無効にする場合は、必ずUSBマウスを接続してください。

■ キーボードで切り替える



【Fn】 + 【F4】 キーを押すたびに、次のようにフラットポイントの設定が切り替わります。

無効 → 有効

POINT

- ▶ F Lockランプ（→P.19）が点灯している場合はF Lock機能（→P.17）が有効になっているので、【Fn】キーを押さずに【F4】キーを押すだけで切り替わります。
- ▶ フラットポイントの有効／無効の切り替え状態は、画面上に表示されません。

■ デスクトップから切り替える

1 「スタート」ボタン →  または （設定）の順にタップします。



- Windows 11の場合
1. 「Bluetoothとデバイス」をタップします。
- Windows 10の場合
1. 「デバイス」をタップします。

2 「タッチパッド」をタップします。

3 「タッチパッド」のオン／オフを切り替えます

- ・「オン」：フラットポイントを有効にする
- ・「オフ」：フラットポイントを無効にする

POINT

- ▶ マウスとフラットポイントの同時使用
次の操作で、マウスとフラットポイントを同時に使用する設定を変更できます。
 1. 「スタート」ボタン →  または （設定）の順にタップします。
 - Windows 11の場合
1. 「Bluetoothとデバイス」をクリックします。
 - Windows 10の場合
1. 「デバイス」をクリックします。
 2. 「タッチパッド」をタップします。
 3. 「マウスの接続時にタッチパッドをオフにしない」で設定を変更します。
 - ・チェックを付ける：マウスとフラットポイントを同時に使用できません。
 - ・チェックを外す：マウス接続時にフラットポイントが無効になります。

2.2 マウス

対象 マウス使用時



ここでは、マウスの基本設定について説明しています。

2.2.1 注意事項

- 光学式マウスは、マウス底面から赤い光を発しています。レーザー式マウスは、マウス底面から目には見えないレーザー光を発しています。直接目に向けると、目に悪い影響を与えることがありますので避けてください。
- 光学式マウスおよびレーザー式マウスのセンサー部分を汚したり、傷を付けたりしないでください。
- 光学式マウスおよびレーザー式マウスは、次のようなものの表面では、正しく動作しない場合があります。
 - ・ 鏡やガラスなど反射しやすいもの
 - ・ 光沢のあるもの
 - ・ 濃淡のはっきりしたしま模様や柄のもの（木目調など）
 - ・ 網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの
- 光学式マウスおよびレーザー式マウスは、本来はマウスパッドを必要としませんが、マウス本体や傷が付きやすい机、テーブルの傷防止のために、マウスパッドをお使いになることをお勧めします。

2.2.2 マウスの基本設定を変更する

左右のボタンの機能や、マウスポインター、ダブルクリック、スクロールの速度などは、「マウスのプロパティ」で変更できます。

1 「スタート」ボタン→  または  (設定) の順にタップします。

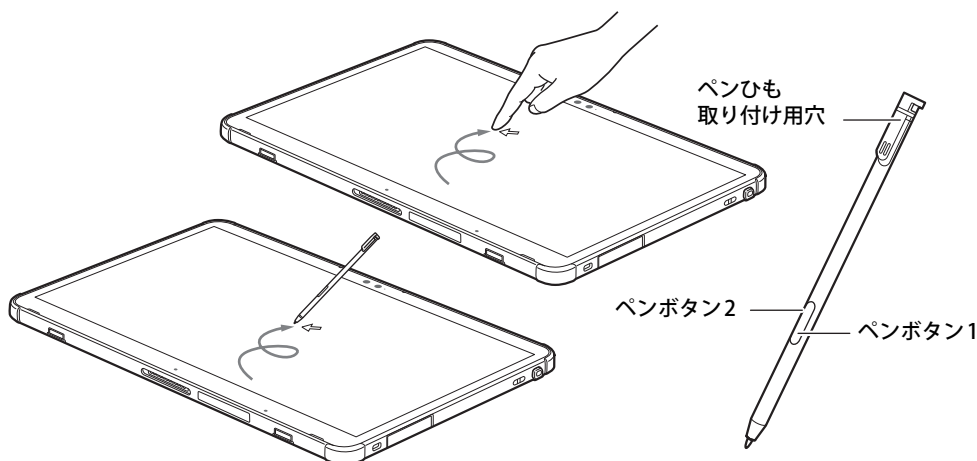
- Windows 11の場合
 - 1. 「Bluetoothとデバイス」をタップします。
- Windows 10の場合
 - 1. 「デバイス」をタップします。

2 「マウス」をタップします。

- Windows 11の場合
 - 1. それぞれの項目で設定を変更します。
- Windows 10の場合
 - 1. 「関連設定」の「その他のマウス オプション」をタップします。
「マウスのプロパティ」が表示されます。
 - 2. それぞれのタブをクリックし、設定を変更します。

2.3 タッチパネル

本タブレットのタッチパネルは、タッチ入力と専用ペンでの入力に対応しています。タッチ入力では指で画面をタッチするだけで、専用ペンでの入力はペンを画面に近づけるだけで、マウスポインターを操作できます。画面上で直接操作できるので、直感的でスピーディな操作が可能です。



POINT

- ▶ 本タブレットのタッチパネルでは、複数箇所を同時にタッチする操作ができます。
- ▶ ペンボタン1とペンボタン2は、ボタンを押さえながらペン先で画面を操作することにより使用できます。
 - ・ ペンボタン1を押しながらタップすると右クリック機能となります。
 - ・ ペンボタン2を押しながら画面に軽く押しつけると消しゴム機能となります。
- ▶ ペンボタン1とペンボタン2は、使用するアプリによって機能が有効にならない場合があります。

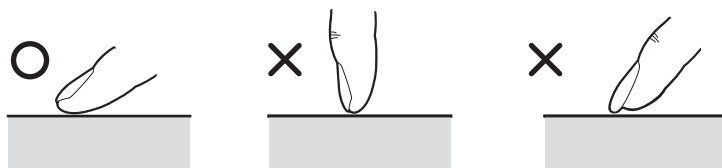
2.3.1 注意事項

- 液晶ディスプレイ（タッチパネル）の表面は指紋が付きにくい加工が施されています。このため、液晶ディスプレイ（タッチパネル）を下にして置くと、滑りやすくなりますので、ご注意ください。
- 液晶ディスプレイ（タッチパネル）の表面をこすると帯電する場合がありますので、ご注意ください。
- 次のようなときに、画面にムラが発生する場合があります。
 - ・ 表示面・天板面にかかわらず、液晶ディスプレイに強い圧力を加えたとき
 - ・ タブレット本体の側面や裏面を押したり、強い圧力を加えたりしたとき
- 本タブレットは防滴に対応していますが、液晶ディスプレイ（タッチパネル）が結露などで濡れた状態では、タッチ機能が正しく動作しない場合があります。水滴を拭き取ってから使用してください。
- 液晶ディスプレイ（タッチパネル）に、ほこりや皮脂が付着していると、タッチ機能が正しく動作しない場合があります。

- アプリによっては、タッチ機能の反応が悪い場合や、タッチ機能に対応していない場合があります。
- スリムキーボード接続時にタッチパネルを操作する場合、片方の手で画面を支えながら操作してください。

■ 指による操作

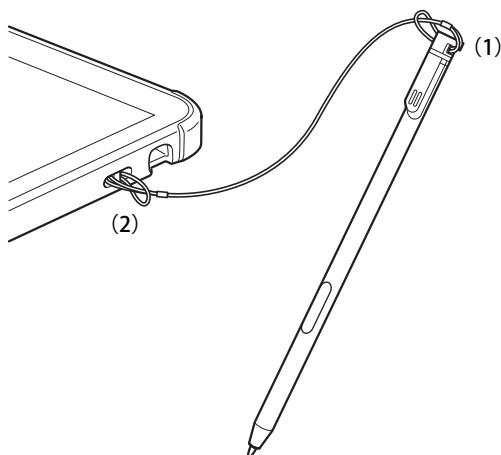
- 画面を強く押さないでください。
- 濡れた手や、指先が汚れた状態で操作しないでください。
- つめや手袋をした指では操作できません。必ず、指の皮膚の部分が画面に触れるようにしてください。



- 同時にペンで操作したり、ペンを手に持って操作したりしないでください。

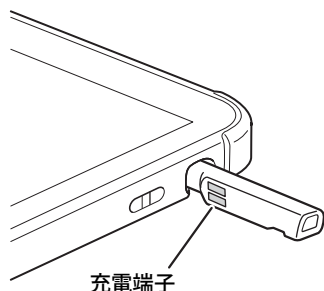
■ ペンによる操作

- 力を入れて画面をなぞる必要はありません。画面に近づけて移動させるだけでマウスポインターを操作できます。
- 必ず添付のペンで操作してください。
- 「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示された場合、一時的にペンが使用なくなることがあります。ペンをいったん画面から放すと、その後は使えるようになります。
- ペン先に強い衝撃を与えないでください。破損の原因となります。
- ペンで画面を押すと、ペン先の周囲に影が発生する場合がありますが、故障ではありません。
- ペンの紛失を防ぐために、必ず添付のペンひもでペンとタブレット本体をつないでください。ペンひもは、必ず (1) ペン側 (2) タブレット本体側の順に取り付けてください。



- ペンを破損したり紛失したりしたときは、本タブレットに対応しているペンをご購入ください。詳しくは、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」(https://jp.fujitsu.com/platform/pc/product/catalog_syskou/) をご覧ください。
- ペンを使用しないときは、ペンホルダーに戻してください。

- ペンをペンホルダーに収納するときは、充電端子の向きを確認し正しく収納してください。誤った向きで挿入すると破損の原因となります。



- ペンをペンホルダーから抜き差しする場合は、まっすぐ抜き差ししてください。斜めに抜き差しすると、専用ペンに傷が付いたり破損の原因となります。また、専用ペンに貼り付けられたラベルがタブレットに引っ掛かる原因となります。

2.3.2 ペンを充電する

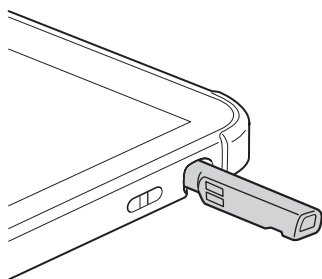
重要

- ▶ ペンは濡らさないでください。また充電端子は汚さないでください。故障の原因となります。
- ▶ ARROWS Tab Q7311/JBは、カスタムメイドで専用ペンを選択した場合のみ、ペンの充電に対応しています。

本タブレットに添付されている専用ペンは充電式です。専用ペンをペンホルダーに収納することで、自動的に充電されます。

15秒の充電で約90分使用することができます。

専用ペンの充電残量が少なくなると、画面にメッセージが表示されます。数分後に専用ペンが使用できなくなりますので、メッセージが表示されたらペンホルダーに挿入して充電してください。

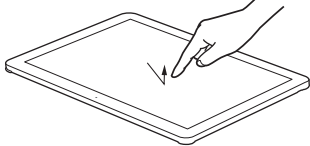
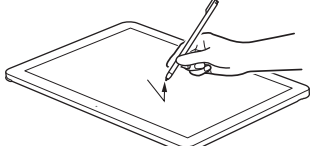
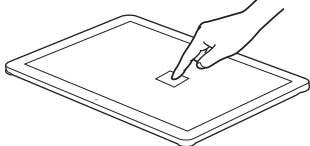
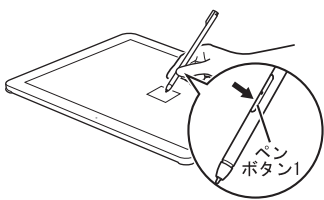
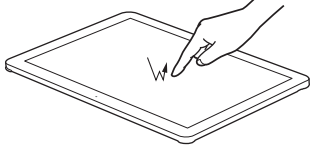
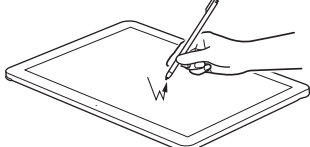
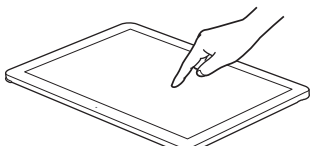

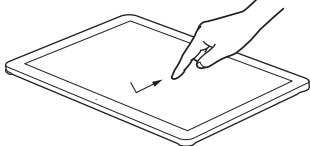
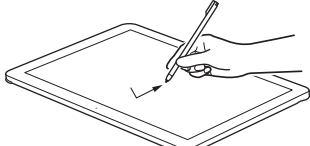


重要

- ▶ 専用ペンは、10分間使用しないと省電力状態になり使用できなくなります。この場合は、次の操作で省電力状態からレジュームしてください。
 - ・ ペン先を軽く押す
 - ・ ペンボタンを押す上記操作を行っても使用できない場合は、充電切れの可能性があります。専用ペンをペンホルダーに収納し充電してください。

2.3.3 基本操作

画面上でタップ（マウスのクリックと同様の操作）する場合は、指またはペン先で操作します。マウスポインターは、画面上をなぞった方向に移動します。

機能	指の操作	ペンの操作
タップ	画面を1回軽くたたきます。 	画面を1回押して離します。 
右タップ	画面を押し、画面に枠が表示されてから指を離します。 	画面を長押しして離します。 ・ペンボタン1を押しながら画面を押し、離しても、右タップになります。 
ダブルタップ	画面を素早く2回連続して軽くたたきます。 	画面を素早く2回連続で押して離します。 
ポイント	画面に軽く触れます。 	画面に近づけるか軽く触れます。 
ドラッグ	画面に軽く押しつけながらなぞります。 	画面に軽く押しつけながらなぞります。 



2.3.4 文字を入力する

キーボードを使わずに文字を入力するには、「タッチ キーボード」を使用します。



■ 注意事項

- Windowsにサインインしていない場合は「タッチ キーボード」は使用できません。

■ 「タッチ キーボード」を使う

「タッチ キーボード」では、手書きパッドおよびタッチ キーボードによる文字の入力ができます。「タッチ キーボード」の表示は、テキスト入力領域をタップまたは、タスクバーの「タッチ キーボード」アイコン（または）をタップします。

POINT

- ▶ 「タッチ キーボード」アイコンが表示されていない場合は、次の操作を行ってください。
 1. タスクバーを右タップします。
 - Windows11の場合
 1. 表示された「タスクバーの設定」をタップします。
 2. 「タッチキーボード」をオンに設定します。
 - Windows10の場合
 1. 「タッチキーボードボタンを表示」をタップします。
タスクバーに「タッチ キーボード」アイコン（または）が表示されます。
 2. 「タッチ キーボード」のアイコンをタップします。
画面に「タッチ キーボード」が表示されます。

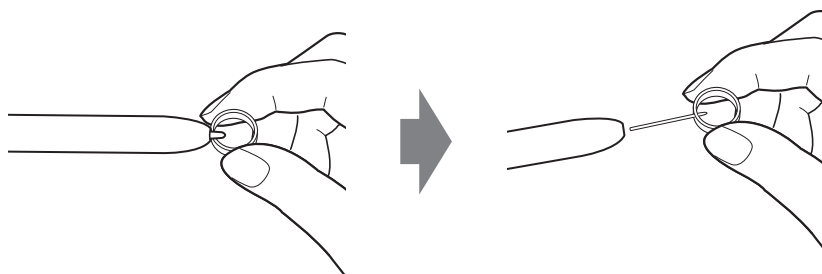
2.3.5 ペン先を交換する

ペン先が破損したり、滑りが悪くなったりしたときは、次の手順に従って新しいペン先と交換してください。

重要

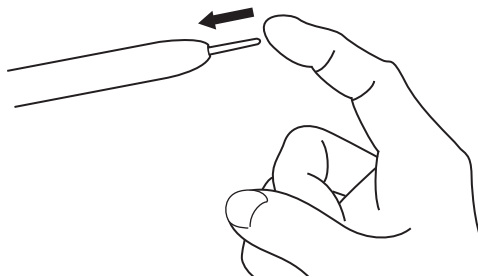
- ▶ ペン先について
別売の交換用ペン先（替え芯）をご購入ください。
詳しくは、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」（https://jp.fujitsu.com/platform/pc/product/catalog_syskou/）をご覧ください。
- ▶ ペン先が曲がるとペン先が常に押された状態になり、誤動作することがあります。この場合は新しいペン先と交換してください。

1 添付のクリップでペン先をはさみ、ペン本体から外れるまでまっすぐ引き抜きます。



2 新しいペン先をペン本体に差し込みます。

ペン先の向きを確かめて、ペン本体の穴にまっすぐ差し込みます。



2.4 ディスプレイ

ここでは、本タブレットの液晶ディスプレイを使う方法について説明しています。複数のディスプレイを使ってマルチディスプレイ機能を使う方法については、「2.5 マルチディスプレイ機能」（→P.36）をご覧ください。

2.4.1 注意事項

- 解像度などを変更するときは一時的に画面が乱れることがありますが、故障ではありません。

2.4.2 明るさを調整する

本タブレットの液晶ディスプレイの明るさは、次の方法で変更できます。

重要

- ▶ ご購入時およびリカバリ後は、ディスプレイの明るさの設定は最大になっていません。暗いと感じる場合などは必要に応じて明るさを調整してください。

■ スライダーで変更する

1 「スタート」ボタン→  または  (設定) → 「システム」の順にタップします。

2 「ディスプレイ」をタップします。

● Windows 11の場合



1. 「明るさ」のスライダーを左右に動かします。

● Windows 10の場合

1. 「明るさと色」のスライダーを左右に動かします。

スライダーを右に動かすと明るく、左に動かすと暗くなります。

POINT

- ▶ クイック設定（Windows 11）／アクションセンター（Windows 10）（→P.8）でも明るさを調整できます。
 または  のスライダーを左右に動かすごとに、明るさのレベルが変わります。

■ キーボードで明るさを変更する

対象 スリムキーボード使用時

明るくする	【Fn】 + 【F7】 キーを押す
暗くする	【Fn】 + 【F6】 キーを押す

POINT



- ▶ F Lockランプ（→P.19）が点灯している場合はF Lock機能（→P.17）が有効になっているので、【Fn】 キーを押さずに【F7】 / 【F6】 キーを押すだけで明るさを変更できます。

■ 「Windows モビリティセンター」 で変更する

- 1 「Windows モビリティセンター」（→P.9）を起動します。
- 2 「ディスプレイの明るさ」のスライダーを左右に動かします。

2.4.3 解像度を変更する

ここでは、ディスプレイの解像度、リフレッシュレートの変更方法について説明します。

- 1 「スタート」ボタン→  または （設定）→「システム」の順にタップします。
- 2 「ディスプレイ」をタップします。
- 3 解像度を変更します。
 1. 「ディスプレイの解像度」で設定したい解像度を選択します。
 2. 設定を確認するメッセージが表示されたら、「変更の維持」をタップします。
- 4 リフレッシュレートを変更します。
 1. 「ディスプレイの詳細設定」をタップします。
 - Windows 11の場合
 1. 「ディスプレイを選択して、その設定を表示または変更します」でディスプレイを選択します。
 2. 「リフレッシュレートの選択」でリフレッシュレートを変更します。
 - Windows 10の場合
 1. 「ディスプレイの詳細設定」ウィンドウで「ディスプレイ1のアダプターのプロパティを表示します」をタップします。
 2. 表示されたウィンドウで「モニター」タブをタップします。
 3. 「画面のリフレッシュレート」を選択し「OK」をタップします。

POINT

- ▶ 設定可能な値は、「5.3 ディスプレイ」（→P.119）をご覧ください。
- ▶ 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

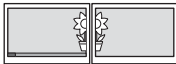
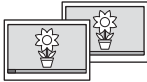
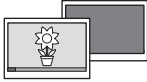
2.5 マルチディスプレイ機能

本タブレットに外部ディスプレイを接続すると、マルチディスプレイ機能が使えるようになります。

ディスプレイの取り扱いについては、お使いのディスプレイのマニュアルをご覧ください。外部ディスプレイを接続する方法については、「3.5.2 ディスプレイコネクタ」（→ P.98）をご覧ください。

2.5.1 マルチディスプレイ機能とは



マルチディスプレイ機能により、複数のディスプレイを使用した次のような表示方法を選択できます。

表示方法	説明
拡張デスクトップ表示 	複数のディスプレイを1つの画面として表示します。 Windowsのタスクバーはすべてのディスプレイに表示されます。 それぞれのディスプレイの解像度は別々に設定できます。
クローン表示 	複数のディスプレイに同一の画面を表示します。すべてのディスプレイの解像度は同じである必要があります。
シングル表示 	複数のディスプレイのどれか1つに画面を表示します。表示するディスプレイは切り替えることができます。

2.5.2 注意事項

- お使いのディスプレイと本タブレットの両方が対応している解像度のみ表示できます。お使いのディスプレイのマニュアルをご覧になり、表示可能な解像度を確認してください。
- マルチディスプレイ機能を変更するときは、動画を再生するアプリは終了してください。
- マルチディスプレイ機能は、Windowsが起動している場合にのみ有効です。
- 解像度などを変更するときに一時的に画面が乱れることがありますが、故障ではありません。
- ディスプレイに表示されるまで、しばらく時間がかかることがあります。

2.5.3 マルチディスプレイ機能を設定する

- 1 「スタート」ボタン→  または  (設定) → 「システム」の順にタップします。
- 2 「ディスプレイ」をタップします。
 - Windows 11の場合
 1. 画面上部の選択肢から、表示する設定を選択します。
 - Windows 10の場合
 1. 「複数のディスプレイ」で表示する設定を選択します。

画面表示を複製する／ 表示画面を複製する	クローン表示になります。
表示画面を拡張する	拡張デスクトップ表示になります。
1のみに表示する／ 1のみ表示する	シングル表示になります。パソコン本体のディスプレイのみに表示 します。
2のみに表示する／ 2のみ表示する	シングル表示になります。外部ディスプレイのみに表示します。

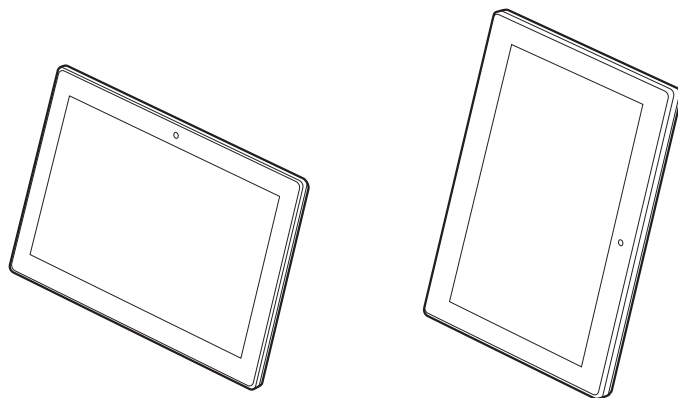
- 3 設定を確認するメッセージが表示されたら、「変更の維持」をタップします。
- 4 必要に応じて、表示する画面の位置／明るさ／解像度／向きなどを設定します。

POINT

- ▶ 設定可能な値は、「5.3 ディスプレイ」(→P.119) をご覧ください。
- ▶ リフレッシュレートを変更する場合は、「2.4.3 解像度を変更する」(→P.35) の手順4を行ってください。



2.6 画面表示の回転





本タブレットは横向きでも縦向きでも操作できます。画面表示の向きを手動で変更したり（→P.38）、タブレット本体の向きを変えたときに自動的に変更するように設定できます（→P.39）。



2.6.1 手動で画面表示の向きを変える

タブレット本体の向きにかかわらず手動で画面表示の向きを変更できます。

- 1 「スタート」ボタン→  または （設定）→「システム」の順にタップします。
- 2 「ディスプレイ」をタップします。
- 3 「画面の向き」で変更したい向きを選択します。

選択メニュー	横	縦	横（反対向き）	縦（反対向き）
画面表示の向き				

「ディスプレイの設定を維持しますか？」と表示されます。

POINT

- ▶ 「回転ロック」が「オフ」の場合、画面表示の向きは選択できません。
「オン」にして向きを選択してください。

- 4 「変更の維持」をタップします。
- 5 「回転ロック」で「オン」に設定します。
「オン」に設定すると選択した向きで固定され、タブレット本体を傾けても画面表示の向きは変更しません。

2.6.2 状態が変わったときの動作を設定する

次のようなときに自動的に本タブレットの画面表示の設定が変更されるようにできます。

- タブレット本体を傾けたとき
- タブレット本体をスリムキーボードに取り付けたとき
- タブレット本体をスリムキーボードから取り外したとき

1 「スタート」ボタン→  または  (設定) → 「システム」の順にタップします。

2 「ディスプレイ」をタップします。

3 「回転ロック」を「オフ」に設定します。

「オフ」に設定すると、タブレット本体を傾けた向きに応じて自動的に画面表示の向きを変更します。

2.7 サウンド

ここでは、音量の調節方法やオーディオ端子の機能の切り替え方法などについて説明しています。

オーディオ端子に機器を接続する方法については、「3.5.4 オーディオ端子」（→P.100）をご覧ください。

2.7.1 全体の再生音量を調節する



タブレット本体のスピーカーや、本タブレットに接続されたヘッドホンの再生音量は、次の操作で調節します。

■ タブレット本体

□ ボリュームダウン／ボリュームアップボタンで変更する

- 1 ボリュームダウンボタン、またはボリュームアップボタンを押します。
画面左上部に音量を示すインジケータが表示されます。

□ 通知領域アイコンで変更する

- 1 通知領域の「スピーカー」アイコン（ または ) をタップします。
- 2 スライダーで音量を調節します。

■ キーボード

対象 スリムキーボード使用時

上げる	【Fn】 + 【F9】 キーを押す
下げる	【Fn】 + 【F8】 キーを押す
ミュートする ミュートを解除する	【Fn】 + 【F3】 キーを押す



POINT

- ▶ F Lockランプ（→P.19）が点灯している場合はF Lock機能（→P.17）が有効になっているので、【Fn】キーを押さずに【F9】／【F8】／【F3】キーを押すだけで音量を変更できます。

画面左上部に音量を示すインジケータが表示されます。



2.7.2 アプリごとの再生音量を調節する



アプリごとの再生音量は「音量ミキサー」で調節します。

- 1 音量を調節するアプリを起動します。
- 2 通知領域の「スピーカー」アイコン（ または ）を右タップし、「音量ミキサーを開く」をタップします。
- 3 「アプリ」または「アプリケーション」の一覧から、音量の設定を変更したいアプリの音量を調節します。

2.7.3 機器や項目ごとの音量を調節する

機器や項目ごとの音量は次の手順で調節します。

調節できる機器や項目は、「 再生するときに調節できる機器と項目」（→P.42）、「 録音するときに調節できる機器と項目」（→P.42）をご覧ください。

- 1 音量を調節したい機器が接続されていない場合は接続します。
「3.5.4 オーディオ端子」（→P.100）
- 2 通知領域の「スピーカー」アイコン（ または ）を右タップします。
- 3 次の操作を行います。
 - Windows 11の場合
 1. 「サウンドの設定」をタップします。
 2. 詳細設定の「サウンドの詳細設定」をタップします。
 - Windows 10の場合
 1. 「サウンドの設定を開く」をタップします。
 2. 「関連設定」の「サウンドコントロールパネル」をタップします。
「サウンド」ウィンドウが表示されます。
- 4 「再生」タブまたは「録音」タブをタップします。
- 5 音量を調節したい機器を右タップし、「プロパティ」をタップします。
- 6 「レベル」タブをタップします。
- 7 音量を調節したい項目で音量を調節し、「OK」をタップします。

■ 再生するときに調節できる機器と項目

機器／設定項目	説明
スピーカー	
Realtek HD Audio output	タブレット本体のスピーカーや本タブレットに接続されたヘッドホンから出力される音の再生音量
マイク	マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子（マイク入力設定時）から入力される音の再生音量
ライン入力	マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子（ライン入力設定時）から入力される音の再生音量
Line Out	マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子（ライン出力設定時）から出力される音の再生音量
[ディスプレイ名] 注1注2	
インテル(R) ディスプレイ用オーディオ	ディスプレイから出力される音の再生音量

注1：「[ディスプレイ名]」には、接続されたディスプレイの名称が表示されます。

注2：次のコネクタに、音声出力に対応したディスプレイを接続した場合に表示されます。

- ・HDMI出力端子
- ・USB Type-Cコネクタ

■ 録音するときに調節できる機器と項目

機器／設定項目	説明
マイク	
マイク	マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子（マイク入力設定時）から入力される音の録音音量
マイクブースト	マイクブーストのレベル（マイク入力設定時）
ライン入力	
ライン入力	マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子（ライン入力設定時）から入力される音の録音音量



2.7.4 オーディオ端子の機能を切り替える

オーディオ端子（マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子）の機能は、次の手順で切り替えます。

- 1 オーディオ端子に機器を接続します（→P.100）。
- 2 次の操作を行います。
 - Windows 11の場合
 1. 「スタート」ボタン→「すべてのアプリ」→「Realtek Audio Console」の順にタップします。
 - Windows 10の場合
 1. 「スタート」ボタン→「Realtek Audio Console」の順にタップします。
- 3 「デバイス詳細設定」をタップします。
- 4 「コネクタを再接続しています」の下に表示されているコネクタで、使用したいデバイスを選択します。

2.7.5 既定のオーディオ機器を選択する

音声を録音または再生する機器が複数使用可能な場合、既定の機器を選択できます。

- 1 通知領域の「スピーカー」アイコン（ または ）を右タップします。
- 2 次の操作を行います。
 - Windows 11の場合
 1. 「サウンドの設定」をタップします。
 2. 詳細設定の「サウンドの詳細設定」をタップします。
 - Windows 10の場合
 1. 「サウンドの設定を開く」をタップします。
 2. 「関連設定」の「サウンドコントロールパネル」をタップします。「サウンド」ウィンドウが表示されます。
- 3 「再生」タブまたは「録音」タブをタップします。
- 4 既定に設定する機器を選択し、「既定値に設定」をタップします。
- 5 「OK」をタップします。

2.7.6 スピーカーの音質を調節する

タブレットに内蔵されているスピーカーの音質を、より詳細に調節することで、クリアで広がりのあるステレオ感や、重厚感のある低音を実現します。

重要

- ▶ Waves MaxxAudioの音質の調節は、内蔵スピーカーとヘッドホンが対象となります。
- ▶ お使いの機種や状況によって、調節できない項目もあります。
- ▶ サンプルレートを192000Hzに設定する場合は、192000Hzの音源を忠実に再生するために、Waves MaxxAudioをOFFにしてお使いください。

1 次の操作を行います。

- Windows 11の場合
 1. 「スタート」ボタン→「すべてのアプリ」→「Waves MaxxAudio」の順にタップします。
- Windows 10の場合
 1. 「スタート」ボタン→「Waves MaxxAudio」の順にタップします。

2 好みの音質になるように、設定を変更します。



- (1) MaxxAudio機能のON／OFFを切り替えます。
- (2) 各設定を初期値に戻します。
- (3) ヘッドホン使用時は、「ヘッドフォン」と表示されます。内蔵スピーカー使用時は、「内部スピーカー」と表示されます。
ここに表示された出力デバイスと(4)のコンテンツのジャンルの組み合わせごとに音質を調節できます。
- (4) 「音楽」「映画」からコンテンツのジャンルを選択できます。
- (5) イコライザー
●をドラッグすることで、好みの周波数特性を設定できます。
- (6) レベル・メーター

- (7) ドラッグして青い部分を増減させ、各種音質の調節ができます。
- MaxxBass
音響心理学に基づいた倍音再生技術により、低音を充分感じ取れるようにします。
 - 詳細
高域の小さな音は大きくして聞き取りやすくする一方、高域の大きな音はやかましくならないよう一定レベル以下に抑えます。
 - ワイド
左右スピーカーの向く角度だけを疑似的に変えて、ステレオ感を広げます。
ヘッドホン使用時は0になります。
- (8) 各機能のON／OFFを切り替えます。
- 寸法
ヘッドホン使用時、スピーカーで聞いているような自然な広がりステレオ感を得られます。
スピーカー使用時はONにできません。
 - ノイズ低減
背景から聞こえる定常的なノイズを除去します。通常はOFFでお使いください。
 - リバイブ
mp3などの低ビットレート・ソースで失われがちな音を復元することで音質を改善します。

2.8 省電力

ここでは、タブレットを使わないときに省電力にする省電力状態と、その他の節電機能について説明しています。

2.8.1 省電力状態

タブレットを使用しないときに、画面を消灯して消費電力を抑えます。

省電力状態	説明
スリープ (モダンスタンバイ)	<p>メモリに作業中のデータなどを保存し、Windowsの動作を一時的に停止させ待機状態になります。 タブレットの電源は入っているため、すぐにレジュームできます。 スリープ中は、対応アプリを使用することによりメールの受信をしたり、音楽を再生したりできます。</p> <p>※待機状態および対応アプリ稼働中は電力を消費するので、バッテリー駆動時間は短くなります。 ※スリープ中はWindows Updateなど一部の機能が動作します。そのためファンが回転したりバッテリーの消費が増える場合があります。 ※スリープ中にバッテリー残量が約5%減少すると、休止状態に移行します。 また、タブレットのハードウェア構成や接続されている周辺機器によって、スリープから休止状態に移行するまでの時間は異なります。</p>
休止状態 ^注	<p>フラッシュメモリディスクに作業中のデータなどを保存し、電源を切ります。 ただし、作業中のデータなどを保存しているため、タブレットの起動後に作業を再開できます。 レジュームはスリープよりも少し時間がかかります。</p>





注：休止状態を「有効」にする場合は設定が必要です。

■ 注意事項

- 状況により省電力状態にならない場合があります。メッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作してください。
- 状況により省電力状態になるのに時間がかかる場合があります。
- レジュームした後、すぐに省電力状態にしないでください。必ず10秒以上たってから省電力状態にするようにしてください。
- 省電力状態にした後、すぐにレジュームしないでください。必ず10秒以上たってからレジュームするようにしてください。
- スリープ中にACアダプタを接続するとスリープから復帰しますが、ユーザー操作がない場合は数秒でスリープ状態に戻ります。
- 休止状態では、メール受信や音楽再生はできません。
また、スリープ時に動作していたWindows Updateなど一部の機能は動作しません。
- 電源ボタンを押す以外の方法でスリープ状態からレジュームさせると、Windowsの仕様により画面が表示されない場合があります。
その場合は、キーボードやマウスなどから入力を行うと画面が表示されます。画面が表示されないままの状態ですら一定時間経過すると、再度スリープ状態になります。

■ 省電力状態にする

ご購入時は次のように設定されています。

タブレットの動作	操作／条件
スリープに移行	「スタート」ボタン→  または  （電源）の順にタップし、「スリープ」を選択する
	電源ボタンを押す ^{注1}
	一定時間操作しない 「■ 電源プランの設定を変更する」（→P.50）
休止状態に移行 ^{注2}	「スタート」ボタン→  または  （電源）の順にタップし、「休止状態」を選択する
	バッテリー残量が少なくなる 「■ 電源プランの設定を変更する」（→P.50）
	一定時間操作しない 「■ 電源プランの設定を変更する」（→P.50）

注1：電源ボタンは10秒以上押さないでください。電源ボタンを10秒以上押すと、Windowsが正常終了せずに本タブレットの電源が切れてしまいます。

注2：休止状態を「有効」にする場合は設定が必要です。

■ 省電力状態からレジュームする

ご購入時は次のように設定されています。

タブレットの動作	代表的な操作／条件
スリープからレジュームする	電源ボタンを押す
	USBマウスで次の操作をする ・クリックボタンを押す
	Bluetoothマウスで次の操作をする ・クリックボタンを押す ・スクロールボタンを動かす ・マウスを動かす
	ショートカットボタンを押す
	対応アプリからの起動
休止状態からレジュームする	電源ボタンを押す

2.8.2 電源を切る

ここでは、Windowsを終了させてタブレット本体の電源を切る方法を説明します。



■ 注意事項

- 電源を切る前に、すべての作業を終了し必要なデータを保存してください。
- 電源を切るとき、ノイズが発生することがあります。その場合はあらかじめ音量を下げておいてください。
- 電源を切った後、すぐに電源を入れしないでください。必ず10秒以上たってから電源を入れるようにしてください。

■ 電源の切り方

次のいずれかの方法で、タブレット本体の電源を切ります。



□ Windowsを終了する

- 1 「スタート」ボタン→  または  (電源) の順にタップします。
- 2 「シャットダウン」をタップします。

□ 完全に電源を切る

重要

- ▶ 次のような場合は、ここで説明している手順でタブレットの電源を切ってください。
 - ・ BIOS セットアップを起動する
 - ・ 診断プログラムを使用する
 - ・ nanoSIMカードをセットする／取り出す
 - ・ フラッシュメモリディスクデータ消去

- 1 「スタート」ボタン→  または  (設定) の順にタップします。
 - Windows 11の場合
 1. 「システム」→「回復」の順にタップします。
 2. 「PCの起動をカスタマイズする」の「今すぐ再起動」をタップします。
 - Windows 10の場合
 1. 「更新とセキュリティ」をタップします。
 2. 「回復」をタップします。
- 2 「今すぐ再起動」をタップします。
- 3 「PCの電源を切る」をタップします。

2.8.3 本タブレットの節電機能

本タブレットには、さまざまな節電機能が搭載されています。これらの機能と有効となるタブレットの状態との関係は次のとおりです。

節電機能	タブレットの状態			
	電源オン	スリープ状態	休止状態	電源オフ
省電力設定（→P.49） タブレットの消費電力を低減する。	○	—	—	—
バッテリーの電源モード（→P.51） バッテリーの消費量を抑える。	○	—	—	—
Standby Energy Saver（→P.52） スリープ運用時の消費電力を抑える。	○	○	○	—

2.8.4 省電力設定

使用状況にあわせて電源プランを切り替えたり設定を変更することで、消費電力を抑えることができます。

■ 電源プランを切り替える

- 1 「コントロールパネル」ウィンドウ（→P.8）を表示します。
- 2 「ハードウェアとサウンド」→「電源オプション」の順にタップします。
「電源オプション」が表示されます。
- 3 お使いになる電源プランをタップします。

POINT

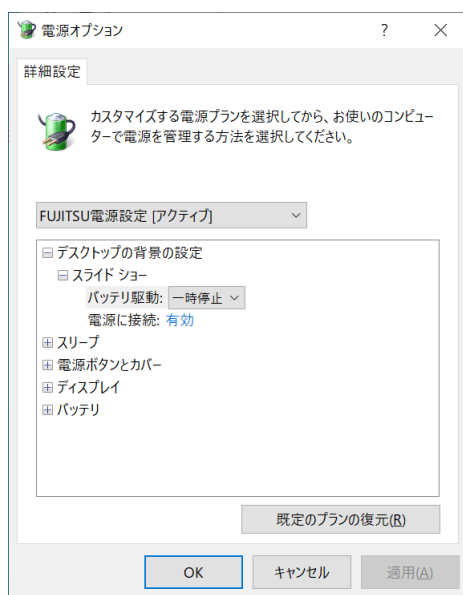
- ▶ ご購入時の電源プランは「FUJITSU 電源設定」が選択されています。使用する状況によりプランを変更してください。
また、電源プランは新規に作成することができます。

□ 新規に電源プランを作成する場合

- 1 「電源オプション」ウィンドウ左のメニューで「電源プランの作成」をタップします。
「電源プランの作成」ウィンドウが表示されたら、メッセージに従って操作します。

■ 電源プランの設定を変更する

- 1 「コントロールパネル」 ウィンドウ（→P.8）を表示します。
- 2 「ハードウェアとサウンド」→「電源オプション」の順にタップします。
「電源オプション」が表示されます。
- 3 設定を変更するプランの「プラン設定の変更」をタップします。
- 4 「詳細な電源設定の変更」をタップします。



- 5 リストから項目を選択し、設定を変更します。

POINT


- ▶ 一部の設定は手順1や手順2で表示される画面でも変更できます。

- 6 「OK」をタップします。


2.8.5 バッテリーの電源モード

使用状況にあわせて電源モードを切り替えることで、バッテリーの消費量を抑えることができます。次の手順で設定を切り替えてください。


■ Windows 11の場合

- 1 「スタート」ボタン→ （設定）→ 「システム」の順にタップします
- 2 「電源&バッテリー」をタップします。
- 3 「電源モード」でお使いになるモードを選択します。
「トップクラスの電力効率」、「バランス」、「最適なパフォーマンス」から選択します。

■ Windows 10の場合

- 1 通知領域の「電源」アイコン（）をタップします。

POINT

- ▶ 「電源」アイコンが表示されていない場合は、次の操作を行ってください。
 1. タスクバーを右タップします。
 2. 「タスクバーの設定」をタップします。
 3. 「タスクバーに表示するアイコンを選択します」をタップします。
 4. 「電源」の表示をオンにします。
タスクバーに「電源」アイコン（）が表示されます。
- 2 電源モードのスライダーを左右に動かして設定します。
スライダーを左側（最大のバッテリー残量）に動かすと消費量は抑えられ、右側（最も高いパフォーマンス）に動かすと消費量は高くなります。
 - バッテリー運用時
スライダー左側より「バッテリー節約機能」―「より良いバッテリー」―「高パフォーマンス」―「最も高いパフォーマンス」の4段階で設定
 - ACアダプタ接続時
スライダー左側より「より良いバッテリー」―「高パフォーマンス」―「最も高いパフォーマンス」の3段階で設定

2.8.6 Standby Energy Saver

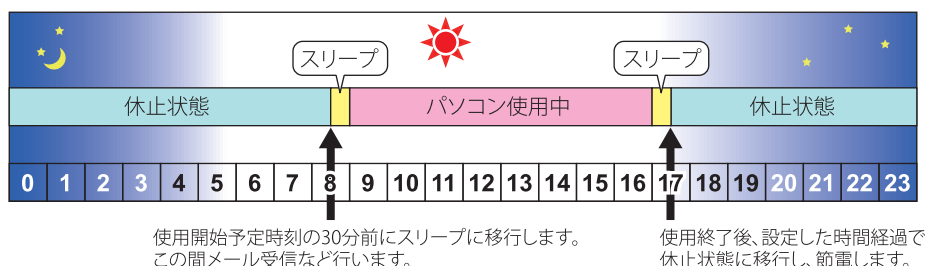
本機能を設定するとタブレットの節電や、起動時に速やかに業務を開始することができます。

- タブレット使用終了後、設定した移行時間が経過するとスリープ状態から休止状態に切り替わります。休止状態にすることで電力消費を抑えることができます。
- タブレット使用開始予定時刻の30分前になると、休止状態からスリープ状態に切り替わります。スリープ中にメール受信を行い、業務開始時にはタブレットを素早く起動できます。

□ 設定例

次の設定でのイメージです。



- ・ パソコン使用開始予定時刻：9:00
- ・ 使用終了予定時刻：17:00
- ・ パソコン使用終了後の休止移行時間：30分

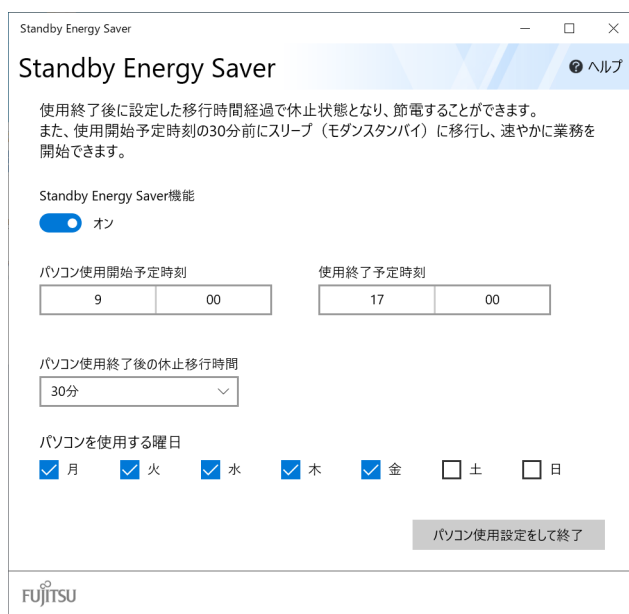


■ Standby Energy Saverをお使いになるうえでの注意

- 本機能は、電源オフ状態およびサインアウト時は動作しません。
- 本機能は、電源オプション（→P.50）の「スリープ」で「次の時間が経過後休止状態にする」を変更すると正しく動作しません。
- 使用開始予定時刻の30分前にタブレットを起動した場合は、一旦スリープに移行することがあります。
- 次の場合は本タブレットを再起動するか、Windowsにサインインし直してください。
 - ・ 「タスクマネージャー」の「スタートアップ」タブで「Standby Energy Saver」の有効／無効を切り替えた
 - ・ 「スタート」ボタン→ または (設定) → 「アプリ」の「スタートアップ」で「Standby Energy Saver」のオン／オフを切り替えた
 - ・ 「スタート」ボタン→ または (設定) → 「時刻と言語」の「日付と時刻」で変更をした
- Standby Energy Saverをアンインストールする場合は、本機能をオフにしてください。
- 本タブレットに複数のユーザーアカウントが登録されている場合の動作は、次のとおりです。
 - ・ サインインしたユーザーの設定が「オフ」でも、「オン」にしているユーザーの設定が有効になります。
 - ・ それぞれのユーザーが「オン」にしていると、「パソコン使用終了後の休止移行時間」はサインインしたユーザーの設定が有効になります。
 - ・ それぞれのユーザーが「オン」にしていると、それぞれのユーザーの次回開始時刻30分前にタブレットがスリープになります。

■ Standby Energy Saverを有効にする

- 1 「スタート」ボタン→  または （設定）→「Extras」→「Standby Energy Saver」の順にタップします。
「Standby Energy Saver」が表示されます。
- 2 Standby Energy Saver機能を「オン」にします。
- 3 「ログイン時にこのアプリでStandby Energy Saverタスクを実行しますか？」と表示されたら「有効にする」をタップします。
- 4 各項目を設定します。



Standby Energy Saver

ヘルプ

使用終了後に設定した移行時間経過で休止状態となり、節電することができます。
また、使用開始予定時刻の30分前にスリープ（モダンスタンバイ）に移行し、速やかに業務を開始できます。

Standby Energy Saver機能
 オン

パソコン使用開始予定時刻
9 00

使用終了予定時刻
17 00

パソコン使用終了後の休止移行時間
30分

パソコンを使用する曜日
 月 火 水 木 金 土 日

パソコン使用設定をして終了

FUJITSU

設定項目	内容
パソコン使用開始予定時刻	タブレットを使用開始する予定時刻を設定します。 ここで設定した時刻の30分前になると、スリープに移行します。
使用終了予定時刻	業務を終了する予定時刻を設定します。 設定時刻を過ぎ、「パソコン使用終了後の休止移行時間」で設定した時間が経過するとスリープから休止状態に移行します。
パソコン使用終了後の休止移行時間	「使用終了予定時刻」以降の、スリープから休止状態に移行するまでの時間を設定します。
パソコンを使用する曜日	本設定を有効にする曜日を設定します。（複数選択可） ※必ず選択してください。 ※チェックが付いていない曜日は、「パソコン使用終了後の休止移行時間」で設定した時間が経過すると、スリープ状態から休止状態に移行します。

5 「パソコン使用設定をして終了」をタップします。

設定が反映され、Standby Energy Saverが有効になります。

重要

- ▶ 設定項目に不備がある場合は、項目が赤くなりメッセージが表示されます。正しい内容に修正してください。



Standby Energy Saver

ヘルプ

使用終了後に設定した移行時間経過で休止状態となり、節電することができます。
また、使用開始予定時刻の30分前にスリープ（モダンスタンバイ）に移行し、速やかに業務を開始できます。

Standby Energy Saver機能

オン

パソコン使用開始予定時刻

9 00

使用終了予定時刻

6 00

パソコン使用開始から使用終了までは19時間以内で設定してください。

パソコン使用終了後の休止移行時間

30分

パソコンを使用する曜日

月 火 水 木 金 土 日

1日以上チェックを付けてください。

パソコン使用設定をして終了

FUJITSU

2.9 バッテリ

ここでは、バッテリーを使用して本タブレットを使用する方法や注意事項について説明しています。バッテリーの充電時間や駆動時間など、バッテリーの仕様については「5.1 本体仕様」（→P.105）をご覧ください。

2.9.1 注意事項

■ バッテリで運用するとき

- 本タブレットの使用中にバッテリーの残量がなくなると、作成中のデータが失われることがあります。バッテリーの残量に注意してお使いください。バッテリーの残量を確認するには、「2.9.3 バッテリーの残量を確認する」（→P.58）をご覧ください。
- 本タブレットを長く使用していると、バッテリーの残量が正確に表示されなくなる場合があります。故障ではありませんのでそのままお使いください。
正しく残量を表示されるようにするには、満充電まで充電後、BIOSセットアップ画面にて電源が切れるまで放電してください。
- タブレットの機能を多用したり負荷の大きいアプリを使用したりすると、多くの電力を使用するためバッテリー駆動時間が短くなります。このような場合や重要な作業を行う場合は、ACアダプタを接続してください。
- バッテリーが満充電状態のときに、ACアダプタを接続したまま放置しないでください。
- バッテリーは使用しなくても少しずつ自然放電していきます。
- 低温時にはバッテリー駆動時間が短くなる場合があります。
- 周囲の温度が高すぎたり低すぎたりすると、バッテリーの充電能力が低下します。
また、ACアダプタを接続している場合も、タブレット本体の使用状況により、バッテリー残量が減る場合があります。
- 充電保管庫などの密閉環境で複数台のタブレットを一度に充電する場合、密閉環境内に熱がこもりバッテリー充電時間が仕様と異なることがあります。また、温度条件により充電が停止することがあります。
- バッテリー残量が空の状態の本タブレットに添付のACアダプタを接続した直後は、電源ボタンを押しても電源が入らない場合があります。この場合は、1分程度ACアダプタを挿した状態でお待ちください。自動的に起動しない場合は、再度電源ボタンを押してください。
- バッテリー部は通常のご使用時および充電時に多少暖かくなりますが、異常ではありません。
- 長期間タブレットを使用しない場合には、高温環境となる保管場所は避け、バッテリー残量を50%程度にしてから保管してください。
また、長期間使用しない場合においても2年以内に必ず充電を行ってください。
- バッテリーの残量が残りわずかの場合、バッテリー運用またはUSB Type-Cコネクタから5Vで給電中のときは、本タブレットは起動しません。本タブレットに添付のACアダプタを接続してください。
- 「バッテリー残量1%未満です。ACアダプタを抜かずにバッテリーを充電してください。バッテリーが1%以上充電されるまでタブレットのパフォーマンスが低下します。」というメッセージが表示された場合は、バッテリー残量が1%に到達するまでシステムの電力保護のためにパフォーマンスを下げて動作します。その間、タブレットの起動やアプリの動作に通常よりも時間がかかります。

■ バッテリーの寿命

□ 寿命となる要因

- ① バッテリーの充電／放電を繰り返した回数（サイクル数）
- ② バッテリーが満充電状態でACアダプタを接続したまま放置
- ③ 高温環境での使用／保管、使用時の負荷が高いなど、環境温度が高温である

POINT

- ▶ バッテリーの寿命を延ばすため「バッテリーユーティリティ」の充電モードで、満充電にならないようにすることができます。



□ 寿命について

- バッテリーは消耗品です。
- バッテリーの寿命は、使用環境および保管方法、ご使用の時間や頻度によって大きく異なります。
- 長期間使用し、次のような症状が出た場合、バッテリーの寿命が考えられます。
 - ・ バッテリーの駆動時間や充電時間が極端に短くなる
 - ・ 満充電にならなくなる
 - ・ 充電できなくなる
 - ・ 使用中に勝手に電源が切れる
- 内蔵バッテリーはご使用条件により、寿命が近づくにつれて膨れる場合があります。リチウムイオンバッテリーの特性であり、安全上問題はありません。ただし、内部機器を圧迫し故障の原因となりますので、修理を依頼してください。
- タブレット本体を長期間使用しなかった場合にも、バッテリーは劣化します。
- 「バッテリーユーティリティ」でバッテリーの満充電量を抑えることにより、バッテリーの寿命を延ばすことができます。詳しくは、「2.9.4 バッテリーの充電モードを変更する」（→P.59）をご覧ください。
- 本タブレットの内蔵バッテリーはお客様自身で交換できません。交換する場合は、保証期間の内外を問わず有償となります。

■ バッテリー駆動時間について

- 本タブレットは、他メーカーのバッテリー駆動時間との比較のために、共通の測定方法として一般社団法人電子情報技術産業協会の「JEITAバッテリー動作時間測定法（Ver2.0）」を採用しています。
- バッテリー駆動時間はお使いの環境によって大きく異なります。
次のことを行うことにより、バッテリー駆動時間を延ばすことができます。
 - ・液晶ディスプレイの画面を暗くする
詳しくは、「2.4.2 明るさを調整する」（→P.34）をご覧ください。
 - ・省電力機能を活用する
詳しくは、「2.8 省電力」（→P.46）をご覧ください。
 - ・時間のかかるアプリ（ウイルス対策アプリのスキャンなど）は、ACアダプタを接続して使用する

POINT

- ▶ 消費電力が大きいアプリは次の操作で確認できます。（バッテリー運用時のみ）
 1. 「スタート」ボタン→  または （設定）→「システム」の順にタップします。
 2. 次の操作を行います。
 - Windows 11の場合
 1. 「電源&バッテリー」をタップします。
 2. 「バッテリーの使用状況」をクリックして、表示された「アプリごとのバッテリー使用量」で消費電力が大きいアプリを確認します。
 - Windows 10の場合
 1. 「バッテリー」をタップします。
 2. バッテリー残量の下に表示されている「バッテリー残量に影響を及ぼしているアプリを表示する」をクリックします。
消費電力が大きいアプリを確認します。
- ・周辺機器を取り外す
- ・無線LAN／Bluetoothの電波を停止する
詳しくは、「2.10.5 無線通信機能の電波を発信する／停止する」（→P.63）をご覧ください。
- ・音声出力をミュート（消音）に切り替える
詳しくは、「2.7.2 アプリごとの再生音量を調節する」（→P.41）をご覧ください。

この他、ドライバーや各種アプリを最新の状態に更新することで、バッテリー駆動時間を延ばせる可能性があります。詳しくは、「BIOSやドライバーのアップデートについて」（→P.9）をご覧ください。

2.9.2 バッテリーを充電する

1 タブレット本体にACアダプタを接続します。



充電が始まります。バッテリーの充電状態は、バッテリー充電ランプ（→P.15）で確認できます。

バッテリー充電ランプ	バッテリーの充電状態
オレンジ色	充電中
消灯	・ 充電完了 ・ ACアダプタが接続されていない

POINT

- ▶ バッテリーを保護するため、次の場合は充電は始まりません。
 - ・ 充電モードが「フル充電モード」で、バッテリーの残量が90%以上の場合
 - ・ 充電モードが「80%充電モード」で、バッテリーの残量が70%以上の場合バッテリーの残量が少なくなると自動的に充電が始まります。

2.9.3 バッテリーの残量を確認する

バッテリーの残量は、通知領域の「電源」アイコン（ または ）をタップすることで確認できます。

■ 「バッテリーが不足しています」というメッセージが表示されたら

バッテリーの残量はわずかになっています。すみやかに次のいずれかの対処を行ってください。

- ACアダプタを接続する
- 本タブレットを休止状態にする
「■ 省電力状態にする」（→P.47）
- 作業を終了して本タブレットの電源を切る
「2.8.2 電源を切る」（→P.48）



ご購入時は、バッテリーの残量が約10%になると自動的に休止状態になるように設定されています。設定を変更するには、「■ 電源プランの設定を変更する」（→P.50）をご覧ください。

2.9.4 バッテリーの充電モードを変更する

バッテリーの充電モードを「80%充電モード」に変更しバッテリーの満充電量を抑えることにより、バッテリーの寿命を延ばすことができます。

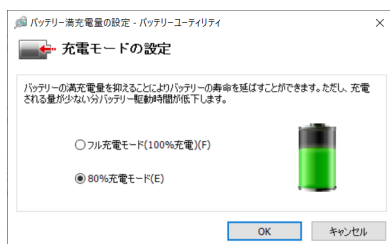
重要

- ▶ 「80%充電モード」に設定すると、バッテリー駆動時間は「フル充電モード」よりも短くなります。
- ▶ ACアダプタを接続して使用することが多い場合は、「80%充電モード」に設定することをお勧めします。

- 1 「スタート」ボタン→  または  (設定) → 「Extras」→ 「バッテリーユーティリティ」の順にタップします。
- 2 「バッテリー満充電量」をタップします。
- 3 「変更」をタップします。



- 4 「フル充電モード (100%充電)」または「80%充電モード」を選択し、「OK」をタップします。



- 5 「閉じる」をタップします。

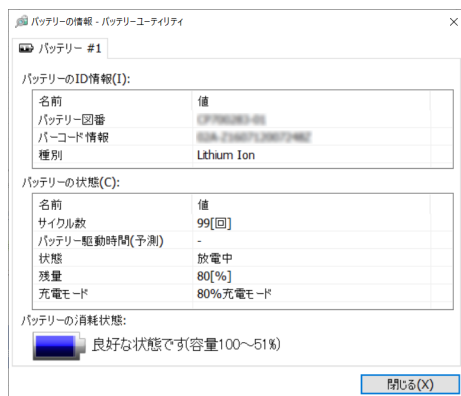
2.9.5 バッテリの状態を確認する

バッテリーの情報や消耗状態の確認は、「バッテリーユーティリティ」で行うことができます。

重要

- ▶ バッテリーの残量や消耗状態を正しく表示するには、定期的な満充電／完全放電が必要になります。満充電／完全放電を行わずに使い続けると、「バッテリーユーティリティ」に表示される残量や消耗状態が、実容量と著しく異なることがあります。
- ▶ 満充電／完全放電するには
バッテリーの充電モードを「80%充電モード」にしている場合は、「フル充電モード」に変更してください。
満充電後ACアダプタを取り外し、BIOSセットアップ画面の状態でも電源が切れるまで放電してください。自動で電源が切れると、放電が完了します。
BIOSセットアップについては、『製品ガイド（共通編）』の「2章 BIOS」—「BIOSセットアップの操作のしかた」をご覧ください。

- 1 「スタート」ボタン→  または  (設定) → 「Extras」→ 「バッテリーユーティリティ」の順にタップします。
- 2 「バッテリーの情報」をタップします。



「サイクル数」、「残量」、「消耗状態」などを確認できます。

2.10 通信

ここでは本タブレットの通信機能について説明しています。
ネットワーク機器を接続してお使いになる場合は、お使いのネットワーク機器のマニュアルもご覧ください。また、搭載されている通信機能の仕様については、「5.1 本体仕様」（→P.105）をご覧ください。

POINT

- ▶ 本タブレットには、ネットワーク環境を簡単に切り替えられるユーティリティ「Plugfree NETWORK」が添付されています。
『製品ガイド（共通編）』の「1章 アプリ」—「1.2.1 「ドライバズディスク検索」からのインストール」をご覧ください。「Plugfree NETWORK」をインストールしてください。
また、「Plugfree NETWORK」の詳しい使い方は、次の操作で表示されるヘルプをご覧ください。
 1. 次の操作を行います。
 - Windows 11の場合
 1. 「スタート」ボタン→「すべてのアプリ」→「Plugfree NETWORK」→「使用場所管理」および「ネットワーク診断」の順にタップします。
 - Windows 10の場合
 1. 「スタート」ボタン→「Plugfree NETWORK」→「使用場所管理」および「ネットワーク診断」の順にタップします。

2.10.1 有線LAN

対象 スリムキーボード、LAN変換アダプタ使用時

重要

- ▶ 上記の対象周辺機器の有線LANでネットワークに接続する場合
タブレット本体と周辺機器を接続してください。

LANケーブルを接続する方法については、「3.5.5 LANコネクタ」（→P.100）をご覧ください。
LANの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

POINT

- ▶ 本タブレットはMACアドレスパススルー機能に対応しています。
この機能をご利用になるには、MACアドレスパススルーに対応した周辺機器と接続する必要があります。
また、本機能について次の注意事項をご確認ください。
 - ・ 本機能用に、パススルー MACアドレスが設定されています。
 - ・ ご購入時は無効に設定されています。設定の変更はBIOSセットアップで行います。
BIOSセットアップの「詳細」メニューの「各種設定」→「MACアドレスパススルー」を「使用する」に設定してください。
BIOSセットアップについては、『製品ガイド（共通編）』の「2章 BIOS」—「BIOSセットアップの操作のしかた」をご覧ください。
 - ・ 本機能に対応した周辺機器の同時使用（有線LANの複数接続）はできません。

- ・本機能でネットワークに接続した後に、本機能に対応した他の周辺機器でネットワークに接続できないことがあります。
同一のDHCPサーバからIPアドレスを取得する場合、先にDHCPサーバに接続した周辺機器がIPアドレスを取得しているため、後から接続した周辺機器はIPアドレスを取得できません。他の周辺機器から接続したい場合は、先に接続した周辺機器を取り外すことで、IPアドレスを取得できます。
- ▶ MACアドレスパススルー機能を使用しない場合は、周辺機器側のMACアドレスが使われます。

2.10.2 無線LAN

無線LANについては、『無線LANご利用ガイド』をご覧ください。
無線LANの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。
また、無線LANの仕様については、「5.4 無線LAN」（→P.122）をご覧ください。
本タブレットは、電波法ならびに電気通信事業法に基づく技術基準に適合し、5.2／5.3GHz帯の屋外使用についての注意文を画面に表示できます。
表示の操作方法は、『製品ガイド（共通編）』の「付録3 認定および準拠について」をご覧ください。

■ 無線LANの種類を確認する

搭載されている無線LANの種類を確認するには、次の操作を行います。

- 1 「コントロールパネル」ウィンドウ（→P.8）を表示します。
- 2 「システムとセキュリティ」→「システム」の順にタップします。
- 3 「デバイス マネージャー」をタップします。
「デバイス マネージャー」が表示されます。
- 4 「ネットワークアダプター」をダブルタップします。
本タブレットに搭載されている無線LANの種類が表示されます。

2.10.3 無線WAN

対象 無線WANモデル

nanoSIMカードを取り付けることにより、高速パケット通信が可能になります。
nanoSIMカードを取り付ける方法については、「3.4 nanoSIMカード」（→P.95）をご覧ください。
無線WANについては、『内蔵無線WANをお使いになる方へ』をご覧ください。

2.10.4 Bluetoothワイヤレステクノロジー

Bluetoothワイヤレステクノロジーとは、ヘッドセットやワイヤレスキーボード、携帯電話などの周辺機器や他のBluetoothワイヤレステクノロジー搭載のタブレットなどに、ケーブルを使わず電波で接続できる技術です。

Bluetoothワイヤレステクノロジーについては、『Bluetoothワイヤレステクノロジーご利用ガイド』をご覧ください。

また、Bluetoothワイヤレステクノロジーのバージョンについては、「5.1 本体仕様」（→P.105）をご覧ください。

2.10.5 無線通信機能の電波を発信する／停止する

病院や飛行機内、その他電子機器使用の規制がある場所では、あらかじめ無線通信機能の電波を停止してください。

電波の発信／停止は次の方法で変更できます。

■ スリムキーボード

タブレットに搭載されている、すべての無線通信機能の電波を発信／停止します。

1 【Fn】 + 【F5】 キーを押します。

【Fn】 + 【F5】 キーを押すたびに、電波の発信／停止が切り替わります。

POINT

- ▶ F Lockランプ（→P.19）が点灯している場合はF Lock機能（→P.17）が有効になっているので、【Fn】キーを押さずに【F5】キーを押すだけで電波の発信／停止が切り替わります。

重要

- ▶ 無線デバイスは、個別に電波を発信／停止することもできます。
電波の発信／停止の状態は、「■ Windowsの機能」（→P.64）の手順で表示される画面で確認できます。
- ▶ 電波を「停止」に切り替えた場合、すべての無線デバイスが「停止」になりますが、「発信」に切り替えた場合は、電波を「停止」する直前に「発信」の状態だったデバイスのみが「発信」となります。

■ Windowsの機能

Windowsの機能で、無線通信機能の電波の発信／停止を切り替えることができます。

1 「スタート」ボタン→  または  (設定) → 「ネットワークとインターネット」の順にタップします。

2 「機内モード」をタップします。

POINT

▶ 機内モード

- ・機内モードとは、タブレットに搭載されている無線通信機能の電波を停止する機能です。機内モードを「オン」にすると電波が停止します。
- ・【Fn】 + 【F5】 キーを押すたびに機内モードのオン／オフを切り替えます。



3 「機内モード」または「ワイヤレスデバイス」でそれぞれの設定を切り替えます。「機内モード」では無線通信の電波をまとめて発信／停止します。特定の電波の発信／停止を設定する場合は「ワイヤレスデバイス」で設定します。

	機内モード	ワイヤレスデバイス
「オン」に設定	すべての無線通信機能を停止	電波を発信
「オフ」に設定	すべての無線通信機能を発信	電波を停止

重要

- ▶ 電波を「停止」に切り替えた場合、すべての無線デバイスが「停止」になりますが、「発信」に切り替えた場合は、電波を「停止」する直前に「発信」の状態だったデバイスのみが「発信」となります。

POINT

- ▶ Bluetoothワイヤステクノロジーは、次の操作でも設定を切り替えることができます。
 1. 「スタート」ボタン→  または  (設定) の順にタップします。
 - Windows 11の場合
 1. 「Bluetoothとデバイス」をタップします。
 - Windows 10の場合
 1. 「デバイス」をタップします。
 2. 「Bluetoothとその他のデバイス」をタップします。
 2. Bluetoothの設定を切り替えます。
 - ・「オン」：電波を発信する
 - ・「オフ」：電波を停止する

2.11 ダイレクト・メモリースロット

ここでは、ダイレクト・メモリースロットに、SDメモリーカードをセットしたり取り出したりする方法について説明しています。

メモリーカードの取り扱いについては、お使いのメモリーカードのマニュアルをご覧ください。メモリーカードを周辺機器で使用する場合は、お使いの周辺機器のマニュアルもご覧ください。また、ダイレクト・メモリースロットの仕様については、「5.1 本体仕様」（→P.105）をご覧ください。

2.11.1 注意事項

- メモリーカードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。メモリーカードを取り扱う前は、一度アルミサッシやドアノブなどの金属に手を触れて、静電気を放電してください。

2.11.2 使用できるメモリーカード

すべてのメモリーカードの動作を保証するものではありません。

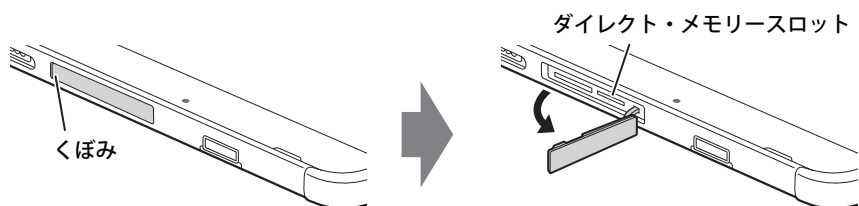
メモリーカード		対応
SDメモリーカード ^注	microSDカード	○
	microSDHCカード	○
	microSDXCカード	○

注：・著作権保護機能には対応していません。

・マルチメディアカード（MMC）、セキュアマルチメディアカードには対応していません。

2.11.3 メモリーカードをセットする

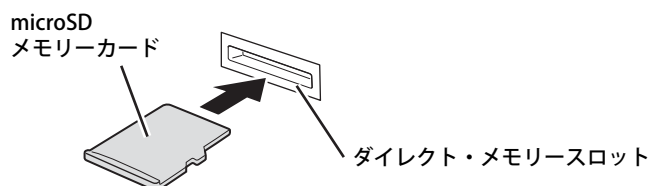
- 1 くぼみに指をかけ、カードスロットカバーを矢印の方向に開きます。
イラストは、タブレット本体の液晶ディスプレイを上にした状態です。



POINT

- ▶ カードスロットカバーを開閉するときは、強く引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったりしないでください。

- 2 microSDメモリーカードをダイレクト・メモリースロット(→P.12)に差し込みます。



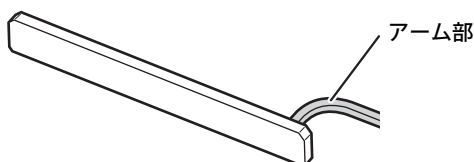
POINT

- ▶ 指でカードを押しづらい場合は、つまや先の細い棒状のもので押ししてください。
- ▶ メッセージ（画面右下）が表示された場合は、そのメッセージをタップし、必要に応じて動作を選択するか、メッセージを閉じてください。

- 3 カードスロットカバーを閉じます。

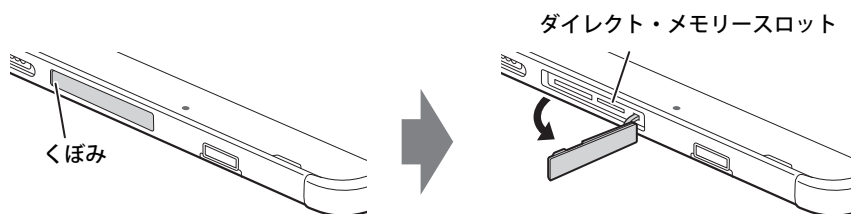
POINT

- ▶ カードスロットカバーのアーム部を指でつまんで、まっすぐ差し込んでください。





2.11.4 メモリーカードを取り出す

- 1 くぼみに指をかけ、カードスロットカバーを矢印の方向に開きます。
イラストは、タブレット本体の液晶ディスプレイを上にした状態です。



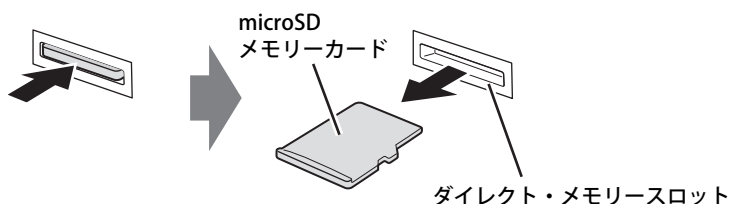
POINT

- ▶ カードスロットカバーを開閉するときは、強く引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったりしないでください。

- 2 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコン（ または ）をタップします。
- 3 取り外すメモリーカードをタップし、表示されるメッセージに従います。
- 4 microSDメモリーカードを一度押し、少し出てきたmicroSDメモリーカードを引き抜きます。

重要

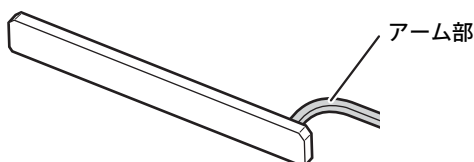
- ▶ メモリーカードを強く押さないでください。指を離れたときメモリーカードが飛び出し、紛失したり衝撃で破損したりするおそれがあります。また、ダイレクト・メモリースロットを人に向けて、顔を近づけたりしないでください。メモリーカードが飛び出すと、けがの原因となります。



- 5 カードスロットカバーを閉じます。

POINT

- ▶ カードスロットカバーのアーム部を指でつまんで、まっすぐ差し込んでください。



2.12 暗号化機能付フラッシュメモリディスク

「暗号化機能付フラッシュメモリディスク」は、OSやプログラムを含むフラッシュメモリディスク上の全データについて、書き込み時には自動的に暗号化し、読み出し時には自動的に復号します。そのため、暗号化を意識せずにセキュリティを確保できます。

また、BIOSセットアップでハードディスクパスワードを設定することにより、フラッシュメモリディスクへのアクセスはパスワードで管理されます。本タブレットからフラッシュメモリディスクを抜き取り、他のタブレットに接続してデータを読み取ろうとした場合にも、パスワードの入力が必要になるため不正な使用を防ぐことができます。

重要

- ▶ ハードディスクパスワードを設定していない場合はフラッシュメモリディスクへの不正なアクセスを防ぐことができません。必ずハードディスクパスワードを設定してください。ハードディスクパスワードの設定方法は『製品ガイド（共通編）』の「2章 BIOS」—「BIOSのパスワード機能を使う」をご覧ください。

2.13 セキュリティチップ（TPM）

セキュリティチップ（TPM）は、ドライブを暗号化したときの暗号鍵などの重要なデータを格納・管理するための特別なICチップです。暗号鍵などをフラッシュメモリディスクに残さないため、フラッシュメモリディスクが盗まれても暗号を解析できません。

2.14 USB Type-C 充電・給電ユーティリティ

本タブレットは、充電と給電を切り替えられるUSB Type-Cコネクタを搭載しています。それぞれのUSB Type-Cコネクタの充電／給電の切り替えは、USB Type-C 充電・給電ユーティリティで行います。

2.14.1 注意事項

- 次の場合は、本アプリの設定は有効になりません。
 - ・ BIOSセットアップメニューの「詳細」メニュー→「USB Type-C 充電設定」→「パソコン電源オフ時の動作」を「充電しない」に設定している場合は、タブレットが休止状態および電源オフ状態での充電は行われません。

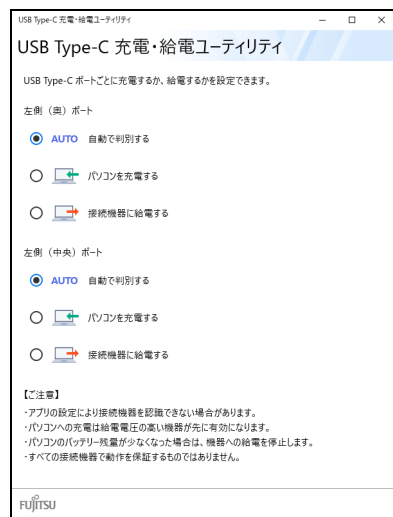
POINT

- ▶ BIOSセットアップメニューの設定項目については、『BIOSセットアップメニュー一覧』をご覧ください。

2.14.2 USB Type-C 充電・給電ユーティリティの設定を変更する

- 1 「スタート」ボタン→  または  (設定) → 「Extras」→ 「USB Type-C 充電・給電ユーティリティ」の順にタップします。

「USB Type-C 充電・給電ユーティリティ」が表示されます。





(機種により表示されるポートが異なります)

- 2 充電または給電を設定するコネクタの項目を選択します。
- 3 画面右上の「閉じる」をタップして、画面を閉じます。

■ タブレットの充電／給電の動作

ご購入時は「AUTO」に設定されています。

本動作は、すべての対応機器の動作を保証するものではありません。

接続機器	「USB Type-C 充電・給電ユーティリティ」の設定項目		
	AUTO (自動で判別する)	 (パソコンを充電する)	 (接続機器に給電する)
Type-C ACアダプタ (給電のみデバイス注1)	タブレットを充電する	タブレットを充電する	—
充電／給電対応 デバイス注2注3	タブレットの状態が変わる	タブレットを充電する	接続機器に給電する
ポトリプリケータ (USB Type-C 接続)	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを充電する ・接続機器として認識する 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを充電する ・接続機器として認識する 	<ul style="list-style-type: none"> ・接続機器として認識する ・接続機器への給電は対象外
USBデバイス注4	接続機器として認識する	—	接続機器として認識する

注1：・ USB Power Delivery 対応で 7.5W (5V/1.5A) 以上を供給可能な機器

- ・ タブレットを使用しながらタブレットを充電する場合は、USB Power Delivery 対応で 45W (20V/2.25A) 以上を供給可能な機器が必要となります。

注2：モバイルバッテリー、パソコン、スマートフォンなど

注3：・ USB Power Delivery 対応機器のみお使いいただけます。

パソコンを充電：7.5W (5V/1.5A) 以上供給可能

接続機器に給電：最大 5V/3.0A

- ・ タブレットを使用しながらタブレットを充電する場合は、USB Power Delivery 対応で 45W (20V/2.25A) 以上を供給可能な機器が必要となります。

・ 次のような場合は、タブレットを充電していてもタブレットのバッテリーが減ることがあります。

- タブレットが動作している（高負荷処理を行っているなど）
- 接続機器への給電電力が大きい（消費電力の大きな機器を複数接続しているなど）

注4：・ USBメモリ、Webカメラ、ディスプレイなど

- ・ USBデバイスを使用する場合は、「AUTO」を選択して使用することをお勧めします。

重要

- ▶ ACアダプタとType-C ACアダプタを同時に接続した場合
ACアダプタで充電を行います。（Type-C ACアダプタからは充電されません。）
- ▶ 接続したデバイスからタブレットへ充電が行われずに一定時間が経過すると、デバイスがスリープ状態になることがあります。
この場合は充電が開始されないため、デバイスを一度タブレットから外して接続し直すと充電が開始されます。

2.15 Windows Hello

対象 顔認証対応Webカメラ搭載機種／指紋センサー搭載機種

顔や指紋を認識してサインインできるWindows Helloという機能が搭載されています。Windows Helloを使うと、サインイン時にパスワードやPINを入力する必要がなくなります。

2.15.1 Windows Helloを使って顔認識でサインインする



カメラの位置は「1章 各部名称」（→P.11）をご覧ください。

■ Windows Helloの顔認識機能をお使いになるうえでの注意

- Windows Helloの顔認識機能は完全な本人認識・照合を保証するものではありません。
- Windows Helloをお使いになるには、PINを設定しておく必要があります。
- カメラによる顔認識を設定している場合でも、パスワードやPINの入力でサインインすることができます。
また、顔認証でサインインできない場合も、同様にパスワードやPINの入力でサインインしてください。
- Windows Helloで登録した顔情報は、タブレットにのみ保存されインターネット上にアップロードされることはありません。
- 顔の登録および顔認識時に適切な顔の位置は、タブレットの正面でタブレットからの距離が約30cmから75cmです。
カメラが顔を認識できるように、必要に応じて液晶ディスプレイの角度などを調整してください。
- Windows Helloの顔認識機能は赤外線を使用しています。次のような環境では、顔認証が正しく検出できないことがあります。
 - ・ タブレットの顔認証対応Webカメラや顔に直接日差しが当たる場所
 - ・ 晴れた日の屋外や窓際など正しく検出するために上記の場所での使用を避け、直接日差しが当たらないようにカーテンなどで日差しを遮ってください。
また、窓際で使用したり、窓に向かってタブレットを設置したりすることは避けてください。
- 赤外線を含む電球（白熱電球など）を使用している場合は、タブレットの顔認証対応Webカメラや顔に電球の光が当たらないようにしてください。
- タブレットの顔認証対応Webカメラの発光部を長時間見つめないでください。
- 顔の登録および顔認識時は、Webカメラ状態表示LEDが青く点灯します。
- 本タブレットに搭載されているカメラは顔認証に最適化されたカメラです。
カメラの視野に人の顔がある場合、人の顔に対して優先的に露出補正を行います。
そのため、周囲の明るさと人の顔の明るさの差が大きい場合、人の顔の露出は適正になりますが、周囲の露出は適正でない状態で撮影されることがあります。

■ 顔を登録する

Windows Helloの顔認識機能をお使いになるときは、次の設定を行ってください。

- 1 「スタート」ボタン→  または  (設定) → 「アカウント」の順にタップします。
- 2 「サインイン オプション」をタップします。
- 3 次の操作を行います。
 - Windows 11の場合
 1. 「顔認識 (Windows Hello)」 → 「セットアップ」の順にタップします。
 - Windows 10の場合
 1. 「Windows Hello 顔認識」をタップし、「セットアップ」をタップします。

POINT

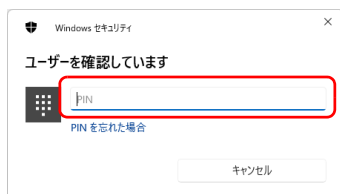
- ▶ PINを設定していない場合は、先にPINの設定を行ってください。
 - ・Windows 11の場合は、「PIN (Windows Hello)」をタップします。
 - ・Windows 10の場合は、「Windows Hello 暗証番号 (PIN)」の「追加」をタップします。

「Windows Hello セットアップ」ウィンドウが表示されます。

- 4 「開始する」をタップします。



- 5 PINを入力します。



6 画面の指示に従って、顔を登録します。





7 顔の登録が完了したら、「閉じる」をタップします。 必要に応じて「精度を高める」をタップし、顔を登録し直します。



POINT

- ▶ 「閉じる」をタップした後も精度を高めることができます。
手順3の「サインインオプション」の画面でWindows 11の場合は「顔認証 (Windows Hello)」、Windows 10の場合は「Windows Hello 顔認証」の「認識精度を高める」をタップし、再度顔認識を行ってください。

■ 顔認識でサインインできるか確認する

- 1 「スタート」ボタン→  または （アカウント名）→「ロック」の順にタップし、ロック画面を表示します。
- 2 顔認証対応Webカメラに顔を認識させて、サインインできるか確認します。

POINT

- ▶ サインインできなかった場合
画面の指示に従って、PINまたはパスワードを入力してサインインし、顔の登録をやり直してください。

2.15.2 Windows Helloを使って指紋認証でサインインする

指紋センサーの位置は「1章 各部名称」（→P.11）をご覧ください。

■ Windows Helloの指紋認証機能をお使いになるうえでの注意

- Windows Helloの指紋認証機能は完全な本人認識・照合を保証するものではありません。
- Windows Helloをお使いになるには、PINを設定しておく必要があります。
- 指紋認証を設定している場合でも、パスワードやPIN入力によるロック解除は可能です。
- Windows Helloで登録した指紋情報は、タブレットにのみ保存され、インターネット上にアップロードされることはありません。
- 修理などにより、指紋認証機能が使用できなくなる場合があります。
修理後に指紋認証機能が使用できなくなった場合は、指紋を登録し直してください。

□ 指紋センサーに関するご注意

- 次のような場合は、故障および破損の原因となることがあります。
 - ・ 指紋センサー表面をひっかいたり、先のとがったものでついたりした場合
 - ・ 指紋センサー表面を爪や硬いもので強く擦り、センサー表面にキズが入った場合
 - ・ 泥などで汚れた手で指紋センサーに触れ、細かい異物などでセンサー表面にキズが入ったり、表面が汚れたりした場合
 - ・ 指紋センサーのセンサー部にシールを貼ったり、インクなどで塗りつぶしたりした場合
- 指紋センサーに指を置く前に金属に手を触れるなどして、静電気を取り除いてください。静電気が故障の原因となる場合があります。冬期など乾燥する時期は特にご注意ください。

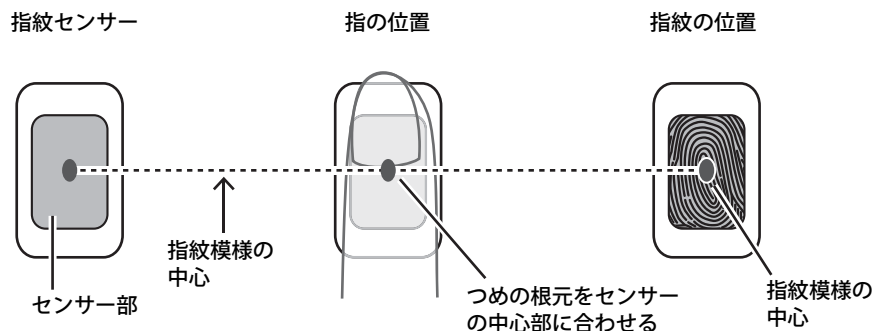
□ 指紋登録時、照合時のご注意

- 本機能は、画像に含まれる指紋の特徴をもとに照合を行うものです。このため、お客様によっては指紋の特徴情報が少なく、登録操作ができない場合があります。
- 指の状態が次のような場合は、指紋の登録や指紋認証が困難になることがあります。
なお、指を強く押し当てる、手を洗う、手を拭く、認証する指を変える、手荒れや乾いている場合はクリームを塗るなど、お客様の指の状態に合わせて対処することで、状況が改善されることがあります。
 - ・ お風呂上がりなどで指がふやけている場合
 - ・ 指に汗や脂が多く、指紋の間が埋まっている場合
 - ・ 手が荒れたり、指に損傷（切傷、ただれなど）を負っている場合
 - ・ 手が極端に乾燥していたり、乾燥肌の場合
 - ・ 指が泥や油などで汚れている場合
 - ・ 太ったり、やせたりして指紋が変化した場合
 - ・ 磨耗して指紋が薄くなった場合
 - ・ 指紋登録時に比べ、指紋認証時の指の表面状態が極端に異なる場合
 - ・ 濡れたり、汗をかいたりしている場合
 - ・ 指が小さい場合
- センサー表面が濡れていたり結露していたりすると、誤作動の原因となります。柔らかい布で水分を取り除いてから使用してください。
- 各指で指紋が異なりますので、必ず登録を行った指で認証の操作を行ってください。
- 指紋認証が頻繁に失敗する場合は、登録した指紋を削除して、指紋の登録をやり直してください。

□ 指紋の読み取り方

● 指の位置

つめの根元を指紋センサーの中心部に合わせてください。
指紋模様の中心がセンサーの中心部に当たりやすくなります。

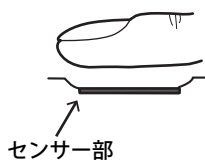


指紋模様の中心の位置には個人差があります。登録・認証がされにくい場合、指紋模様の中心がセンサーの中心部に当たるよう、指の位置を調整してください。

● タッチ方法

指の位置を合わせて、指の腹をセンサー部に接触させて少し静止（2～3秒）してください。

1. 指の位置を合わせる



2. 指の腹をセンサー部に接触

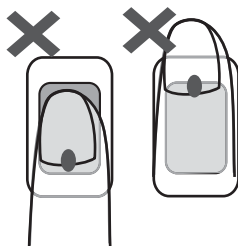


3. 少し静止

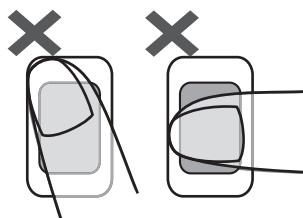


● 指紋が読み取りにくい例

つめの根元の位置がずれている



指が傾いている





指が立っている



■ 指紋を登録する

Windows Helloの指紋認識機能をお使いになるときは、次の設定を行ってください。

- 1 「スタート」ボタン→  または  (設定) → 「アカウント」の順にタップします。
- 2 「サインイン オプション」をタップします。
- 3 次の操作を行います。
 - Windows 11の場合
 1. 「指紋認識 (Windows Hello)」 → 「セットアップ」の順にタップします。
 - Windows 10の場合
 1. 「Windows Hello 指紋認証」をタップし、「セットアップ」をタップします。

POINT

- ▶ PINを設定していない場合は、先にPINの設定を行ってください。
 - ・Windows 11の場合は、「PIN (Windows Hello)」をタップします。
 - ・Windows 10の場合は、「PIN」の「追加」をタップします。

「Windows Helloセットアップ」ウィンドウが表示されます。

- 4 「開始する」をタップします。



- 5 PINを入力します。



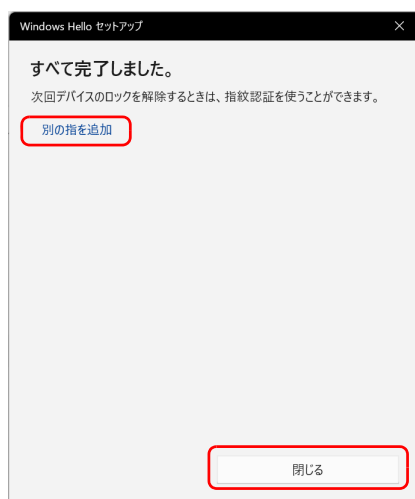
6 画面の指示に従って、指紋を登録します。



数回タッチします。

7 指紋の登録が完了したら、「閉じる」をタップします。



必要に応じて「別の指を追加」をタップします。



POINT

- ▶ 「閉じる」をタップした後も精度を高めることができます。
手順3の「サインインオプション」の画面でWindows 11の場合は「指紋認証 (Windows Hello)」、Windows 10の場合は「Windows Hello 指紋認識」の「認識精度を高める」をタップし、再度指紋認識を行ってください。

■ 指紋認証でサインインできるか確認する

- 1 「スタート」ボタン→  または （アカウント名）→「ロック」の順にタップし、ロック画面を表示します。
- 2 指紋センサーに指紋を認識させて、サインインできるか確認します。

POINT

- ▶ サインインできなかった場合
画面の指示に従って、PINまたはパスワードを入力してサインインし、指紋の登録をやり直してください。

■ 登録・認証がうまくいかないときは

登録・認証しにくい指の状態と対処方法

次の対処を行ってください。

指の状態	対処方法
手が濡れたり汗をかいている	・ 指を拭いてください。 ・ センサー面に指を置いた跡が見える場合はセンサー面も拭いてください。 (改善されない場合は、指紋を登録し直してください。)
手が荒れたり乾燥している	・ 指に息を吹きかけてください。 ・ ウェットティッシュなどで指紋部分を軽く湿らせてください。 ・ 指を強めに長く押し当ててください。
指に傷がある 磨耗して指紋が薄い	・ 登録する指を変えてください。

登録や認証が困難なケース

- お風呂上がりなどで指がふやけている場合
- 指が小さい場合（小学生以下など小柄な方）

指紋センサー面の汚れ

指紋センサー面が汚れていると指紋を正確に読み取れません。

指紋の登録・認証失敗が頻発するときは、乾いた柔らかい布（メガネ拭きなど）で軽く拭いてください。

指紋の登録時には、短時間に連続して指紋の取得を行うため指紋の跡が残りやすく、1回の指紋取得ごとにセンサー面の汚れの拭き取りが必要になる場合があります。

2.16 防水性能

対象 防水対応機種（専用ペンを除く）

次の状態の時に本タブレットはIPX2対応の防水性能を有します。

- 端子カバーとスロットカバーをしっかりと閉じた状態
- 専用ペンを奥までしっかりと差し込んだ状態（ARROWS Tab Q7311/JBはカスタムメイドで選択した場合に専用ペンが添付されます。）

IPX2とは、滴水試験装置を使用し、本タブレットを15度傾けた状態で3mm／分の水を4方向より合計10分間滴水しても、タブレットとしての機能を有することを意味します。

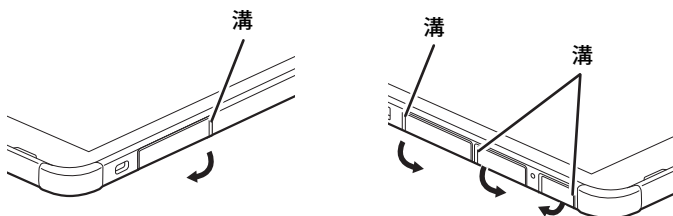
2.16.1 防水性能でできること

- 1時間の雨量が20mm程度の雨の中で、傘をささずに通信ができます。
 - 手が濡れているときやタブレットに水滴がついているときには、端子カバーやスロットカバーの開閉はしないでください。
 - 専用ペンは必ず本体に収納した状態でお使いください。（ARROWS Tab Q7311/JBはカスタムメイドで選択した場合）
 - 表示画面側を上に向けてお使いください。その他の向きでは水滴が本体内部に浸水するおそれがあります。

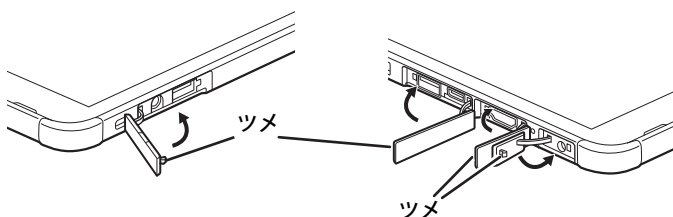
2.16.2 防水性能を維持するために

水の浸入を防ぐために、必ず次の点を守ってください。

- 常温の水道水以外の液体をかけたり、つけたりしないでください。
- スピーカーなどを綿棒やとがったものでつつかないでください。
- 落下させないでください。傷の発生などにより防水性能の劣化を招くことがあります。
- nanoSIMカード、microSDカードの取り付け／取り外し時や外部接続端子を使用するときには、次の図に示す溝に指をかけてすこし引き出し、矢印の方向にカバーを開けてください。



また、nanoSIMカード、microSDカードの取り付け／取り外し後や外部接続端子使用後は、矢印のように動かしてカバーを閉じ、ツメを押し込んでカバーの浮きがないことを確認してください。



- 端子カバーとスロットカバーはしっかりと閉じてください。閉じにくい場合は、カバーの両端を同時に押し込んでください。
また、接触面に微細なゴミ（髪の毛1本、砂粒1つ、微細な繊維など）がはさまると、浸水の原因となります。
- 端子カバーのアーム部が外れやすい場合があります。これは、お客様が端子カバーを交換できるよう取外し可能な仕様となっているためです。外れた場合は再度カバーの穴にアーム部を挿入してください。

POINT

- ▶ 防水性能を維持するため、異常の有無にかかわらず必ず2年に1回、部品の交換が必要となります。部品の交換はタブレットをお預かりして有料にて承ります。「富士通ハードウェア修理相談センター」までお問い合わせください。
- 端子カバー、スロットカバーを変形させないでください。浸水の原因となります。
- 専用ペンが濡れた場合は、必ず水滴を拭き取ってから本体に収納してください。（ARROWS Tab Q7311/JBはカスタムメイドで選択した場合）
- 専用ペンの末端に防滴用ゴムがついています。防滴性能維持のため2年に1回専用ペンを交換してください。また防滴用ゴムが破損した場合も交換してください。
- 本タブレットが濡れた場合は、液晶パネル面を上側にして乾いた布などの上に平置きし、液晶パネル面と本体側面を乾いた布などでよく拭き取ってください。

2.16.3 防水性能をお使いになるうえでの注意

次のような行為は行わないでください。

- お風呂やプールなどの水中に沈める
- 強い雨風のなか野外で使用する
- 石けん、洗剤、または入浴剤をつける
- ブラシやスポンジで洗う
- 洗濯機で洗う
- シャワーなどの水流を当てる
- 海水につける
- 温泉で使う
- 砂や泥をつける

また、次の注意事項を守って正しくお使いください。

- 付属品は防水性能を有していません。専用キーボードにタブレットを差し込んだ状態で動画再生などをする場合、ACアダプタを接続していない状態でも、水周りでは使用しないでください。
- 温風（ドライヤーなど）を当てたりしないでください。
- 水滴が付着したまま放置しないでください。電源端子がショートしたり、寒冷地では凍結したりして、故障の原因となります。
- スピーカーに水滴を残さないでください。動作不良となるおそれがあります。
- 端子カバーやスロットカバーが開いている状態で水などの液体がかかった場合、内部に液体が入り、感電や故障の原因となります。そのまま使用せずに電源を切り、「富士通ハードウェア修理相談センター」までお問い合わせください。
- 端子カバーやスロットカバーのゴムパッキンが傷付いたり、変形したりした場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」までお問い合わせください。

POINT

- ▶ 実際の使用にあたって、すべての状況での動作を保証するものではありません。また、調査の結果、お客様の取り扱いの不備による故障と判明した場合、保証の対象外となります。

2.16.4 充電のときの注意

充電時および充電後には、必ず次の点を確認してください。

- 充電時は、本タブレットが濡れていないか確認してください。本タブレットが濡れている状態では、絶対に充電しないでください。
- 付属品は防水性能を有していません。
- 本タブレットが濡れている場合や水に濡れた後に充電する場合は、乾いた清潔な布などで水を拭き取ってから、付属の専用キーボードに差し込んだり、端子カバーを開いたりしてください。
- 端子カバーを開いて充電した場合には、充電後はしっかりとカバーを閉じてください。
- ACアダプタや専用キーボードは、水周りや水のかかる場所で使用しないでください。火災や感電の原因となります。
- 濡れた手でACアダプタや専用キーボードに触れないでください。感電の原因となります。

3

第3章

周辺機器

周辺機器の取り付け方法や注意事項を説明しています。

3.1 周辺機器を取り付ける前に	85
3.2 スリムキーボード	86
3.3 スタンド	93
3.4 nanoSIMカード	95
3.5 コネクタの接続/取り外し	98

3.1 周辺機器を取り付ける前に

ここでは、周辺機器を取り付ける前に知っておいていただきたいことを説明しています。必ずお読みください。

3.1.1 注意事項

- 本タブレットに対応している弊社純正品をお使いください。
詳しくは、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」(https://jp.fujitsu.com/platform/pc/product/catalog_syskou/)をご覧ください。
- お使いになる周辺機器のマニュアルもあわせてご覧ください。
- 操作に必要な箇所以外は触らないでください。故障の原因となります。
- 周辺機器の取り付け／取り外しは、Windowsのセットアップが完了してから行ってください。
- お使いになる周辺機器によっては、取り付け後にドライバーなどのインストールや設定が必要な場合があります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- 一度に取り付ける周辺機器は1つだけにしてください。一度に複数の周辺機器を取り付けると、ドライバーのインストールなどが正常に行われなくなることがあります。1つの周辺機器の取り付けが終了して、動作確認を行った後、別の周辺機器を取り付けてください。
- 一般的には周辺機器の電源を入れてからタブレット本体の電源を入れ、タブレット本体の電源を切ってから周辺機器の電源を切ります。ただし、周辺機器によっては逆の順序が必要な場合があります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。

3.2 スリムキーボード

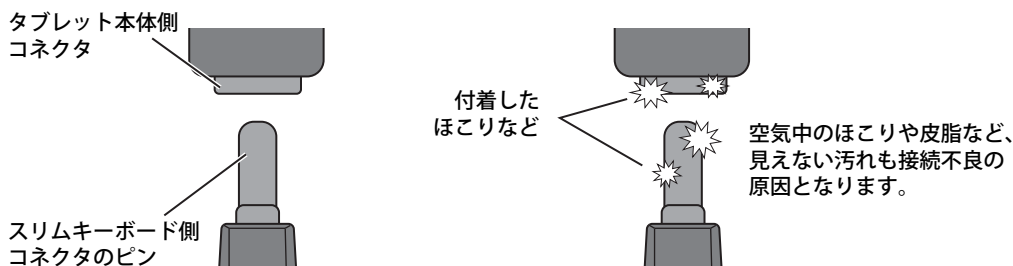
対象 スリムキーボード使用時

タブレット本体とスリムキーボードを接続することで、ノートパソコンのようにキーボードとフラットポイントで操作できます。

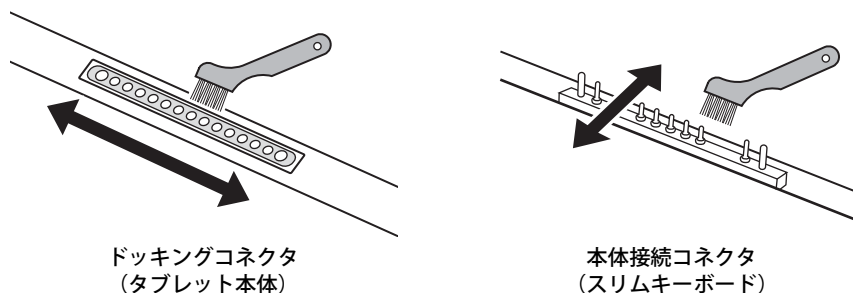
ここでは、スリムキーボードの取り付け／取り外し方法について説明しています。必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」（→P.85）をお読みになってから作業をしてください。

3.2.1 注意事項

- キーボードや本タブレットの液晶ディスプレイに砂ぼこりなどの汚れが付いた状態で、本体を閉じて持ち運ばないでください。液晶ディスプレイに傷が付く原因となります。「4章 お手入れ」（→P.101）をご覧ください。汚れを取り除いてください。
- タブレット本体とスリムキーボードの接続コネクタ部（※）は、わずかな汚れの付着でもスリムキーボードが使用できない、キーボードから充電されないなどの事象が発生することがあります。汚れる前に定期的に添付のブラシおよび市販の綿棒で清掃してください。（※）ARROWS Tab Q7311/JBの場合、清掃時はスリムキーボード用ブラシのフラップ部を、本体接続コネクタ部が見えるように押さえてください。



- ・ 添付のブラシによる清掃のしかた
矢印方向に10往復程度ブラシを動かしてください。

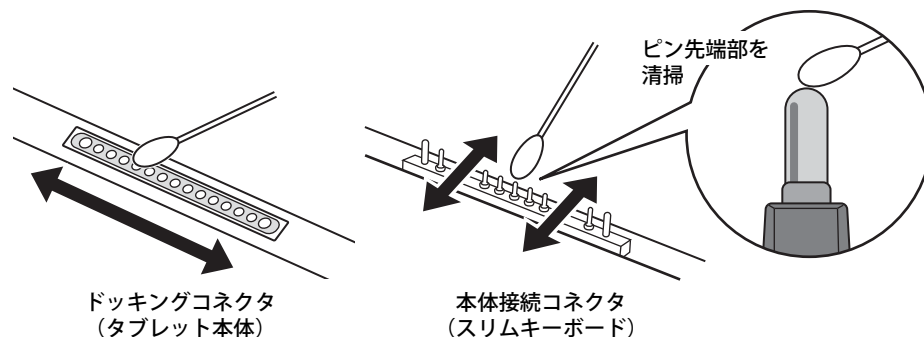


・綿棒による清掃のしかた

綿棒をコネクタに押し当て、矢印方向に5往復程度こすりながらコネクタ全体を清掃してください。

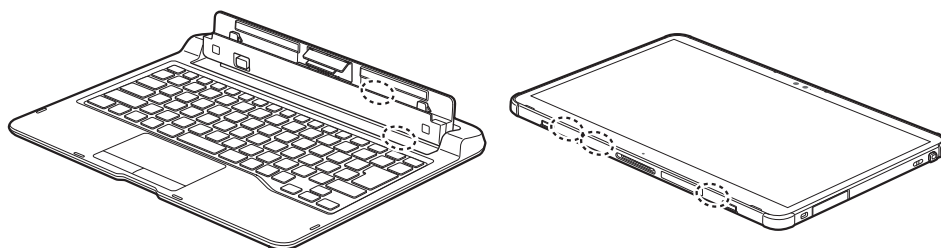
タブレット本体 : コネクタ部全体を左右に5往復程度

スリムキーボード : ピン先端の汚れが取れるように、ピンごとに前後に5往復程度全体をこすった後は清掃用ブラシを使って全体を払ってください。



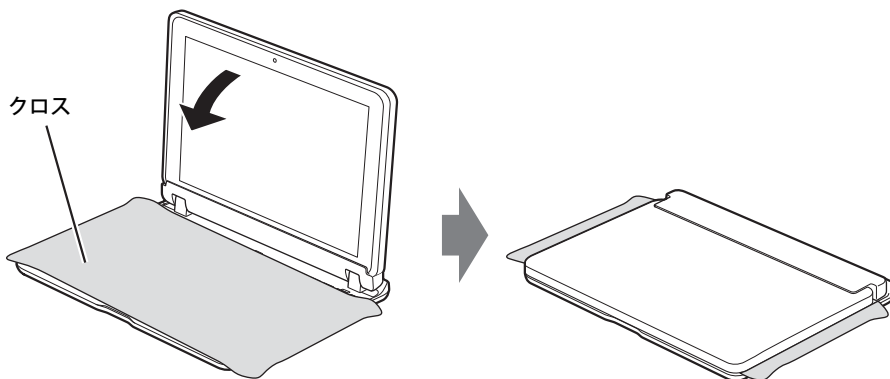
重要

- ▶ ボールペンやつまようじなど硬いもので清掃すると、コネクタ表面に傷が付き接続不良の原因となります。必ず添付の清掃用ブラシや綿棒を使用してください。
 - ▶ スリムキーボードのコネクタ端子は、綿棒を強く押し付けたり、横方向に強くこすったりすると変形する恐れがありますので、ご注意ください。
 - ▶ 綿棒の先は濡らさず、乾いた状態のもので清掃してください。（アルコールなどは付けしないでください。）
 - ▶ 清掃で綿棒の先が汚れたら、新しいものに交換してください。
- スリムキーボード側の接続コネクタ部は指で触れないでください。汚れが付着する原因となります。
 - 本スリムキーボードおよびタブレット本体には、下図の点線部分に磁石が取り付けられています。本スリムキーボードに心臓ペースメーカや磁気カードなど、磁気の影響を受けやすいものは近づけないでください。故障やデータ消失などのおそれがあります。



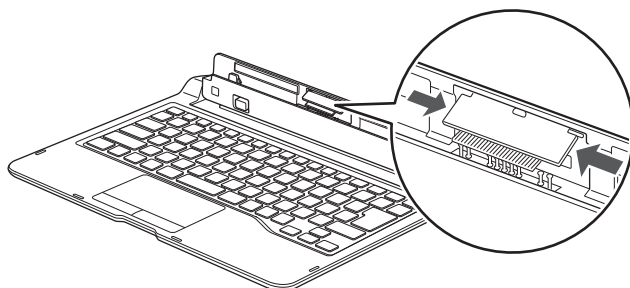
- タブレット本体とスリムキーボードの角度によっては、スリムキーボードの手前が浮いたり、後ろに倒れる場合があります。
タブレット本体とスリムキーボードは、開きすぎないように注意してお使いください。
- タブレット本体とスリムキーボードを開くときは、机の上など平らな場所に置いてください。タブレット本体の中央に指をかけ、持ち上げるときに、スリムキーボードの中央を押さえてください。スリムキーボードの端を押さえながら開くと、スリムキーボードが変形するおそれがあります。
- スリムキーボードの装着時、タブレット本体は180°まで開かず、途中で止まる仕様になっています。途中で止まったら、それ以上無理に開かないでください。変形や破損の原因となります。

- ほこりや異物などによって液晶ディスプレイ（タッチパネル）が傷付くことを防止するため、スリムキーボードにクロスを添付しています。タブレット本体とスリムキーボードを取り付けて本体を閉じるときには、タブレット本体とスリムキーボードの間にクロスをはさんで使用してください。
 1. タブレット本体とスリムキーボードの間にクロスを置き、タブレット本体を閉じます。



POINT

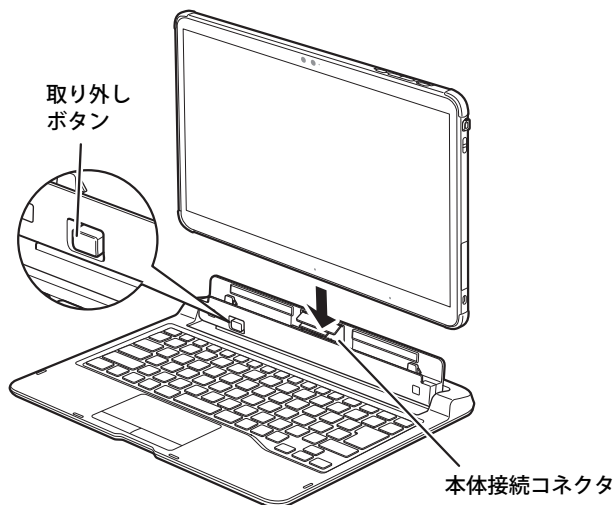
- ▶ クロスが汚れた場合は水で手洗いし、陰干ししてください。
なお、クロスを洗うと、色落ちしたり縮んだりすることがあります。
- ARROWS Tab Q7311/JBの場合は、スリムキーボード用ブラシを交換することができます。
 - ・スリムキーボード用ブラシの交換時に、フラップ部の裏側のバネに触らないように注意してください。けがの原因となります。
 - ・スリムキーボード用ブラシの交換時に、フラップ部を持ち上げる方向に動かさないでください。破損の原因となります。
 - ・スリムキーボード用ブラシは、横方向から強い衝撃を与えないでください。破損の原因となります。



- ・ブラシ（刷毛）部分には、極力触れないようにしてください。汚れが付着したり変形したりする原因となります。
- ・スリムキーボード用ブラシが外れた場合は、「3.2.4 ブラシを交換する」（→P.91）をご覧ください。取り付けてください。

3.2.2 スリムキーボードを取り付ける

- 1 タブレット本体のコネクタから、周辺機器を取り外します（→P.98）。
- 2 スリムキーボードの本体接続コネクタ部を90°に開きます。
- 3 スリムキーボードの取り外しボタンを押して、赤いマークを確認します。
- 4 スリムキーボードとタブレット本体を接続します。
本体接続コネクタと、タブレット本体のドッキングコネクタ（→P.12）の位置を合わせて、タブレット本体をまっすぐ下ろし、「カチッ」と音がするまでしっかりと取り付けます。
挿入のしかたによっては、「カチッカチッ」と2回音がある場合があります。
- 5 接続後タブレット本体を軽く引っ張り、きちんとロックされているか確認します。
ロックされていない場合は、取り外しボタンを押してタブレット本体をいったん取り外してから、もう一度取り付けてください。

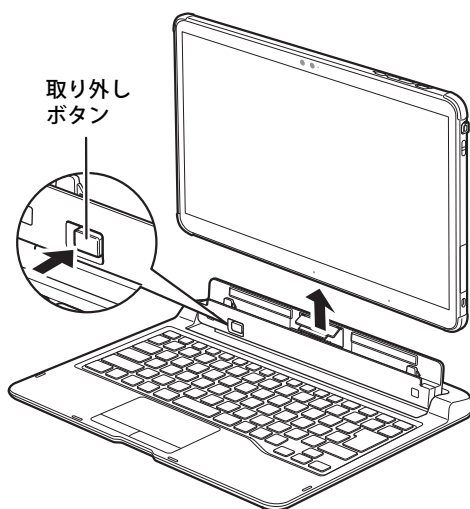


3.2.3 スリムキーボードを取り外す

- 1 タブレット本体とスリムキーボードを90°に開きます。
- 2 本体に手を添えて、スリムキーボードの取り外しボタンを押した状態のまま、タブレット本体をまっすぐ持ち上げます。

重要

- ▶ スリムキーボードの取り外しボタンを押す前に、タブレット本体を持ち上げないでください。タブレット本体を持ち上げていると、スリムキーボードの取り外しボタンが押せない場合があります。
- ▶ スリムキーボードの取り外しは、キーを押さないように注意してください。



3.2.4 ブラシを交換する

スリムキーボード用ブラシが破損したときは、次の手順に従って新しいブラシと交換してください。

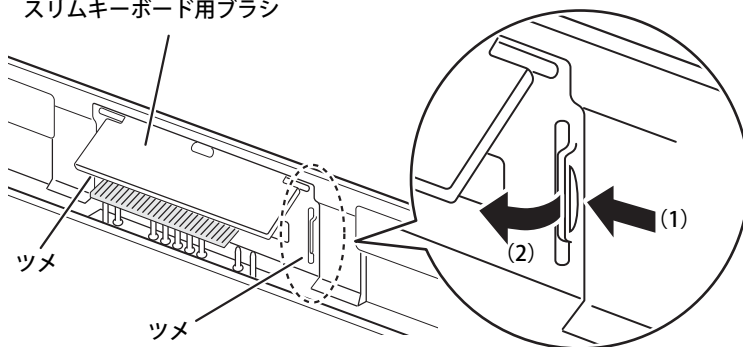
POINT

- ▶ ブラシの交換には、別売の交換用スリムキーボード用ブラシをご購入ください。
詳しくは、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」(https://jp.fujitsu.com/platform/pc/product/catalog_syskou/)をご覧ください。

1 (1) ブラシ片側のツメを内側に向かって押しながら、(2) 手前に引きブラシを取り外します。

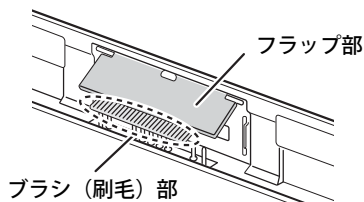
ブラシのどちら側からも取り外すことができます。

スリムキーボード用ブラシ

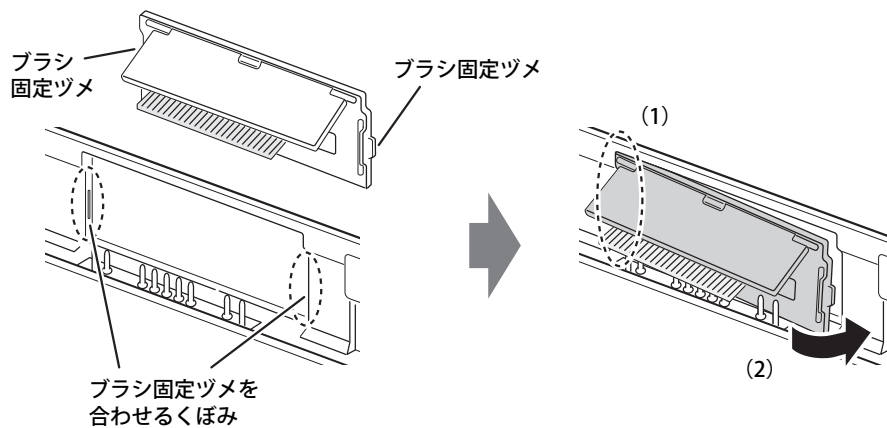


重要

- ▶ ブラシ交換時は、フラップ部を持って引き上げないでください。故障の原因となります。必ず、上記手順で取り外してください。また、ブラシ（刷毛）部分は、極力触れないでください。汚れの付着や変形の原因となります。



- 2** 新しいブラシの片側のブラシ固定ツメを、(1) スリムキーボードのくぼみに合わせ差し込み、(2) パチンと音がするまで押し込みます。
ブラシのどちら側からも取り付けることができます。



3.3 スタンド

対象 スタンド使用時

ここでは、スタンドの取り付け／取り外し方法について説明しています。

3.3.1 注意事項

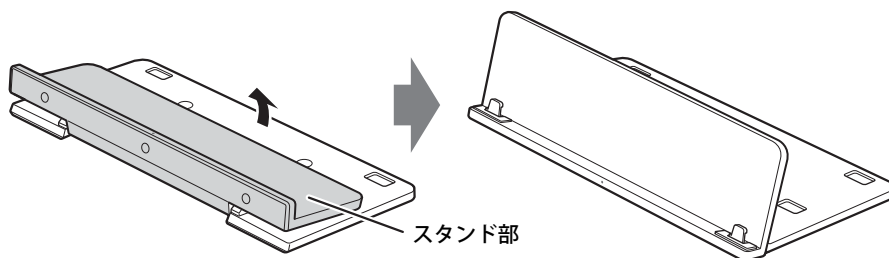
- スタンドを開くときはスタンド部の中央部分を持って開いてください。端を持って開くと、スタンドが変形するおそれがあります。
- スタンドは90°まで開かず、途中で止まる仕様になっています。途中で止まったら、それ以上無理に開かないでください。変形や破損の原因となります。
- スタンドの角度を変えるときは、手をはさまないよう注意してください。けがおよび故障の原因となります。特に、お子様が近くにいる場合はご注意ください。
- タブレット本体をスタンドに挿したまま持ち歩かないでください。タブレット本体はロックされていないので、落下して破損するおそれがあります。

3.3.2 スタンドを取り付ける

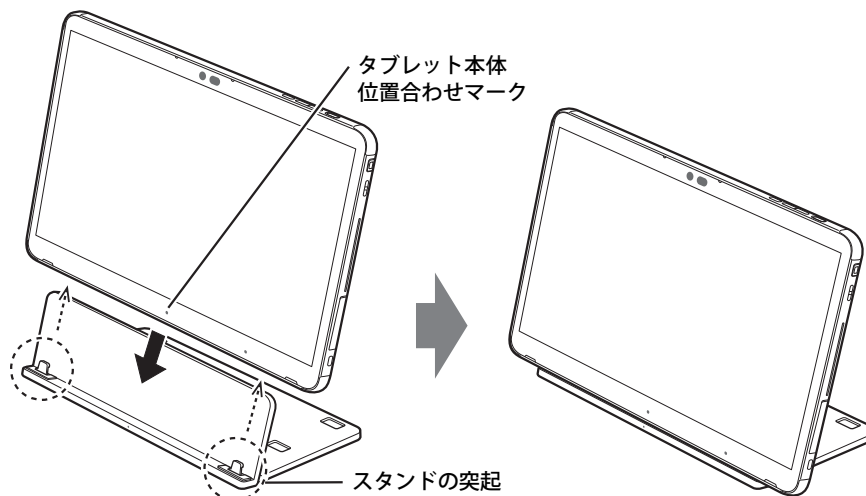
1 スタンド部の中央部分を持って、スタンドを開きます。

重要

- ▶ スタンドが止まったところで、それ以上無理に開かないでください。



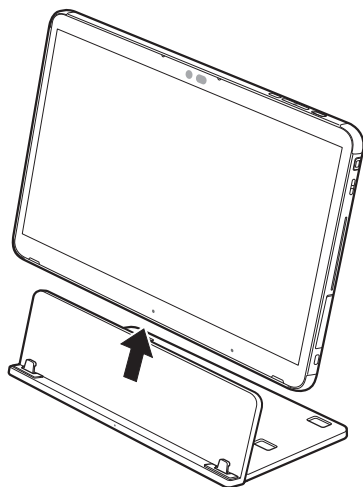
- 2 タブレット本体およびスタンドの位置合わせマークを合わせて、タブレット本体をスタンド部に沿って下ろします。
タブレット本体左右の穴にスタンドの突起を挿入してください。



- 3 タブレット本体を使いやすい角度に調整します。
角度を調整するときは、タブレット本体の中央部を持って操作してください。端を持って操作すると、スタンドが変形するおそれがあります。

3.3.3 スタンドを取り外す

- 1 スタンドを押さえ、タブレット本体をゆっくりと持ち上げます。



3.4 nanoSIMカード

対象 無線WANモデル

本タブレットのnanoSIMカードスロットにnanoSIMカードをセットすると、無線WANによる通信ができるようになります。

ここでは、nanoSIMカードをセットしたり取り出したりする方法について説明しています。無線WANの使い方については、『内蔵無線WANをお使いになる方へ』をご覧ください。必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」（→P.85）をお読みになってから作業をしてください。

3.4.1 注意事項

- nanoSIMカードの表面にテープなどを貼らないでください。故障の原因となります。

重要

- ▶ nanoSIMカードをセットしたり取り出したりするときは、必ずタブレット本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。電源の切り方については、「2.8.2 電源を切る」（→P.48）をご覧ください。

3.4.2 nanoSIMカードをセットする

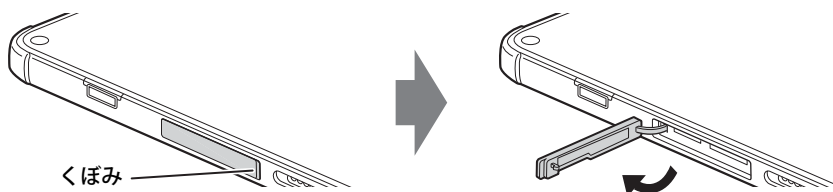
重要

- ▶ カードトレイの取り扱いについては、充分にご注意ください。
 - ・ nanoSIMカードは、必ずカードトレイにセットして挿入してください。nanoSIMカードを直接タブレット本体に差し込んでも認識できません。また、nanoSIMカードが取り外せなくなるなど、タブレット本体の故障の原因となります。
 - ・ 変形したカードトレイを挿入すると、通常のnanoSIMカードを認識できない場合があります。
 - ・ カードトレイは紛失しないように注意してください。

1 タブレット本体の電源を切り、裏返します。

2 くぼみにつめの先端をかけ、カードスロットカバーを矢印の方向に開きます。

イラストは、タブレット本体の液晶ディスプレイを下にした状態です。



POINT

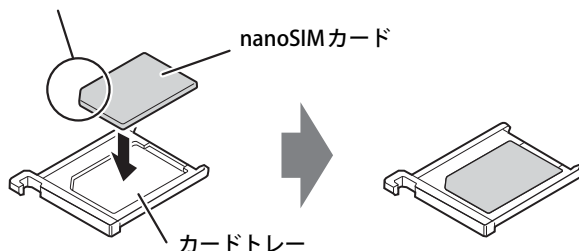
- ▶ カバーを開閉するときは、強く引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったりしないでください。

3 カードトレイのツメをつかみカードトレイを引き出します。

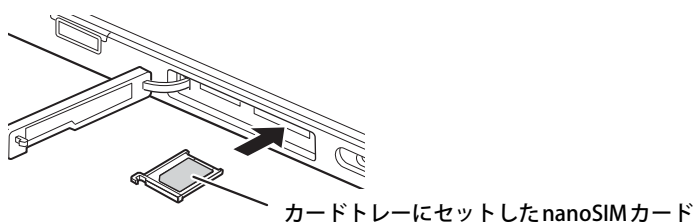
カードトレイのツメがつかみづらいことがあります。カードトレイのツメ部分につめや先の細い棒などをひっかけ、引き出してください。

4 nanoSIMカードをカードトレイにセットします。

角が欠けている部分



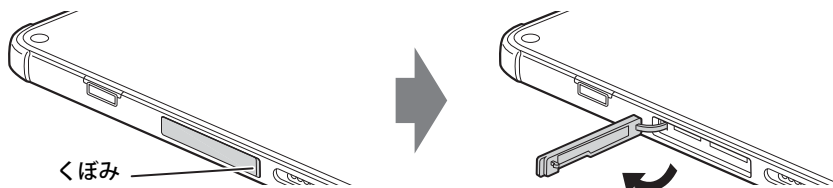
5 カードトレイをnanoSIMカードスロットに差し込みます。



- 6 カードスロットカバーを閉じます。

3.4.3 nanoSIMカードを取り出す

- 1 タブレット本体の電源を切り、裏返します。
- 2 くぼみにつめの先端をかけ、カードスロットカバーを矢印の方向に開きます。



POINT

- ▶ カバーを開閉するときは、強く引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったりしないでください。

- 3 カードトレイのツメをつかみカードトレイを引き出し、nanoSIMカードを取り出します。
カードトレイのツメがつかみづらいことがあります。カードトレイのツメ部分につめや先の細い棒などをひっかけ、引き出してください。

重要

- ▶ 取り外したnanoSIMカードは大切に保管してください。

- 4 カードトレイをnanoSIMカードスロットに差し込みます。
- 5 カードスロットカバーを閉じます。

3.5 コネクタの接続／取り外し

ここでは、周辺機器を接続したり、取り外したりする一般的な方法について説明しています。

接続する周辺機器やケーブルのマニュアルもあわせてご覧ください。また、それぞれのコネクタの仕様については、「5.1 本体仕様」（→P.105）をご覧ください。

必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」（→P.85）をお読みになってから作業をしてください。

3.5.1 注意事項

- ご購入時の構成によっては、記載されているコネクタの一部は搭載されていません。
- 周辺機器のコネクタの形状によっては、接続できなかつたり、隣接するコネクタに接続された周辺機器と干渉したりする場合があります。周辺機器を接続する前に確認してください。
- 周辺機器によっては、接続したり取り外したりするときに、コネクタの仕様にかかわらずタブレット本体の電源を切る必要があるものがあります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- ディスプレイに表示されるまで、しばらく時間がかかることがあります。

3.5.2 ディスプレイコネクタ



HDMI出力端子

外部ディスプレイを接続します。タブレット本体の電源を切ってから接続してください。

■ 接続する

- 1 タブレット本体の電源を切ります。
- 2 ディスプレイコネクタに、ディスプレイのケーブルを接続します。
コネクタの形を互いに合わせまっすぐに差し込んでください。
- 3 ディスプレイの電源を入れてから、タブレット本体の電源を入れます。

■ 取り外す

重要

- ▶ マルチディスプレイ機能（→P.36）をお使いになっている場合は、取り外すディスプレイに画面が表示されないようにしてからディスプレイを取り外してください。

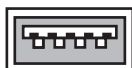
□ HDMI出力端子

- 1 タブレット本体の電源を切ってから、ディスプレイの電源を切ります。
- 2 ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

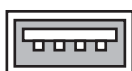
3.5.3 USBコネクタ



USB Type-Cコネクタ



USB 3.2 Type-Aコネクタ（青色）



USB 2.0 Type-Aコネクタ（黒色）

USB対応周辺機器を接続します。タブレット本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。

■ 接続する

- 1 USBコネクタに、USB対応周辺機器のケーブルを接続します。
コネクタの形を互いに合わせまっすぐに差し込んでください。



POINT

- ▶ USB Type-Cコネクタは、どちらの向きでも差し込むことができます。

■ 取り外す

重要

- ▶ USB対応周辺機器によっては、取り外す前に「ハードウェアの安全な取り外し」の操作が必要になる場合があります。詳しくはお使いのUSB対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。

- 1 「ハードウェアの安全な取り外し」が必要な場合は次の操作を行います。
 1. 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコン（ または ）をタップします。
 2. 取り外すデバイスをタップし、表示されるメッセージに従ってデバイスを停止します。
- 2 ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

3.5.4 オーディオ端子

オーディオ機器を接続します。タブレット本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。

重要

- ▶ マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子にオーディオ機器を接続したり取り外したりするときは、オーディオ機器の再生音量を小さくするか、再生を停止してください。

■ 接続する

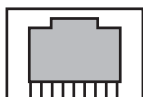
- 1 マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子に、オーディオ機器のケーブルを接続します。
まっすぐに差し込んでください。

■ 取り外す

- 1 ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

3.5.5 LANコネクタ

対象 スリムキーボード、LAN変換アダプタ使用時



LANケーブルを接続します。タブレット本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。
ただし、電源を入れたまま接続すると、LANが使用可能になるまで時間がかかる場合があります。

重要

- ▶ 1000BASE-Tの通信を行うためには、1000BASE-Tに対応したネットワーク機器とエンハンスドカテゴリ5（カテゴリ5E）以上のLANケーブルを使用してください。

■ 接続する

- 1 LANコネクタにネットワーク機器のケーブルを接続します。
コネクタの形を互いに合わせ、「カチッ」と音がするまでまっすぐに差し込んでください。

■ 取り外す

- 1 コネクタのツメを押さえながら、LANケーブルをまっすぐに引き抜きます。

4

第4章

お手入れ

快適にお使いいただくためのお手入れ方法を説明しています。

4.1 日常のお手入れ	102
-------------------	-----

4.1 日常のお手入れ

タブレット本体や周辺機器を長時間使用していると、汚れが付いたり、ほこりがたまっていきます。ここでは、日常のお手入れのしかたを説明しています。

4.1.1 タブレット本体、スリムキーボードの表面の汚れ

乾いた柔らかい布で拭き取ってください。

汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。

重要

- ▶ 拭き取るときは、内部に水が入らないよう充分に注意してください。
- ▶ シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは使わないでください。損傷する原因となります。

■ キーの間のほこり

キーボードのキーの間のほこりは、柔らかいブラシなどを使って取り除いてください。

重要

- ▶ ゴミは吹き飛ばして取らないでください。キーボード内部にゴミが入り、故障の原因となります。
- ▶ 掃除機などを使って、キーを強い力で引っ張らないでください。
- ▶ 毛先が抜けやすいブラシは使用しないでください。キーボード内部にブラシの毛などの異物が入り、故障の原因となります。

4.1.2 指紋センサー

対象 指紋センサー搭載機種

センサー部にほこりや汚れが付いたりすると、認証の精度が低下する可能性があります。センサーのほこりや汚れは、次の方法で取り除いてください。

- ほこりは乾いた柔らかい布で軽く払います。
- 汚れは乾いた柔らかい布で軽く拭き取ります。

重要

- ▶ 水を使用しないでください。損傷する原因となります。
- ▶ シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。損傷する原因となります。

4.1.3 液晶ディスプレイ／タッチパネル

つめや指輪などで傷を付けないように注意しながら、乾いた柔らかい布かメガネ拭きを使って軽く拭き取ってください。水や中性洗剤を使用して拭かないでください。

重要

- ▶ 液晶ディスプレイ／タッチパネルの表面を固いものでこすったり、強く押しつけたりしないでください。液晶ディスプレイ／タッチパネルが破損するおそれがあります。
- ▶ 化学ぞうきんや市販のクリーナーを使うと、成分によっては、画面表面のコーティングを傷めるおそれがあります。次のものは使わないでください。
 - ・アルカリ性成分を含んだもの
 - ・界面活性剤を含んだもの
 - ・アルコール成分を含んだもの
 - ・シンナーやベンジンなどの揮発性の強いもの
 - ・研磨剤を含むもの
- ▶ 液晶ディスプレイ／タッチパネル表面を激しくこすると、静電気が発生することがあります。ご注意ください。

5

第5章 仕様

本製品の仕様を記載しています。

5.1 本体仕様	105
5.2 CPU	118
5.3 ディスプレイ	119
5.4 無線LAN	122

5.1 本体仕様

お使いのモデルの仕様一覧をご確認ください。

- ・「5.1.1 ARROWS Tab Q7311/JB」(→P.106)
- ・「5.1.2 ARROWS Tab Q7311/JE」(→P.112)

また、次の対応表でお使いの機種に搭載されているCPUと対応した列をご確認ください。

CPU名称	仕様一覧表の表記
インテル® Core™ i5-1145G7 プロセッサー	i5-1145G7
インテル® Core™ i3-1125G4 プロセッサー	i3-1125G4
インテル® Celeron® プロセッサー 6305	6305

5.1.1 ARROWS Tab Q7311/JB

無線WANモデルの仕様については「■ 無線WANモデル」（→P.108）をご覧ください。

■ 標準モデル

ARROWS Tab Q7311/JB（標準モデル）					
対応CPU		i5-1145G7		i3-1125G4	6305
Secured-core PC		対応	—	—	—
CPU ^{注1}	動作周波数	最大4.40GHz ^{注2}		最大3.70GHz	最大1.80GHz
	コア数/スレッド数	4/8			2/2
	キャッシュメモリ（3次）	8MB			4MB
チップセット		CPUと一体			
メインメモリ（オンボード）		標準8GB（LPDDR4x-3733）		標準4GB（LPDDR4x-3733）	
メモリスロット		×0（空きメモリスロット×0）			
表示機能					
グラフィックスアクセラレータ（CPUに内蔵）		Intel® Iris® Xe Graphics		Intel® UHD Graphics	
ビデオメモリ		メインメモリと共用			
液晶ディスプレイ ^{注3}		LEDバックライト付 13.3型ワイドTFTカラー（グレア処理） ^{注4}			
解像度/発色数 ^{注5}					
液晶ディスプレイ表示		フルHD（1920×1080ドット/1677万色）			
外部ディスプレイ表示		USB Type-C：最大3840×2160ドット/最大1677万色 HDMI：最大4096×2160ドット/最大1677万色			
フラッシュメモリディスクドライブ ^{注6}		暗号化機能付フラッシュメモリディスク 128GB（DRAM-less SSD PCIe NVMe） ^{注7}			
オーディオ機能					
オーディオコントローラー		チップセット内蔵+High Definition Audioコーデック			
PCM録音再生機能		サンプリング周波数：最大192kHz、24ビットステレオ（再生時） ^{注8} サンプリング周波数：最大96kHz、16ビットステレオ（録音時） ^{注8} 同時録音再生機能			
MIDI再生機能		OS標準機能にてサポート			
スピーカー		ステレオスピーカー			
マイク		デジタルステレオマイク内蔵			
Webカメラ		フロントカメラ ^{注9} ：有効画素数 約92万画素 リアカメラ：有効画素数 約500万画素			
ポインティングデバイス ^{注10}		タッチパネル（静電容量方式）、AESペン（アクティブ静電結合方式） ^{注11}			
通信機能					
LAN ^{注12}		1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T準拠 ^{注13} 、Wake on LAN対応 ^{注14}			
無線WAN		—			
無線LAN	規格	IEEE 802.11a準拠、IEEE 802.11b準拠、IEEE 802.11g準拠、IEEE 802.11n準拠、IEEE 802.11ac準拠、IEEE 802.11ax準拠（5GHz帯チャンネル：W52/W53/W56）（Wi-Fi®準拠 ^{注16} ）（Wi-Fi CERTIFIED 6™準拠）（MU-MIMO対応）			
	内蔵アンテナ	ダイバーシティ方式 ^{注17}			
Bluetoothワイヤレステクノロジー ^{注18}		Bluetooth v5.1準拠			
インテル® vPro® プラットフォーム/AMT		○/V15.0		—	

ARROWS Tab Q7311/JB（標準モデル）					
対応CPU		i5-1145G7		i3-1125G4	
				6305	
セキュリティ機能					
指紋センサー ^{注19}		—		タッチ方式 ^{注19}	
セキュリティチップ（TPM）		TCG Ver 2.0準拠			
盗難防止用ロック取り付け穴		あり			
インターフェース					
本体					
microSDメモリーカード ^{注20}		×1スロット			
HDMI ^{注21}		HDMI出力×1			
USB ^{注22注23}					
Type-A		USB 3.2（Gen1）		×1（左側面）	
		USB 2.0		×1（右側面）	
Type-C ^{注24}		Thunderbolt™ 4 ^{注25}		×1（左側面）（USB4（Gen3）、DisplayPort Alternate Mode対応 ^{注26} ）	
nanoSIMカード		—			
オーディオ					
マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用 ^{注27}		φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1			
スリムキーボード		×1（専用コネクタ）			
状態表示		LED			
スリムキーボード ^{注11}					
キーボード		日本語キーボード （キーピッチ約19mm、キーストローク約1.7mm、86キー、JIS配列準拠）			
ポインティングデバイス		フラットポイント			
LAN		RJ-45×1			
状態表示		LED			
電源供給方式		ACアダプタ ^{注28}		入力AC100V～240V、出力DC19V（3.42A）	
		バッテリー		リチウムポリマー 38Wh（取り外し不可）	
バッテリー駆動時間 ^{注29注30} （JEITA測定法2.0 ^{注31} ）		約15.0時間			
バッテリー充電時間 ^{注32}		約2.5時間			
消費電力 ^{注33}		標準値（最大時 ^{注34} ）		約2.4W（約74W）	
		電源オフ時		約2.3W（約74W）	
				約2.2W（約74W）	
				約2.1W（約74W）	
外形寸法（突起部含まず）		W 315×D 200.9×H 10.5 mm			
質量 ^{注35}		約775g			
電波障害対策		VCCIクラスB			
省エネ法に基づくエネルギー消費効率		富士通製品情報ページ（ https://jp.fujitsu.com/platform/pc/ ）にある、製品情報の仕様をご覧ください。			
国際エネルギースタープログラム ^{注36}		対応 ^{注37}			
温湿度条件		温度5～35℃/湿度20～80%RH（動作時） 温度-10～60℃/湿度20～80%RH（非動作時） （ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと）			
防水・防塵		IP42			
プリインストールOS ^{注38注39}		Windows 11 Pro		Windows 11 Pro、 Windows 11 Pro（Windows 10 Pro ^{注40} プリインストールにダウングレード）	
サポートOS ^{注38注41}		Windows 11 Pro ^{注42}		Windows 11 Enterprise、 Windows 11 Pro、 Windows 10 Enterprise LTSC 2021、 Windows 10 Enterprise ^{注40} 、 Windows 10 Pro ^{注40}	

■ 無線WANモデル

ARROWS Tab Q7311/JB（無線WANモデル）				
対応CPU		i5-1145G7	i3-1125G4	6305
Secured-core PC		対応	—	—
CPU ^{注1}	動作周波数	最大4.40GHz ^{注2}		最大3.70GHz
	コア数/スレッド数	4/8		2/2
	キャッシュメモリ（3次）	8MB		4MB
チップセット		CPUと一体		
メインメモリ（オンボード）		標準8GB（LPDDR4x-3733）	標準4GB（LPDDR4x-3733）	
メモリスロット		×0（空きメモリスロット×0）		
表示機能				
グラフィックスアクセラレータ（CPUに内蔵）		Intel® Iris® Xe Graphics	Intel® UHD Graphics	
ビデオメモリ		メインメモリと共用		
液晶ディスプレイ ^{注3}		LEDバックライト付 13.3型ワイド TFTカラー（グレア処理） ^{注4}		
解像度/発色数 ^{注5}		フルHD（1920×1080ドット/1677万色）		
液晶ディスプレイ表示		フルHD（1920×1080ドット/1677万色）		
外部ディスプレイ表示		USB Type-C：最大3840×2160ドット/最大1677万色 HDMI：最大4096×2160ドット/最大1677万色		
フラッシュメモリディスクドライブ ^{注6}		暗号化機能付フラッシュメモリディスク 128GB（DRAM-less SSD PCIe NVMe） ^{注7}		
オーディオ機能				
オーディオコントローラー		チップセット内蔵+ High Definition Audio コーデック		
PCM録音再生機能		サンプリング周波数：最大192kHz、24ビットステレオ（再生時） ^{注8} サンプリング周波数：最大96kHz、16ビットステレオ（録音時） ^{注8} 同時録音再生機能		
MIDI再生機能		OS標準機能にてサポート		
スピーカー		ステレオスピーカー		
マイク		デジタルステレオマイク内蔵		
Webカメラ		フロントカメラ ^{注9} ：有効画素数 約92万画素 リアカメラ：有効画素数 約500万画素		
ポインティングデバイス ^{注10}		タッチパネル（静電容量方式）、AESペン（アクティブ静電結合方式） ^{注11}		
通信機能				
LAN ^{注12}		1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T ^{注13} 、Wake on LAN対応 ^{注14}		
無線WAN		対応（LTE） ^{注15}		
無線LAN	規格	IEEE 802.11a ^{注16} 、IEEE 802.11b ^{注16} 、IEEE 802.11g ^{注16} 、IEEE 802.11n ^{注16} 、IEEE 802.11ac ^{注16} 、IEEE 802.11ax ^{注16} （5GHz帯チャンネル：W52/W53/W56）（Wi-Fi [®] ^{注16} ）（Wi-Fi CERTIFIED 6 [™] ^{注16} ）（MU-MIMO対応）		
	内蔵アンテナ	ダイバーシティ方式 ^{注17}		
Bluetoothワイヤレステクノロジー ^{注18}		Bluetooth v5.1 ^{注18}		
インテル® vPro® プラットフォーム/AMT		○/V15.0	—	
セキュリティ機能				
指紋センサー ^{注19}		タッチ方式		
セキュリティチップ（TPM）		TCG Ver 2.0 ^{注20}		
盗難防止用ロック取り付け穴		あり		

ARROWS Tab Q7311/JB（無線WANモデル）					
対応CPU		i5-1145G7		i3-1125G4	
				6305	
インターフェース					
本体					
microSDメモリーカード ^{注20}		×1スロット			
HDMI ^{注21}		HDMI出力×1			
USB ^{注22} ^{注23}					
Type-A	USB 3.2 (Gen1)	×1 (左側面)			
	USB 2.0	×1 (右側面)			
Type-C ^{注24}	Thunderbolt™ 4 ^{注25}	×1 (左側面) (USB4 (Gen3)、DisplayPort Alternate Mode 対応 ^{注26})			
nanoSIMカード		×1スロット			
オーディオ					
マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用 ^{注27}		φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1			
スリムキーボード		×1 (専用コネクタ)			
状態表示		LED			
スリムキーボード ^{注11}					
キーボード		日本語キーボード (キーピッチ約19mm、キーストローク約1.7mm、86キー、JIS配列準拠)			
ポインティングデバイス		フラットポイント			
LAN		RJ-45×1			
状態表示		LED			
電源供給方式		ACアダプタ ^{注28}			
		入力AC100V～240V、出力DC19V (3.42A)			
		バッテリー			
		リチウムポリマー 38Wh (取り外し不可)			
バッテリー駆動時間 ^{注29} ^{注30} (JEITA測定法2.0 ^{注31})		約15.0時間			
バッテリー充電時間 ^{注32}		約2.5時間			
消費電力 ^{注33}		標準値 (最大時 ^{注34})			
		約2.4W (約74W)	約2.4W (約74W)	約2.4W (約74W)	約2.2W (約74W)
		電源オフ時			
		約0.2W以下			
外形寸法 (突起部含まず)		W 315×D 200.9×H 10.5 mm			
質量 ^{注35}		約790g			
電波障害対策		VCCIクラスB			
省エネ法に基づくエネルギー消費効率		富士通製品情報ページ (https://jp.fujitsu.com/platform/pc/) にある、製品情報の仕様をご覧ください。			
国際エネルギースタープログラム ^{注36}		対応 ^{注37}			
温湿度条件		温度5～35℃/湿度20～80%RH (動作時) 温度-10～60℃/湿度20～80%RH (非動作時) (ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと)			
防水・防塵		IP42			
プリインストールOS ^{注38} ^{注39}		Windows 11 Pro	Windows 11 Pro、 Windows 11 Pro (Windows 10 Pro ^{注40} プリインストールにダウングレード)		
サポート OS ^{注38} ^{注41}		Windows 11 Pro ^{注42}	Windows 11 Enterprise、 Windows 11 Pro、 Windows 10 Enterprise LTSC 2021、 Windows 10 Enterprise ^{注40} 、 Windows 10 Pro ^{注40}		

本タブレットの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

- 注1 : ・ アプリによっては、CPU名表記が異なる場合があります。
・ 本タブレットに搭載されているCPUで使用できる主な機能については、「5.2 CPU」（→P.118）をご覧ください。
- 注2 : インテル® ターボ・ブースト・テクノロジー 2.0（→P.118）動作時。
- 注3 : 以下は液晶ディスプレイの特性です。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
・ 液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります（有効ドット数の割合は99.99%以上です。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています）。
・ 製造工程上やご利用環境によって空気中の微細な異物が混入する場合があります。
・ 本タブレットで使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。
・ 長時間同じ表示を続けると残像となることがあります。残像は、しばらくすると消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。省電力機能などを利用して、自動的にディスプレイの電源を切る設定は、「電源オプション」ウィンドウ左の「ディスプレイの電源を切る時間の指定」から行えます。
・ 表示する条件によってはムラおよび微小なほん点が目立つことがあります。
- 注4 : カスタムメイドの選択によっては、「アンチグレア処理ディスプレイ」が搭載されています。
- 注5 : グラフィックスアクセラレータが出力する最大発色数は1677万色ですが、液晶ディスプレイではディザリング機能によって、擬似的に表示されます。
・ 外部ディスプレイに出力する場合は、お使いの外部ディスプレイがこの解像度をサポートしている必要があります。
- 注6 : 容量は、1GB=1000³バイト換算値です。
- 注7 : カスタムメイドの選択によって、次のドライブが搭載されています。
・ 暗号化機能付フラッシュメモリディスク256GB（DRAM-less SSD PCIe NVMe）
・ 暗号化機能付フラッシュメモリディスク512GB（DRAM-less SSD PCIe NVMe）
・ 暗号化機能付フラッシュメモリディスク256GB（SSD PCIe NVMe）
・ 暗号化機能付フラッシュメモリディスク512GB（SSD PCIe NVMe）
- 注8 : 使用できるサンプリングレートは、アプリによって異なります。
- 注9 : カスタムメイドの選択によって、顔認証対応Webカメラが搭載されています。
- 注10 : カスタムメイドの選択によっては、USBマウス（光学式/レーザー式）が添付されています。
- 注11 : カスタムメイドの選択によって添付されています。
- 注12 : カスタムメイドでスリムキーボードを選択した場合。
- 注13 : ・ 1000Mbpsは1000BASE-Tの理論上の最高速度であり、実際の通信速度はお使いの機器やネットワーク環境により変化します。
・ スリムキーボードでのLAN接続はGigabit Ethernet LAN（理論値1000Mbps）に対応していますが、LANコントローラーICがUSB-HUBを経由しての接続となるため、最高速度は遅くなります。
・ 1000Mbpsの通信を行うためには、1000BASE-Tに対応したハブが必要となります。また、LANケーブルには、1000BASE-Tに対応したエンハンストカテゴリ5（カテゴリ5E）以上のLANケーブルを使用してください。
- 注14 : ・ 1000Mbpsのネットワーク速度しかサポートしていないハブでは、Wake on LAN機能は使用できません。
・ Wake on LAN機能を使用する場合は、次の両方でリンク速度とデュプレックス共に自動検出可能な設定（オートネゴシエーション）にしてください。
- 本タブレットの有線LANインターフェース
- 本タブレットの有線LANインターフェースと接続するハブのポート
この両方が自動検出可能な設定になっていない場合、本タブレットが省電力状態や電源オフ状態のときにハブやポートをつなぎ変えたり、ポートの設定を変えたりするとWake on LAN機能が動作しない場合があります。
・ Wake on LAN機能を有効に設定している場合、消費電力が増加するためバッテリーの駆動時間が短くなります。Wake on LAN機能を使用する場合は、ACアダプタを接続することをお勧めします。
・ 電源オフ状態からのWake on LAN機能を使用するには、『製品ガイド（共通編）』の「2章 BIOS」—「Wake up on LANを有効にする」をご覧ください。
- 注15 : ・ NTTドコモの通信サービスをご利用の場合
SIMカードスロットにXiに対応したSIMカード^{(*)1}を装着するだけで、超高速通信が可能です（Xiエリアの一部に限ります）。^{(*)2}
Xiエリア外であってもFOMAのエリアであれば高速通信が可能です。^{(*)3}
*1 : ドコモ nanoUIMカードが利用可能です。
*2 : 対応エリアの詳細は、ドコモのホームページでご確認ください。通信速度は、ベストエフォート方式による提供となり、エリアの通信環境やネットワークの混雑状況に応じて変化します。
エリアの詳細についてはNTTドコモのホームページをご確認ください。（<https://www.nttdocomo.co.jp/area/index.html>）
*3 : 無線WANをご利用になるには、当社が提供する企業向けネットワークサービス「FENICS IIユニバーサルコネク」の契約またはNTTドコモとの回線契約およびXiに対応したプロバイダーとの契約が必要です。
「Xi」、「FOMA」および「Xi」ロゴは、株式会社NTTドコモの商標または登録商標です。
- ・ KDDI(au)の通信サービスをご利用の場合
SIMカードスロットに4G LTEに対応したSIMカード^{(*)1}を装着するだけで、4G LTE^{(*)2}、WiMAX 2+の高速通信がご利用いただけます。^{(*)3}
*1 : 「au Nano IC Card 04 LE」のご利用となります。
*2 : 一部エリアを除く。
*3 : 4G LTEエリア内であっても電波状況によりご利用いただけない場合があります。
エリアについての詳細情報は、<https://www.au.com/mobile/area/>をご覧ください。「4G LTE」「WiMAX2+」は回線の混雑状況などに応じ、より混雑が少ないと判断したネットワークに接続します。

- SoftBankの通信サービスをご利用の場合
SIMカードスロットにソフトバンクのSIMカード^(*)を装着するだけで、「SoftBank 4G LTE」「SoftBank 4G」の超高速通信が可能です。
また、「SoftBank 4G LTE」「SoftBank 4G」エリア外でも、「3G/ハイスピード」の通信でご利用が可能です。^{(**)(***)}
*1：ソフトバンク所定のUSIMカード「USIMカード（F）」でご利用が可能です。「USIMカード（F）」からnanoサイズで取り外し装着してください。
*2：SoftBank 4G LTE、SoftBank 4Gは、第3.5世代移動通信システム以上の技術に対しても4Gの呼称を認めるという国際電気通信連合（ITU）の声明に基づきサービス名称として使用しています。
*3：対応エリアの詳細はソフトバンクのホームページ（<https://www.softbank.jp/biz/mobile/network/>）でご確認ください。
*4：無線WANをご利用になるには、ソフトバンクとの通信回線契約が必要です。
- 注16：Wi-Fi[®]準拠とは、無線LANの相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance[®]」の相互接続性テストに合格していることを示しています。
- 注17：IEEE 802.11n準拠、IEEE 802.11ac準拠またはIEEE 802.11ax準拠を使用したときは、MIMO方式にもなります。
- 注18：すべてのBluetoothワイヤレステクノロジー対応周辺機器の動作を保証するものではありません。
- 注19：カスタマイドの選択によって搭載されています。
- 注20：
 - すべてのmicroSDメモリーカードの動作を保証するものではありません。
 - 著作権保護機能には対応していません。
 - ご使用可能なmicroSDカードは最大2GB、microSDHCカードは最大32GB、microSDXCカードは最大64GBまでとなります。
- 注21：
 - HDMI端子のあるすべてのディスプレイへの表示を保証するものではありません。
 - 市販のテレビとの連動機能はありません。
- 注22：
 - すべてのUSB対応周辺機器の動作を保証するものではありません。
 - 長いUSBケーブルを使用してUSBデバイスを接続した場合、USBデバイスが正常に動作しないことがあります。この場合は、USB準拠の短いケーブルをお試しください。
- 注23：外部から電源が供給されないUSB対応周辺機器を接続するときの消費電流の最大容量は次のとおりです。詳しくは、USB対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。
 - Thunderbolt[™] 4は、1ポートにつき3.0A
 - USB 3.2（Gen1）Type-Aは、1ポートにつき900mA
 - USB 3.0 Type-Aは、1ポートにつき900mA
 - USB 2.0 Type-Aは、1ポートにつき500mA
- 注24：
 - 接続したUSB対応機器の転送速度（理論値）は次のとおりです。
 - Thunderbolt[™] 4対応機器：最大40Gbps
 - USB 3.2（Gen2）対応機器：最大10Gbps
 - USB 3.2（Gen1）およびUSB 3.0対応機器：最大5Gbps
 - USB 2.0対応機器：最大480Mbps
 - USB Power Deliveryに対応しています。
 - 映像出力に対応しています。
- 注25：
 - USB Power Delivery対応機器へ給電（最大5V/3.0A）できます。
 - USB Power Delivery対応で7.5W（5V/1.5A）以上を供給可能な機器であれば、タブレット本体に充電できます。タブレットを使用しながら充電する場合は、USB Power Delivery対応で45W（20V/2.25A）以上を供給可能な機器が必要となります。また、次のような場合は、タブレットを充電していてもタブレットのバッテリーが減ることがあります。
 - タブレットが動作している（高負荷処理を行っているなど）
 - 接続機器への給電電力が大きい（消費電力の大きな機器を複数接続しているなど）
 - すべての対応機器の動作を保証するものではありません。
- 注26：すべてのDisplayPortの動作を保証するものではありません。
- 注27：ご購入時はヘッドホンまたはヘッドセットに設定されています。設定の変更は「2.7.4 オーディオ端子の機能を切り替える」（→P.43）をご覧ください。
- 注28：標準添付されている電源ケーブルはAC100V（国内専用型）用です。また、矩形波が出力される機器（UPS（無停電電源装置）や車載用DC/AC電源など）に接続されると故障する場合があります。
- 注29：バッテリー駆動時間は、ご利用状況やカスタマイド構成によっては記載時間と異なる場合があります。
- 注30：BIOSセットアップの「詳細」メニュー→「各種設定」→「ハードウェア省電力機能」を「使用する」に設定した場合のバッテリー駆動時間です。
- 注31：一般社団法人電子情報技術産業協会の「JEITAバッテリー動作時間測定法（Ver.2.0）」（https://home.jeita.or.jp/pc_tablet/guideline/battery.html）に基づいて測定。
- 注32：
 - 電源オフ時および省電力状態時。装置の動作状況により充電時間が長くなる場合があります。
 - バッテリーユーティリティで「80%充電モード」に設定した場合の充電時間は異なります。
- 注33：
 - 当社測定基準によります（標準搭載メモリ、標準フラッシュメモリアドレス容量、LCD輝度最小）。
 - 電源オフ時の消費電力は満充電時です。
 - また、電源オフ時の消費電力を0にするには、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
- 注34：コンセント側の消費電力となります。
- 注35：平均値のため、お使いのタブレットで質異なる場合があります。
- 注36：「国際エネルギースタープログラム」は、長時間電源を入れた状態になりがちなオフィス機器の消費電力を削減するための制度です。
- 注37：当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。
- 注38：日本語64ビット版。
- 注39：いずれかのOSがプリインストールされています。
- 注40：Windows 10 November 2021 Update。
- 注41：
 - 富士通は、本製品で「サポートOS」を動作させるために必要なBIOSおよびドライバーを提供しますが、すべての機能を保証するものではありません。
 - サポートOSに関する最新の情報については、富士通製品情報ページ内にある「OS関連情報」（<https://www.fmworld.net/biz/fmv/support/os/>）をご覧ください。
 - Windowsを新規にインストールする場合は、『製品ガイド（共通編）』の「付録2 Windowsの新規インストールについて」をご覧ください。また、Windowsの新規インストールは、プリインストールOSよりも前のバージョンは使用しないでください。
- 注42：サポートOS以外（ボリュームライセンスなど）をインストールした場合は、Secured-core PCの機能は使用できません。



5.1.2 ARROWS Tab Q7311/JE

無線WANモデルの仕様については「■ 無線WANモデル」（→P.114）をご覧ください。

■ 標準モデル

ARROWS Tab Q7311/JE（標準モデル）				
対応CPU		i5-1145G7	i3-1125G4	6305
Secured-core PC		—		
CPU ^{注1}	動作周波数	最大4.40GHz ^{注2}	最大3.70GHz	最大1.80GHz
	コア数/スレッド数	4/8		2/2
	キャッシュメモリ（3次）	8MB		4MB
チップセット		CPUと一体		
メインメモリ（オンボード）		標準8GB（LPDDR4x-3733）	標準4GB（LPDDR4x-3733） ^{注3}	標準4GB（LPDDR4x-3733）
メモリスロット		×0（空きメモリスロット×0）		
表示機能				
グラフィックスアクセラレータ（CPUに内蔵）		Intel® Iris® Xe Graphics	Intel® UHD Graphics	
ビデオメモリ		メインメモリと共用		
液晶ディスプレイ ^{注4}		LEDバックライト付 13.3型ワイド TFTカラー（アンチグレア処理）		
解像度/発色数 ^{注5}				
液晶ディスプレイ表示		フルHD（1920×1080ドット/1677万色）		
外部ディスプレイ表示		USB Type-C：最大3840×2160ドット/最大1677万色 HDMI：最大4096×2160ドット/最大1677万色		
フラッシュメモリディスクドライブ ^{注6}		暗号化機能付フラッシュメモリディスク 128GB（DRAM-less SSD PCIe NVMe） ^{注7}		
オーディオ機能				
オーディオコントローラー		チップセット内蔵+ High Definition Audio コーデック		
PCM録音再生機能		サンプリング周波数：最大192kHz、24ビットステレオ（再生時 ^{注8} サンプリング周波数：最大96kHz、16ビットステレオ（録音時） ^{注8} 同時録音再生機能		
MIDI再生機能		OS標準機能にてサポート		
スピーカー		ステレオスピーカー		
マイク		デジタルステレオマイク内蔵		
Webカメラ		フロントカメラ ^{注9} ：有効画素数 約92万画素 リアカメラ：有効画素数 約500万画素		
ポインティングデバイス ^{注10}		タッチパネル（静電容量方式）、AESペン（アクティブ静電結合方式）		
通信機能				
LAN ^{注12}		1000BASE-T / 100BASE-TX / 10BASE-T準拠 ^{注13} 、Wake on LAN対応 ^{注14}		
無線WAN		—		
無線LAN	規格	IEEE 802.11a準拠、IEEE 802.11b準拠、IEEE 802.11g準拠、IEEE 802.11n準拠、IEEE 802.11ac準拠、IEEE 802.11ax準拠（5GHz帯チャンネル：W52/W53/W56）（Wi-Fi®準拠 ^{注16} ）（Wi-Fi CERTIFIED 6™準拠）（MU-MIMO対応）		
	内蔵アンテナ	ダイバーシティ方式 ^{注17}		
Bluetoothワイヤレステクノロジー ^{注18}		Bluetooth v5.1準拠		
インテル® vPro® プラットフォーム/AMT		○/V15.0	—	

ARROWS Tab Q7311/JE（標準モデル）				
対応CPU		i5-1145G7	i3-1125G4	6305
セキュリティ機能				
指紋センサー ^{注19}		タッチ方式		
セキュリティチップ（TPM）		TCG Ver 2.0準拠		
盗難防止用ロック取り付け穴		あり		
インターフェース				
本体				
microSDメモリーカード ^{注20}		×1スロット		
HDMI ^{注21}		HDMI出力×1		
USB ^{注22注23}				
Type-A	USB 3.2（Gen1）	×1（左側面）		
	USB 2.0	×1（右側面）		
Type-C ^{注24}	Thunderbolt™ 4 ^{注25}	×1（左側面）（USB4（Gen3）、DisplayPort Alternate Mode対応 ^{注26} ）		
nanoSIMカード		—		
オーディオ				
マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用 ^{注27}		φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1		
スリムキーボード		×1（専用コネクタ）		
状態表示		LED		
スリムキーボード ^{注11}				
キーボード		日本語キーボード （キーピッチ約19mm、キーストローク約1.7mm、86キー、JIS配列準拠）		
ポインティングデバイス		フラットポイント		
LAN		RJ-45×1		
状態表示		LED		
電源供給方式		ACアダプタ ^{注28}	入力AC100V～240V、出力DC19V（3.42A）	
		バッテリー	リチウムポリマー 38Wh（取り外し不可）	
バッテリー駆動時間 ^{注29注30} （JEITA測定法2.0 ^{注31} ）		約15.0時間		
バッテリー充電時間 ^{注32}		約2.5時間		
消費電力 ^{注33}		標準値（最大時 ^{注34} ）	約2.3W（約74W）	約2.2W（約74W）
		電源オフ時	約0.2W以下	
外形寸法（突起部含まず）		W 315×D 200.9×H 10.65 mm		
質量 ^{注35}		約790g		
電波障害対策		VCCIクラスB		
省エネ法に基づくエネルギー消費効率		富士通製品情報ページ（ https://jp.fujitsu.com/platform/pc/ ）にある、製品情報の仕様をご覧ください。		
国際エネルギースタープログラム ^{注36}		対応 ^{注37}		
温湿度条件		温度5～35℃／湿度20～80%RH（動作時） 温度-10～60℃／湿度20～80%RH（非動作時） （ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと）		
防水・防塵		IP42		
プリインストールOS ^{注38注39}		Windows 11 Pro、 Windows 11 Pro（Windows 10 Pro ^{注40} プリインストールにダウングレード）		
サポートOS ^{注38注41}		Windows 11 Enterprise、 Windows 11 Pro、 Windows 10 Enterprise LTSC 2021、 Windows 10 Enterprise ^{注40} 、 Windows 10 Pro ^{注40}		

■ 無線WANモデル

ARROWS Tab Q7311/JE（無線WANモデル）				
対応CPU		i5-1145G7	i3-1125G4	6305
Secured-core PC		—		
CPU ^{注1}	動作周波数	最大4.40GHz ^{注2}	最大3.70GHz	最大1.80GHz
	コア数/スレッド数	4/8		2/2
	キャッシュメモリ（3次）	8MB		4MB
Secured-core PC		—		
チップセット		CPUと一体		
メインメモリ（オンボード）		標準8GB（LPDDR4x-3733）	標準4GB（LPDDR4x-3733） ^{注3}	標準4GB（LPDDR4x-3733）
メモリスロット		×0（空きメモリスロット×0）		
表示機能				
グラフィックスアクセラレータ（CPUに内蔵）		Intel® Iris® Xe Graphics	Intel® UHD Graphics	
ビデオメモリ		メインメモリと共用		
液晶ディスプレイ ^{注4}		LEDバックライト付 13.3型ワイド TFTカラー（アンチグレア処理）		
解像度/発色数 ^{注5}		フルHD（1920×1080ドット/1677万色）		
液晶ディスプレイ表示		USB Type-C：最大3840×2160ドット/最大1677万色		
外部ディスプレイ表示		HDMI：最大4096×2160ドット/最大1677万色		
フラッシュメモリディスクドライブ ^{注6}		暗号化機能付フラッシュメモリディスク 128GB（DRAM-less SSD PCIe NVMe） ^{注7}		
オーディオ機能				
オーディオコントローラー		チップセット内蔵+ High Definition Audio コーデック		
PCM録音再生機能		サンプリング周波数：最大192kHz、24ビットステレオ（再生時） ^{注8} サンプリング周波数：最大96kHz、16ビットステレオ（録音時） ^{注8} 同時録音再生機能		
MIDI再生機能		OS標準機能にてサポート		
スピーカー		ステレオスピーカー		
マイク		デジタルステレオマイク内蔵		
Webカメラ		フロントカメラ ^{注9} ：有効画素数 約92万画素 リアカメラ：有効画素数 約500万画素		
ポインティングデバイス ^{注10}		タッチパネル（静電容量方式）、AESペン（アクティブ静電結合方式）		
通信機能				
LAN ^{注12}		1000BASE-T / 100BASE-TX / 10BASE-T 準拠 ^{注13} 、Wake on LAN 対応 ^{注14}		
無線WAN		対応（LTE） ^{注15}		
無線LAN	規格	IEEE 802.11a 準拠、IEEE 802.11b 準拠、IEEE 802.11g 準拠、IEEE 802.11n 準拠、IEEE 802.11ac 準拠、IEEE 802.11ax 準拠（5GHz帯チャンネル：W52/W53/W56）（Wi-Fi [®] 準拠 ^{注16} ）（Wi-Fi CERTIFIED 6™ 準拠）（MU-MIMO 対応）		
	内蔵アンテナ	ダイバーシティ方式 ^{注17}		
Bluetoothワイヤレステクノロジー ^{注18}		Bluetooth v5.1 準拠		
インテル® vPro® プラットフォーム / AMT		○ / V15.0	—	
セキュリティ機能				
指紋センサー ^{注19}		タッチ方式		
セキュリティチップ（TPM）		TCG Ver 2.0 準拠		
盗難防止用ロック取り付け穴		あり		

ARROWS Tab Q7311/JE（無線WANモデル）				
対応CPU	i5-1145G7		i3-1125G4	
6305				
インターフェース				
本体				
microSDメモリーカード ^{注20}		×1スロット		
HDMI ^{注21}		HDMI出力×1		
USB ^{注22} 注 ²³				
Type-A	USB 3.2 (Gen1)		×1 (左側面)	
	USB 2.0		×1 (右側面)	
Type-C ^{注24}	Thunderbolt™ 4 ^{注25}		×1 (左側面) (USB4 (Gen3)、DisplayPort Alternate Mode対応 ^{注26})	
nanoSIMカード		×1スロット		
オーディオ				
マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用 ^{注27}		φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1		
スリムキーボード		×1 (専用コネクタ)		
状態表示		LED		
スリムキーボード ^{注11}				
キーボード		日本語キーボード (キーピッチ約19mm、キーストローク約1.7mm、86キー、JIS配列準拠)		
ポインティングデバイス		フラットポイント		
LAN		RJ-45×1		
状態表示		LED		
電源供給方式		ACアダプタ ^{注28}		
		入力AC100V～240V、出力DC19V (3.42A)		
		バッテリー		
		リチウムポリマー 38Wh (取り外し不可)		
バッテリー駆動時間 ^{注29} 注 ³⁰ (JEITA測定法2.0 ^{注31})		約15.0時間		
バッテリー充電時間 ^{注32}		約2.5時間		
消費電力 ^{注33}		標準値 (最大 ^{注34})		
		約2.4W (約74W)	約2.4W (約74W)	約2.2W (約74W)
		電源オフ時		
		約0.2W以下		
外形寸法 (突起部含まず)		W 315×D 200.9×H 10.65 mm		
質量 ^{注35}		約805g		
電波障害対策		VCCIクラスB		
省エネ法に基づくエネルギー消費効率		富士通製品情報ページ (https://jp.fujitsu.com/platform/pc/) にある、製品情報の仕様をご覧ください。		
国際エネルギースタープログラム ^{注36}		対応 ^{注37}		
温湿度条件		温度5～35℃/湿度20～80%RH (動作時) 温度-10～60℃/湿度20～80%RH (非動作時) (ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと)		
防水・防塵		IP42		
プリインストールOS ^{注38} 注 ³⁹		Windows 11 Pro、 Windows 11 Pro (Windows 10 Pro ^{注40} プリインストールにダウングレード)		
サポートOS ^{注38} 注 ⁴¹		Windows 11 Enterprise、 Windows 11 Pro、 Windows 10 Enterprise LTSC 2021、 Windows 10 Enterprise ^{注40} 、 Windows 10 Pro ^{注40}		

本タブレットの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

- 注1 : ・ アプリによっては、CPU名表記が異なる場合があります。
・ 本タブレットに搭載されているCPUで利用できる主な機能については、「5.2 CPU」（→P.118）をご覧ください。
- 注2 : インテル® ターボ・ブースト・テクノロジー 2.0（→P.118）動作時。
- 注3 : カスタムメイドの選択によって、次の容量のメモリが搭載されています。
・ 8GB（LPDDR4x-3733）
- 注4 : 以下は液晶ディスプレイの特性です。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
・ 液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります（有効ドット数の割合は99.99%以上です。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています）。
・ 製造工程上やご利用環境によって空気中の微細な異物が混入する場合があります。
・ 本タブレットで使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。
・ 長時間同じ表示を続けると残像となることがあります。残像は、しばらくすると消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。省電力機能などを利用して、自動的にディスプレイの電源を切る設定は、「電源オプション」ウィンドウ左の「ディスプレイの電源を切る時間の指定」から行えます。
・ 表示する条件によってはムラおよび微少なほん点が目立つことがあります。
- 注5 : ・ グラフィックスアクセラレータが出力する最大発色数は1677万色ですが、液晶ディスプレイではディザリング機能によって、擬似的に表示されます。
・ 外部ディスプレイに出力する場合は、お使いの外部ディスプレイがこの解像度をサポートしている必要があります。
- 注6 : 容量は、1GB=1000³バイト換算値です。
- 注7 : カスタムメイドの選択によって、次のドライブが搭載されています。
・ 暗号化機能付フラッシュメモリディスク256GB（DRAM-less SSD PCIe NVMe）
・ 暗号化機能付フラッシュメモリディスク512GB（DRAM-less SSD PCIe NVMe）
・ 暗号化機能付フラッシュメモリディスク256GB（SSD PCIe NVMe）
・ 暗号化機能付フラッシュメモリディスク512GB（SSD PCIe NVMe）
- 注8 : 使用できるサンプリングレートは、アプリによって異なります。
- 注9 : カスタムメイドの選択によって、顔認証対応Webカメラが搭載されています。
- 注10 : カスタムメイドの選択によっては、USBマウス（光学式/レーザー式）が添付されています。
- 注11 : カスタムメイドの選択によって添付されています。
- 注12 : カスタムメイドでスリムキーボードを選択した場合。
- 注13 : ・ 1000Mbpsは1000BASE-Tの理論上の最高速度であり、実際の通信速度はお使いの機器やネットワーク環境により変化します。
・ スリムキーボードでのLAN接続はGigabit Ethernet LAN（理論値1000Mbps）に対応していますが、LANコントローラーICがUSB-HUBを経由しての接続となるため、最高速度は遅くなります。
・ 1000Mbpsの通信を行うためには、1000BASE-Tに対応したハブが必要となります。また、LANケーブルには、1000BASE-Tに対応したエンハンストカテゴリ5（カテゴリ5E）以上のLANケーブルを使用してください。
- 注14 : ・ 1000Mbpsのネットワーク速度しかサポートしていないハブでは、Wake on LAN機能は使用できません。
・ Wake on LAN機能を使用する場合は、次の両方でリンク速度とデュプレックス共に自動検出可能な設定（オートネゴシエーション）にしてください。
- 本タブレットの有線LANインターフェース
- 本タブレットの有線LANインターフェースと接続するハブのポート
この両方が自動検出可能な設定になっていない場合、本タブレットが省電力状態や電源オフ状態のときにハブやポートをつなぎ変えたり、ポートの設定を変えたりするとWake on LAN機能が動作しない場合があります。
・ Wake on LAN機能を有効に設定している場合、消費電力が増加するためバッテリーの駆動時間が短くなります。Wake on LAN機能を使用する場合は、ACアダプタを接続することをお勧めします。
・ 電源オフ状態からのWake on LAN機能を使用するには、『製品ガイド（共通編）』の「2章 BIOS」—「Wake up on LANを有効にする」をご覧ください。
- 注15 : ・ NTTドコモの通信サービスをご利用の場合
SIMカードスロットにXiに対応したSIMカード^{(*)1}を装着するだけで、超高速通信が可能です（Xiエリアの一部に限ります）。^{(*)2}
Xiエリア外であってもFOMAのエリアであれば高速通信が可能です。^{(*)3}
*1 : ドコモ nanoUIMカードが利用可能です。
*2 : 対応エリアの詳細は、ドコモのホームページでご確認ください。通信速度は、ベストエフォート方式による提供となり、エリアの通信環境やネットワークの混雑状況に応じて変化します。
エリアの詳細についてはNTTドコモのホームページをご確認ください。（<https://www.nttdocomo.co.jp/area/index.html>）
*3 : 無線WANをご利用になるには、当社が提供する企業向けネットワークサービス「FENICS IIユニバーサルコネク」の契約またはNTTドコモとの回線契約およびXiに対応したプロバイダーとの契約が必要です。
「Xi」、「FOMA」および「Xi」ロゴは、株式会社NTTドコモの商標または登録商標です。
- ・ KDDI(au)の通信サービスをご利用の場合
SIMカードスロットに4G LTEに対応したSIMカード^{(*)1}を装着するだけで、4G LTE^{(*)2}、WiMAX 2+の高速通信がご利用いただけます。^{(*)3}
*1 : 「au Nano IC Card 04 LE」のご利用となります。
*2 : 一部エリアを除く。
*3 : 4G LTEエリア内であっても電波状況によりご利用いただけない場合があります。
エリアについての詳細情報は、<https://www.au.com/mobile/area/>をご覧ください。「4G LTE」「WiMAX2+」は回線の混雑状況などに応じ、より混雑が少ないと判断したネットワークに接続します。

- SoftBankの通信サービスをご利用の場合
SIMカードスロットにソフトバンクのSIMカード^(*)を装着するだけで、「SoftBank 4G LTE」「SoftBank 4G」の超高速通信が可能です。
また、「SoftBank 4G LTE」「SoftBank 4G」エリア外でも、「3G/ハイスピード」の通信でご利用が可能です。^(*)⁽²⁾⁽³⁾⁽⁴⁾
*1：ソフトバンク所定のUSIMカード「USIMカード（F）」でご利用が可能です。「USIMカード（F）」からnanoサイズで取り外し装着してください。
*2：SoftBank 4G LTE、SoftBank 4Gは、第3.5世代移動通信システム以上の技術に対しても4Gの呼称を認めるという国際電気通信連合（ITU）の声明に基づきサービス名称として使用しています。
*3：対応エリアの詳細はソフトバンクのホームページ（<https://www.softbank.jp/biz/mobile/network/>）でご確認ください。
*4：無線WANをご利用になるには、ソフトバンクとの通信回線契約が必要です。
 - 注16：Wi-Fi[®]準拠とは、無線LANの相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance[®]」の相互接続性テストに合格していることを示しています。
 - 注17：IEEE 802.11n準拠、IEEE 802.11ac準拠またはIEEE 802.11ax準拠を使用したときは、MIMO方式にもなります。
 - 注18：すべてのBluetoothワイヤレステクノロジー対応周辺機器の動作を保証するものではありません。
 - 注19：カスタムメイドの選択によって搭載されています。
 - 注20：すべてのmicroSDメモリーカードの動作を保証するものではありません。
 - 著作権保護機能には対応していません。
 - ご使用可能なmicroSDカードは最大2GB、microSDHCカードは最大32GB、microSDXCカードは最大64GBまでとなります。
 - 注21：HDMI端子のあるすべてのディスプレイへの表示を保証するものではありません。
 - 市販のテレビとの連動機能はありません。
 - 注22：すべてのUSB対応周辺機器の動作を保証するものではありません。
 - 長いUSBケーブルを使用してUSBデバイスを接続した場合、USBデバイスが正常に動作しないことがあります。この場合は、USB準拠の短いケーブルをお試しください。
 - 注23：外部から電源が供給されないUSB対応周辺機器を接続するときの消費電流の最大容量は次のとおりです。詳しくは、USB対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。
 - Thunderbolt[™] 4は、1ポートにつき3.0A
 - USB 3.2（Gen1）Type-Aは、1ポートにつき900mA
 - USB 3.0 Type-Aは、1ポートにつき900mA
 - USB 2.0 Type-Aは、1ポートにつき500mA
 - 注24：接続したUSB対応機器の転送速度（理論値）は次のとおりです。
 - Thunderbolt[™] 4対応機器：最大40Gbps
 - USB 3.2（Gen2）対応機器：最大10Gbps
 - USB 3.2（Gen1）およびUSB 3.0対応機器：最大5Gbps
 - USB 2.0対応機器：最大480Mbps
 - USB Power Deliveryに対応しています。
 - 映像出力に対応しています。
 - 注25：USB Power Delivery対応機器へ給電（最大5V/3.0A）できます。
 - USB Power Delivery対応で7.5W（5V/1.5A）以上を供給可能な機器であれば、タブレット本体に充電できます。タブレットを使用しながら充電する場合は、USB Power Delivery対応で45W（20V/2.25A）以上を供給可能な機器が必要となります。また、次のような場合は、タブレットを充電していてもタブレットのバッテリーが減ることがあります。
 - タブレットが動作している（高負荷処理を行っているなど）
 - 接続機器への給電電力が大きい（消費電力の大きな機器を複数接続しているなど）
 - すべての対応機器の動作を保証するものではありません。
 - 注26：すべてのDisplayPortの動作を保証するものではありません。
 - 注27：ご購入時はヘッドホンまたはヘッドセットに設定されています。設定の変更は「2.7.4 オーディオ端子の機能を切り替える」（→P.43）をご覧ください。
 - 注28：標準添付されている電源ケーブルはAC100V（国内専用品）用です。また、矩形波が出力される機器（UPS（無停電電源装置）や車載用DC/AC電源など）に接続されると故障する場合があります。
 - 注29：バッテリー駆動時間は、ご利用状況やカスタムメイド構成によっては記載時間と異なる場合があります。
 - 注30：BIOSセットアップの「詳細」メニュー→「各種設定」→「ハードウェア省電力機能」を「使用する場合のバッテリー駆動時間です」。
 - 注31：一般社団法人電子情報技術産業協会の「JEITAバッテリー動作時間測定法（Ver.2.0）」（https://home.jeita.or.jp/pc_tablet/guideline/battery.html）に基づいて測定。
 - 注32：電源オフ時および省電力状態時。装置の動作状況により充電時間が長くなる場合があります。
 - バッテリーユーティリティで「80%充電モード」に設定した場合の充電時間は異なります。
 - 注33：当社測定基準によります（標準搭載メモリ、標準フラッシュメモリーディスク容量、LCD輝度最小）。
 - 電源オフ時の消費電力は満充電時です。
 - また、電源オフ時の消費電力を0にするには、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
 - 注34：コンセント側の消費電力となります。
 - 注35：平均値のため、お使いのタブレットで質量が異なる場合があります。
 - 注36：「国際エネルギースタープログラム」は、長時間電源を入れた状態になりがちなオフィス機器の消費電力を削減するための制度です。
 - 注37：当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。
- 
- 注38：日本語64ビット版。
 - 注39：いずれかのOSがプリインストールされています。
 - 注40：Windows 10 November 2021 Update。
 - 注41：• 富士通は、本製品で「サポートOS」を動作させるために必要なBIOSおよびドライバーを提供しますが、すべての機能を保証するものではありません。
 - サポートOSに関する最新の情報については、富士通製品情報ページ内にある「OS関連情報」（<https://www.fmwORLD.net/biz/fmv/support/os/>）をご覧ください。
 - Windowsを新規にインストールする場合は、『製品ガイド（共通編）』の「付録2 Windowsの新規インストールについて」をご覧ください。また、Windowsの新規インストールは、プリインストールOSよりも前のバージョンは使用しないでください。

5.2 CPU

本タブレットに搭載されているCPUで使用できる主な機能は、次のとおりです。

お使いのタブレット本体に搭載されているCPUの欄をご覧ください。

機能	インテル® Core™ i5-1145G7 プロセッサ	インテル® Core™ i3-1125G4 プロセッサ	インテル® Celeron® プロセッサ 6305
インテル® ターボ・ブースト・テクノロジー 2.0	○	○	×
インテル® ハイパースレディング・テクノロジー	○	○	×
インテル® バーチャライゼーション・テクノロジー	○	○	○

■ インテル® ターボ・ブースト・テクノロジー 2.0

インテル® ターボ・ブースト・テクノロジー 2.0は、従来のマルチコアの使用状況にあわせてCPUが処理能力を自動的に向上させる機能に加え、高負荷時にパフォーマンスを引き上げるように最適化された機能です。

POINT

- ▶ OSおよびアプリの動作状況や設置環境などにより処理能力は変わります。性能向上量は保証できません。

■ インテル® ハイパースレディング・テクノロジー

インテル® ハイパースレディング・テクノロジーは、OS上で物理的な1つのCPUコアを仮想的に2つのCPUのように見せることにより、1つのCPUコア内でプログラムの処理を同時に実行し、CPUの処理性能を向上させる機能です。複数のアプリを同時に使っている場合でも、処理をスムーズに行うことが可能です。

この機能はご購入時には有効に設定されています。設定はBIOSセットアップで変更できます。『BIOSセットアップメニュー一覧』の「詳細」メニューをご覧ください。

POINT

- ▶ OSおよびアプリの動作状況や設置環境などにより処理能力は変わります。性能向上量は保証できません。

■ インテル® バーチャライゼーション・テクノロジー

インテル® バーチャライゼーション・テクノロジーは、本機能をサポートするVMM（仮想マシンモニター）をインストールすることによって、仮想マシンの性能と安全性を向上させるための機能です。

この機能はご購入時には有効に設定されています。設定はBIOSセットアップで変更できます。『BIOSセットアップメニュー一覧』の「詳細」メニューをご覧ください。

5.3 ディスプレイ

5.3.1 シングル表示／拡張デスクトップ表示の解像度

タブレット本体の液晶ディスプレイまたは外部ディスプレイでの「シングル表示」、複数のディスプレイを使った「拡張デスクトップ表示」にしたときに、本製品が出力可能な解像度です。「拡張デスクトップ表示」にする場合は各ディスプレイごとに解像度を設定できます。

POINT

- ▶ お使いのディスプレイのマニュアルをご覧ください。表示可能な解像度を確認してください。発色数は「32ビット」（約1677万色）です。
- ▶ お使いのOSやディスプレイにより、表に記載のない解像度も選択可能な場合があります。

■ タブレット本体の液晶ディスプレイ

解像度	対応
1024×768	○
1280×720	○
1280×800	○
1280×1024	○
1360×768	○
1366×768	○
1440×900	○
1600×900	○
1680×1050	○
1920×1080	○

■ 外部ディスプレイ※

※ HDMI接続／USB Type-C接続

解像度	リフレッシュレート (Hz)	備考
1024×768	60	
1280×720	60	
1280×800	60	
1280×1024	60	
1360×768	60	
1366×768	60	
1440×900	60	
1600×900	60	
1600×1200	60	
1680×1050	60	
1920×1080	60	
1920×1200	60	
1920×1440	60	HDMI／Type-Cを使用する場合に表示可能
2560×1440	60	HDMI／Type-Cを使用する場合に表示可能
2560×1600	60	HDMI／Type-Cを使用する場合に表示可能
3840×2160	60 * / 30 **	* Type-Cを使用する場合に表示可能 **HDMIを使用する場合に表示可能
4096×2160	24	HDMIを使用する場合に表示可能

【表内の表記について】

HDMI : HDMI出力端子

Type-C : USB Type-Cコネクタ

5.3.2 クローン表示の解像度

「クローン表示」にする場合に設定可能な解像度は、お使いの外部ディスプレイが対応している解像度により異なります。

タブレット本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイが対応しているそれぞれの最大解像度のうち、小さい方の解像度が「クローン表示」で設定できる最大解像度になります。

POINT

- ▶ お使いのディスプレイのマニュアルをご覧になり、表示可能な解像度を確認してください。発色数は「32ビット」（約1677万色）です。
- ▶ お使いのOSやディスプレイにより、表に記載のない解像度も選択可能な場合があります。

■ タブレット本体の液晶ディスプレイ+外部ディスプレイ※

※ HDMI接続／USB Type-C接続

解像度	対応
1024×768	○
1280×720	○
1280×800	○
1280×1024	○
1360×768	○
1366×768	○
1440×900	○
1600×900	○
1680×1050	○
1920×1080	○

5.4 無線LAN

本タブレットに搭載されている無線LANの仕様は次のとおりです。

■ Intel(R) Wi-Fi 6 AX201 160MHz

項目	仕様	
無線LAN規格	IEEE 802.11a準拠、IEEE 802.11b準拠、IEEE 802.11g準拠、IEEE 802.11n準拠、IEEE 802.11ac準拠、IEEE 802.11ax準拠 (5GHz帯チャンネル：W52/W53/W56) (Wi-Fi®準拠 ^{注1} 、Wi-Fi CERTIFIED 6™準拠)	
転送レート	IEEE 802.11b準拠	11～1Mbps（自動切り替え）
	IEEE 802.11a準拠 IEEE 802.11g準拠	54～6Mbps（自動切り替え）
	IEEE 802.11n準拠	300～6Mbps（自動切り替え、HT20/40対応） ^{注2}
	IEEE 802.11ac準拠	1733～6Mbps（自動切り替え、VHT20/40/80/160対応） ^{注3}
	IEEE 802.11ax準拠	574～6Mbps（2.4GHz帯）（自動切り替え、HE20/40対応） 2402～6Mbps（5GHz帯）（自動切り替え、HE20/40/80/160対応） ^{注4}
セキュリティ ^{注5}	SSID（ネットワーク名） WEP（セキュリティキー（WEPキー）：64／128ビット） ^{注6} WPA-パーソナル（WPA-PSK）（TKIP/AES） WPA2-パーソナル（WPA2-PSK）（TKIP/AES） WPA-エンタープライズ（WPA）（EAP-TLS/PEAP(MSCHAPv2)）（TKIP/AES） WPA2-エンタープライズ（WPA2）（EAP-TLS/PEAP(MSCHAPv2)）（TKIP/AES） WPA3-パーソナル（WPA3-SAE）（AES） IEEE 802.1X（EAP-TLS/PEAP(MSCHAPv2)）	
使用周波数範囲	2,400MHz～2,483.5MHz 5,150MHz～5,340MHz 5,460MHz～5,760MHz	
チャンネル数 ^{注7}	IEEE 802.11b準拠 IEEE 802.11g準拠	1～13ch
	IEEE 802.11a準拠	W52（36/40/44/48ch）／W53（52/56/60/64ch）／ W56（100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140/144ch）
	IEEE 802.11n準拠 IEEE 802.11ax準拠	・ 2.4GHzモード 1～13ch ・ 5GHzモード W52（36/40/44/48ch）／W53（52/56/60/64ch）／ W56（100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140/144ch）
	IEEE 802.11ac準拠	W52（36/40/44/48ch）／W53（52/56/60/64ch）／ W56（100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140/144ch）

- 注1：Wi-Fi®準拠とは、無線LANの相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示します。
- 注2：・IEEE 802.11nではHT20/40に対応しています。HT40を利用するには、無線LANアクセスポイントもHT40に対応している必要があります。
・IEEE 802.11nを使用する際の無線LANアクセスポイントの設定で、HT40の機能を有効にする場合には、周囲の電波状況を確認して他の無線局に電波干渉を与えないことを事前に確認してください。万一、他の無線局において電波干渉が発生した場合には、ただちにHT40の機能を無効にしてください。
- 注3：・IEEE 802.11acではVHT20/40/80/160に対応しています。VHT80/160を利用するには、無線LANアクセスポイントもVHT80/160に対応している必要があります。
・IEEE 802.11acを使用するときの無線LANアクセスポイントの設定で、VHT40/80/160の機能を有効にする場合には、周囲の電波状況を確認して他の無線局に電波干渉を与えないことを事前に確認してください。万一、他の無線局において電波干渉が発生した場合には、ただちにVHT40/80/160の機能を無効にしてください。
- 注4：・IEEE 802.11axではHE20/40/80/160に対応しています。HE160を利用するには、無線LANアクセスポイントもHE160に対応している必要があります。
・IEEE 802.11axを使用するときの無線LANアクセスポイントの設定で、HE40/80/160の機能を有効にする場合には、周囲の電波状況を確認して他の無線局に電波干渉を与えないことを事前に確認してください。万一、他の無線局において電波干渉が発生した場合には、ただちにHE40/80/160の機能を無効にしてください。
- 注5：IEEE 802.11n、IEEE 802.11ac、IEEE 802.11axで接続するためには、パスメーズ（PSK）をAESに設定する必要があります。
- 注6：WEPによる暗号化は上記ビット数で行いますが、ユーザーが設定可能なビット数は固定長24ビットを引いた40ビット/104ビットです。
- 注7：このタブレットに搭載されている無線LANのIEEE 802.11bでは、無線チャンネルとしてチャンネル1～13を使用しています。無線LANアクセスポイントのチャンネルを、1～13の間で設定してください。設定方法については、無線LANアクセスポイントのマニュアルをご覧ください。

□ 5GHz帯のチャンネルについて

IEEE 802.11a/b/g/n/ac/ax準拠の無線LANを搭載した機種では、5GHzの周波数帯において、次のチャンネルを使用できます。

- W52：36（5,180MHz）/40（5,200MHz）/44（5,220MHz）/48（5,240MHz）
- W53：52（5,260MHz）/56（5,280MHz）/60（5,300MHz）/64（5,320MHz）
- W56：100（5,500MHz）/104（5,520MHz）/108（5,540MHz）/112（5,560MHz）/
116（5,580MHz）/120（5,600MHz）/124（5,620MHz）/128（5,640MHz）/
132（5,660MHz）/136（5,680MHz）/140（5,700MHz）/144（5,720MHz）

5GHz帯を使用する場合は、上記チャンネルを利用できる無線LAN製品とのみ通信が可能です。

ARROWS Tab
Q7311/JB
Q7311/JE

製品ガイド（機種別編）
B6FK-8111-01 Z0-04

発行日 2022年6月

発行責任 富士通株式会社

〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。